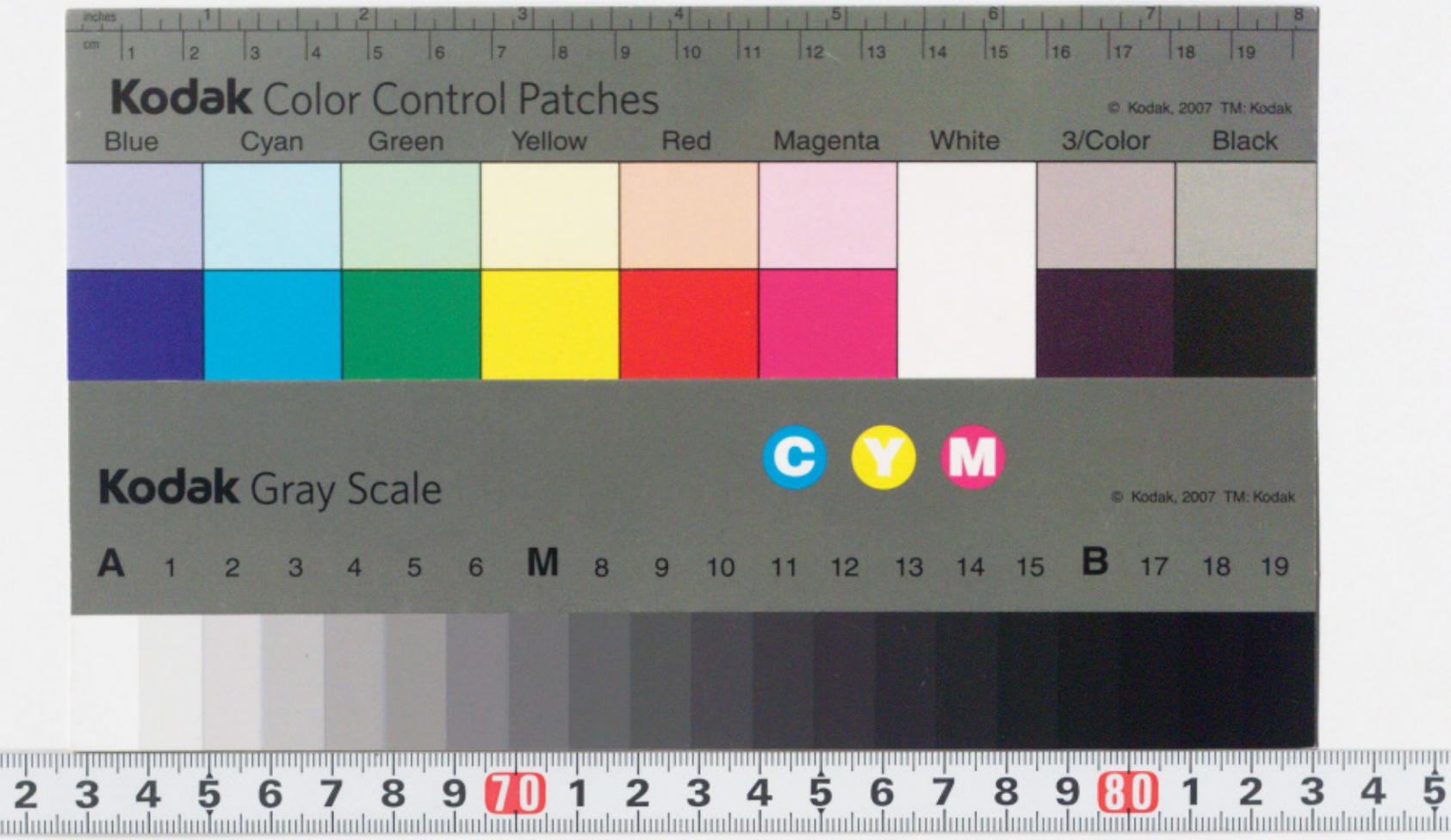
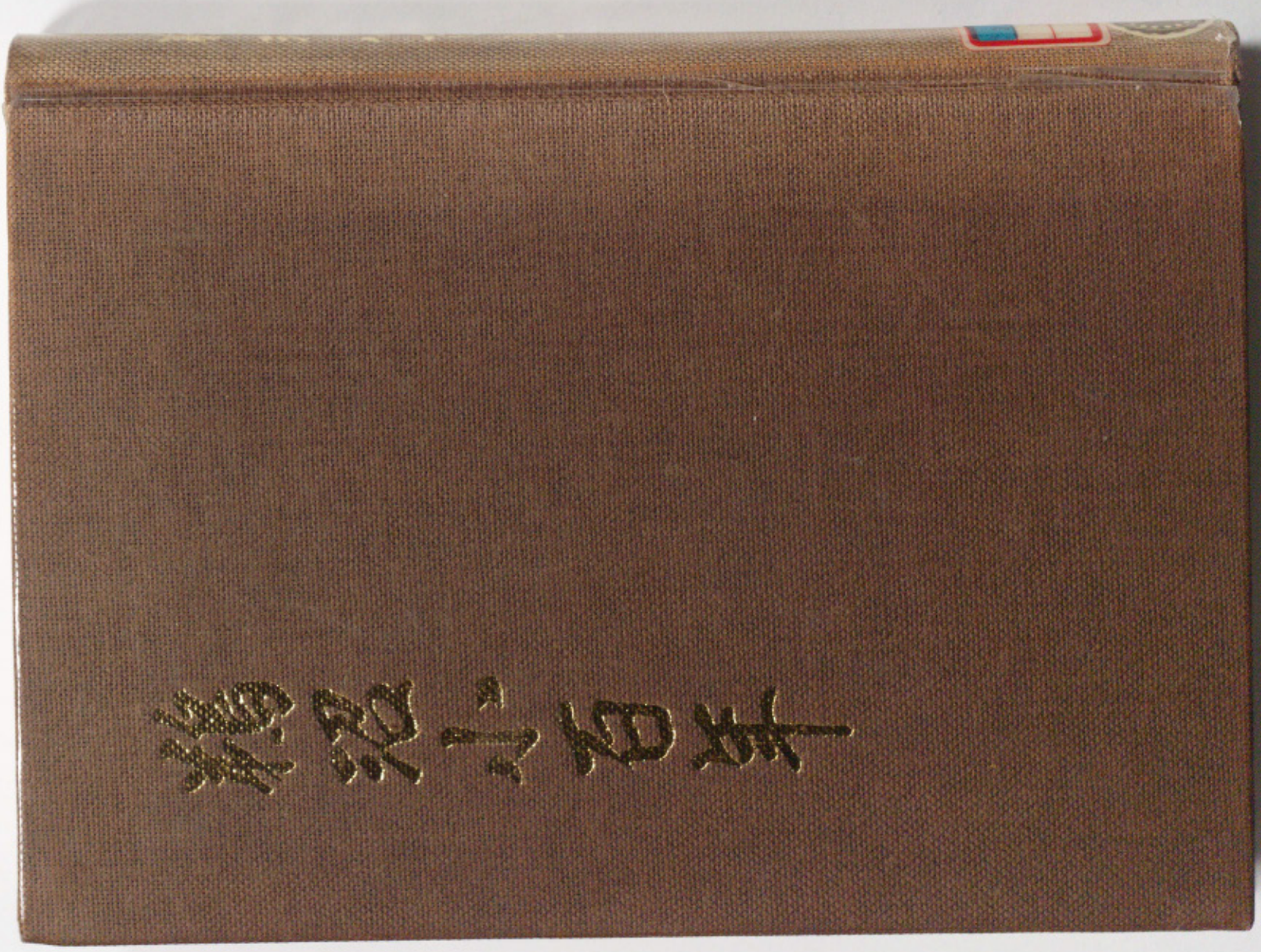
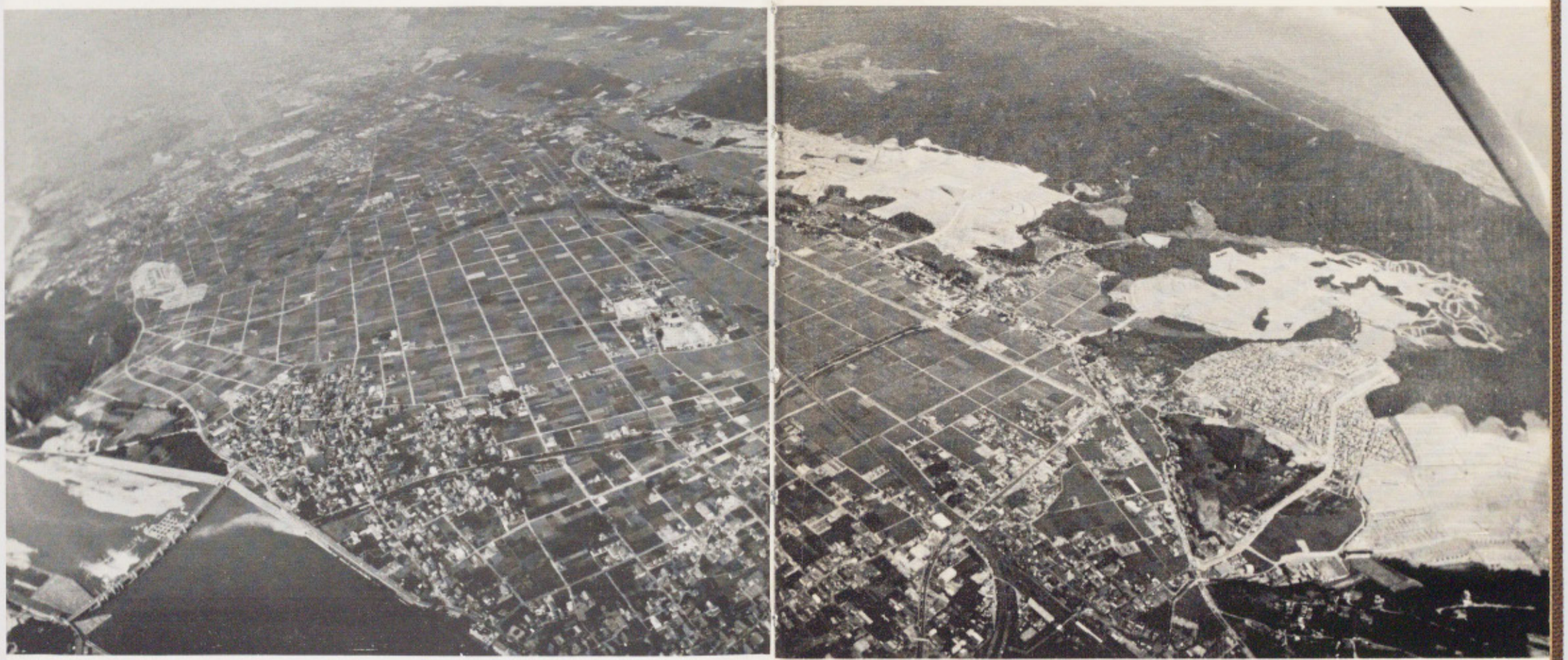

Kodak Color Control Patches
© Kodak, 2007 TM: Kodak
Blue
Cyan
Green
Yellow
Red
Magenta
White
3/Color
Black
Kodak Gray Scale
C
Y
M
© Kodak, 2007 TM: Kodak
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



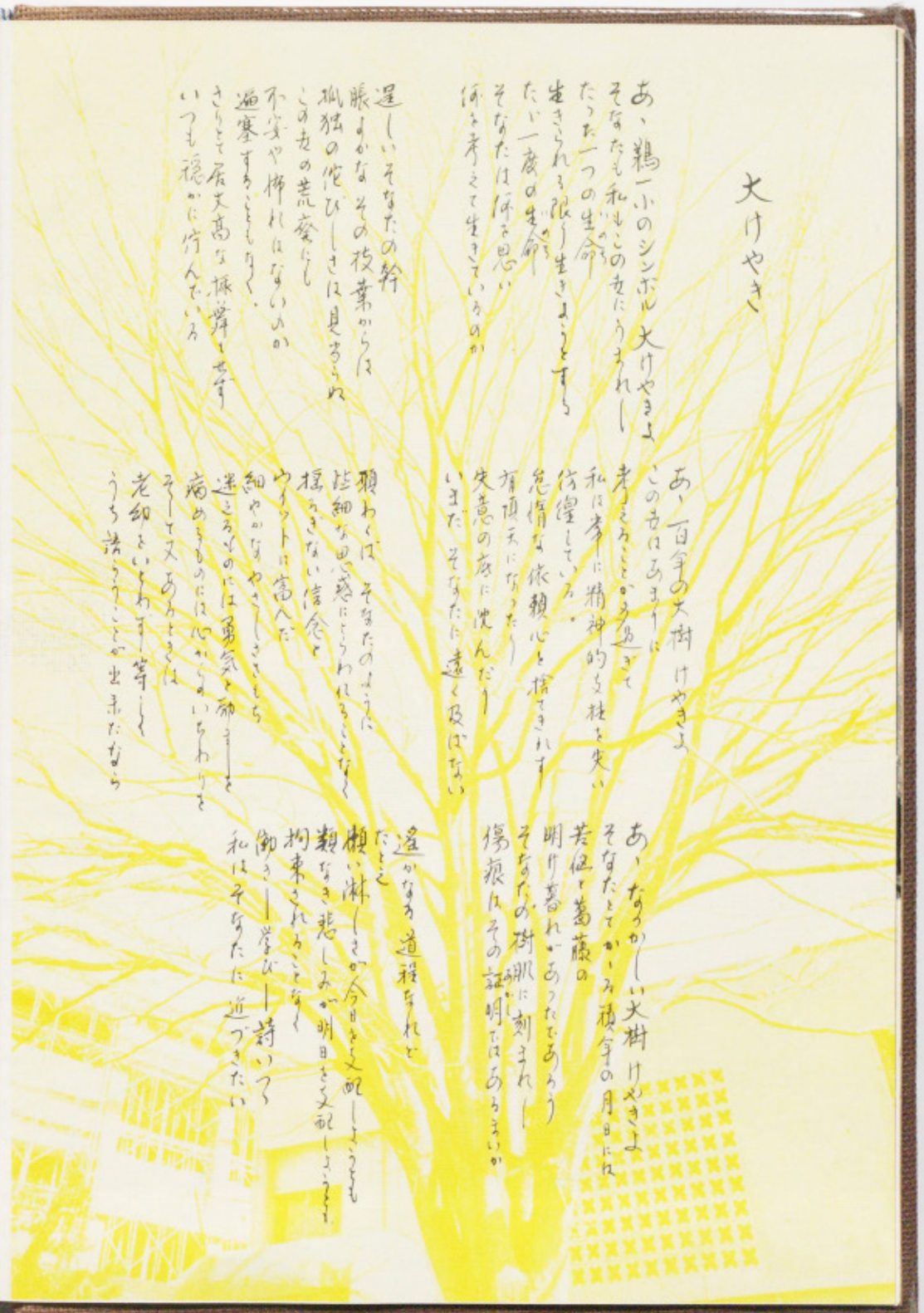
鵜沼小百年

鵜沼小創立百周年記念事業推進委員会



開発の進む鵜沼校下の展望

空から見た学校周辺の景観



「鵜沼小百年」発刊によせて

鵜沼小創立百周年記念事業推進委員会

会長　三善一之進

鵜沼小創立百周年記念事業推進委員会が、去る昭和四十六年十一月に誕生し、その会長に就任以来、皆様方のご協力のもとに、四つの委員会の活動を進めてまいりました。既に資料館は、既設の建物を利用して一応完成し、その内容の充実を計る段階にきており、併せてここに「鵜沼小百年」が立派に完成いたしました。皆様とともに、まことに欣快に堪えません。

ご周知のとおり、鵜沼小学校が創設されましたのは、明治五年学制が発布された翌年、即ち明治六年二月八日で、今の西町に新々義校として開校され、以来一世紀、幾多の変遷を経て今日に至りました。

この間、鵜沼小学校は沿革誌にもみられますように、北校・南校の設置以来、濃飛大震災のため、殆んど壊滅の状態となったのですが、藩政以来の文教奨励の気風にならい、明治三十七年現在地に建築以来、尽きることのない木曽の清流とともに、その姿こそ時代の進展に合わせながら変容させ、文化の香り高い学舎として、長い伝統と歴史を作りつつ今日に至っているのであります。

この私たちの鵜沼小の学舎からは、広く政界に、産業界に、また教育界等に幾多の人材を送り出し、それぞれの立場で広く社会のために貢献されていることは、私たちの大きな誇りとするところであります。

ここに創立百周年を迎え、第三期の近代設備を誇る校舎建築も完了し、近く体育館の建築も着工の予定で、その完成を機会に百周年の記念式典も実施することになっております。

幸い一世紀にわたる日本の発展とともに歩いてきた鵜沼小百年の歩みを回顧し、ここに百年誌を編纂することができました。温故知新、一万余名と言われます私たち先輩の着実に築きあげてこられました鵜沼小の歴史と伝統を学び更に明日への飛躍と充実のための礎となることを確信するものであります。

長期にわたり本誌発刊のために、ご尽力いただきました関係者、百周年編集委員会の委員等の皆様をはじめ、貴重な資料提供、玉稿をお寄せいただきました皆様方に、深甚なる謝意と敬意を表する次第であります。広くご愛読、ご活用いただけますならば、本誌発刊の意義はいっそう高められるものと信じます。

ごあいさつ

各務原市立鵜沼第一小学校校長　西垣勇造

百年前、私たちの先達は、日本の歴史の変革期に当り、勇気と英断をもって新しい時代の扉を開きました。「邑（むら）に不学の戸なく、家に不学の人なからしめん。」ことを期して学制が発布されて以来、教育の普及と充実のため、たゆまざる努力を重ねて今日に至りました。

鵜沼第一小学校創立百周年を記念するに当って、今改めてわが郷土、鵜沼の歴史を回顧する中で、この郷土と共に生成発展してきた本校百年のあゆみに、尊い伝統の重みを感ぜずにはおられません。

豊かな木曽の流れと中山道の宿場町として、交通・経済・文化のめぐみに接してきた鵜沼の町は、いつの時代においても地域社会の先進地として栄えてきました。このことがやがて、鵜沼の人たちが郷土を愛し、文化を大切にし、教育を重視し、学校を大切にする土壌を作ってきたものだと思います。そして、この土壌こそ正に伝統に生き伝統を生み出す土壌であって、今日創立百周年を記念するのも、これに一つの契機を与えようとするにほかありません。

かえりみて、本校百年のあゆみを振りかえってみる時、校名は幾度かかわっても、各界に大きく活躍する幾多の人材を出し、地域社会の教育推進の中心として、立派に役割を果してきました。そしてその間、教育環境の整備・刷新に常に意を用い県下の先達として活躍しました。

本校が今日ありますことは、こうした伝統の中に、その時々のご当局のご高配はもとより、歴代の先輩教職員、幾多の地域先人のご協力・ご後援と共に、本校の歴史の一駒一駒を担っていただきました卒業生各位のご努力の賜であります。そしてそれと共に、校歌の一節「流るる木曽の水清く、歴史して、ここに深甚の敬意と感謝を捧げるものであります。そしてそれと共に、校歌の一節「流るる木曽の水清く、歴史にかおるわが里の日々に新たに栄えゆく、高きほまれを受けつがん……。」

私たち現職員は、この輝かしい伝統を今の子ども、そしてこれからこの学び舎にはいってくるであろう幾百幾千の子どもたちの心に体に、新しい息ぶきとして伝えることは、私たちに課せられた大切な仕事であると信じています。

私たちは創立百周年記念の年にめぐりあわせたことを、終生の光栄に思うと共に、職員一同微力ながらも今後一層の努力を捧げたいと念願している次第であります。

「創立百周年を祝して」

各務原市長　平野喜八郎

鵜沼小学校百周年記念事業の一つとして、記念誌を発刊されるに当り、貴校の輝かしい歴史とそのご発展に対して心からお祝い申し上げます。

今日、行政機構の充実と国をあげての教育に対する関心の高まりによって、教育の諸条件は飛躍的にととのいつつあり、時あたかも第三の教育改革が論じられ、特に人間尊重の精神を根底に豊かな個性の伸長と文化の創造をめざして、積極的な努力が望まれる時だけに、一層教育行政に意を注ぎ教育施策推進に力を注ぎたいと思っております。

この時に当り、校史が示すように明治六年二月新々義校として創立以来、貴校は明治・大正・昭和と三代に亘り幾多の変遷を重ねながら発展の一途をたどってまいりました。

この間、今日まで有為な人材を数限りなく送り出し、それらの方々が国内各地に活躍され、多大の貢献をされていることを知って、誠にたのもしく心強く思っている次第であります。

このたび、校下の皆さんと卒業生の方々が、一丸となってこの記念事業を遂行されますことは、誠に意義深いことで、このことは関係各位は勿論のこと、これからの子どもたちの心に深く生き続けていくと共に、貴校の一層の発展が期待されるものと信じます。

創立百周年記念誌発刊に当り、ひとこともってお祝いの言葉といたします。

創立百年誌の発刊を祝す

各務原市教育長　水口一也

明治・それは近代日本の夜明けであり、日本の歴史の中でも、最も激動の時代でありました。維新を契機とし新政府の目は外にむけられたが、その目で己れをみれば、そこにあるものは西欧文化に比して如何にも多くのたちおくれの目立つ日本の姿でありました。そこで、これに追いつけ追い越せというので、第一の英断を下したのが明治五年の学制発布であります。

本校は、鵜沼地区において明治六年二月、いち早く新々義校として創設され、再来、沿革史にみられるような校名、校地の変遷を経て今日の輝やかしい百年の歴史ある伝統を築きあげられたのであります。しかし、開設当時の先達の苦労は、義校の名称が示すように、費用の凡てはその土地の人達の義金によってまかなったもので、当時の苦しい生活の中で有志の寄附金とか戸数割当や、授業料でまかなったものであります。所によっては、当時の働き手である子供を学校にとられて、いったい子守は誰がするのか、など反対運動すら起ったといいます。この校下の人々が、この苦難をのり越えて、学校を建設し、新らしい文化を吸収した教育文化への情熱はついに今日の鵜沼第一小学校の伝統を築き上げられたのであります。

その間、多数の人材を育て上げられて、今日各界に活躍されておりますことは、本校の誇りであります。たまたま百周年を迎えた今日、学校も鉄筋の永久建物に改築されました。同窓会の皆さんが百周年記念事業を計画され、その特別の御配意による放送施設をはじめ教育機器、資料館など、名実ともに内容の充実した近代的校舎・施設・設備の完備した学校として新出発いたしたのであります。

この学校に学ぶ子供たちは誠に幸だと思います。今日は教育爆発時代といわれ、維新の学制発布、終戦後の民主教育に次いで第三の教育改革に迫られている日本であります。

新らしい時代、二十一世紀に生きる人間教育へと改革は着々と進められんとしているとき、教育文化への情熱と努力を惜しまなかった当地の先達のこの伝統は、今も脈々とうけつがれ、茲に百周年記念式典が盛大に挙行され、記念誌が発刊されます事は誠に意義深いものがあると思います。

百年誌編集担当の皆さんの御労苦に深い敬意を表するとともに、この輝やかしい歴史ある伝統は、さらにこの新らしい学園にうけつがれて一層の発展をお祈りして御祝いの詞といたします。

「お祝いのことば」

衆議員議員　武藤嘉文

我が国の教育制度の出発点は、明治五年の「学制」の発布であり、教育諸法規はいくらかの例外を除いて勅令をもって定められていました。また、教育の指導理念は、教育勅語に淵源を求め実践されてきたと思います。

我が母校、鵜沼第一小学校も、初等教育が寺小屋から小学校制度に改革されたのと殆んど時期を同じくして設立され、岐阜県でも屈指の古い歴史をもつ学校であり、その伝統と歴史は、我が国初等教育の歴史の縮図とも言えましょう。そして移りゆく年々歳々の世相を生長のすべての段階に映じ乍ら今日にきているわけです。

こうした意味で、鵜沼第一小学校創立百周年記念に当り、百周年誌を発刊されますことは、誠に意義のある企画であり心から感謝し、衷心よりお祝い申し上げる次第であります。

幸い郷土鵜沼は、濃飛平野、各務原台地の東部の一角に位置し、しかも木曽の清流と北方の緑濃い山並に囲まれ、昔から中仙道の一宿場として栄え、文化的にも由緒ある町として栄えてきました。そうした中にあって、母校も開校以来歴代校長はじめ諸先生に人を得られたため、学校のシンボルとも言うべきけやきの木とともに力強く逞しく堅実な人づくりがされ、現在では一万有余の有為な人材を各界に送り出していることは、誠にたのもしく心強い限りであります。

昨今、鵜沼地区は住宅団地の開発によって以前からの自然の環境が失われつつありますが、経済成長オンリーでなく、真に郷土を愛する意味で自然環境の保全に努め、よき郷土の歴史と気風を守り、その上に新しい時代の在り方を加味しつつ、より明るい楽しい街づくりをしていかなくてはならないと考えています。こうした点からも今回の百周年誌の発刊は、郷土を愛し、学校を愛する情熱の発露であり、誠に喜ばしく深厚な感謝を捧げたいと存じます。

私も微力ではありますが「人造り」「街づくり」には更に渾身の努力をする所存であります。

輝かしい校歴をもつ鵜沼第一小学校の隆昌と、郷土鵜沼の一層の飛躍を念じ、所感の一端を述べ、お祝いのことばといたします。

目次

「鵜沼小百年」発刊によせて
ごあいさつ
創立百周年を祝して
創立百年誌の発刊を祝す
お祝いのことば

明治時代

鵜沼小創立百周年記念事業委員会々長　三善　一之進
各務原市立鵜沼第一小学校々長　西垣　勇造
各務原市々長　平野　喜八郎
各務原市教育長　水口　一也
衆議院議員　武藤　嘉文
明治時代の学校長
明治の歩み……2
明治卒業生座談会……30
特別寄稿「けやき(の木)は語る」……栗木　謙二……36
卒業生寄稿
片桐　綱男・39　大沢　ちよ・40
野入　くわ・42　竹山　ゆきゑ・43　保浦　仲一・41　大岩　静雄・45
明治時代(三ッ池分校)卒業生座談会……49
卒業生寄稿
竹山　誠一・52　吉田　薫田　薫・57　金蔵・53　土屋　幸治・54
大竹　ふみを・61　加藤　国雄・61　小林　義雄・62
奈良村　寛一・63　五島　藤光・66　林　平三・68
竹山　匡一・70　保浦　屋寿・71
第二校下明治時代卒業生座談会……73
第一校下明治・大正時代卒業生座談会……78
特別寄稿「努力」……京都大学教授……広江　美之助……86

大正時代

大正時代の学校長
大正の歩み……91
第一校下大正時代卒業生座談会……93
卒業生寄稿
可児　はま子・101　石黒　三郎・101
伊藤　徳男・105　大森　艶子・106　山田　忠美・107　板津　勉・103
石黒　三郎・108　桜井　覚衛・111　伊藤　久行・111
木野　忠男・112　中村　けん・113
第二校下卒業生座談会(大正・昭和)……115
卒業生寄稿
石黒　紀人・124　大竹　兼久・126　大沢　波夫・126
桜井　一枝・130
第二校下卒業生座談会(大正・昭和)……131
恩師のたより……野村　義一……145
昭和の歴代校長写真
昭和の歩み……150
第一校下昭和前期卒業生座談会……152
恩師のたより……野村　宗男……158
〃……堀　重教……159

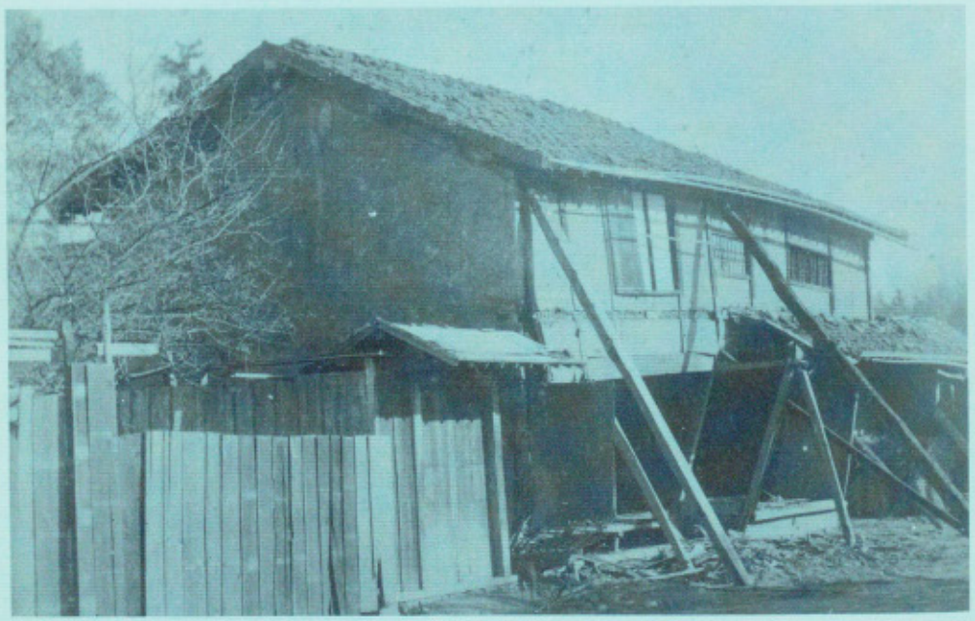
昭和前期

卒業生寄稿
佐々木　賢韶・161　中島　しま子・163
梅田　卓夫・165　永田　義孝・167　桜井　忠行・164
阿部　源治・170　薫田　源市・171　林　承天・168
足立　国雄・174　阿部　元一・175　伊藤　功・172
榊原　巨・177

昭和後期

加藤　救夫・178　中田　寿子・179
大栗　昭二・181　山本　市郎・184　横山　芳己・180
岩城　潔子・189　土屋　俊郎・190　由良　逸雄・186
古池　寿郎・194　松岡　武・195　中村　美智子・192
勝野　ます子・199　吉田　せつ子・201　山田　郁夫・196
各務原分教場卒業生の座談会……202
昭和歴代校長写真
昭和後期の歩み……213
鵜沼第二小学校沿革誌抜粋……214
昭和後期卒業生座談会……222
恩師からのたより……227　下川　錦一
〃……229　松野　義人
〃……229　宮脇　健市
卒業生寄稿
大栗　清代・235　片桐　玉江・236
榊原　美智子・239　小林　孝・240　大栗　林
安田　新作・243　阿部　通知・244　山本　ひろみ・245
浅野　加寸美・247　渡辺　治・250　大栗　英夫・250
伊藤　正史・252　橋本　毅・253　山田　久美・254　宣幸・237
終戦後の卒業生座談会……256
卒業生寄稿
浦　みどり・263　渡辺　由起美・263
吉田　弘幸・265　徳重　浩・265　若尾　勇夫・264
在校生作文……266
渡辺　由起代・266　古池　真美・268　木下　一代・269
大葉　とき代・270　しばたあや子・271　やまぐちしげゆき・272
昭和四十八年度・学校の現況……274
現職員座談会……287
本校勤務の旧職員名簿……299
歴代PTA会長写真……309
育友会・PTAの歩み……311
会長のことば……323
PTA企画委員会名簿……324　PTA会長　稲垣　好夫
鵜沼の歩み……325
鵜沼の年表……328
百周年記念事業委員会名簿……333
特別委員会名簿……336
百周年事業の歩みと編集を終えて……特別委員会委員長・武藤　健一……337
編集にたずさわって……338
編集後記……百周年誌委員会委員長　山田　武一……340

明治時代

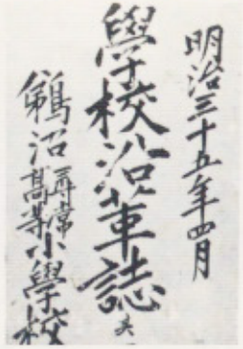


濃尾震災時の北校校舎

明治の歩み

鵜沼小学校の沿革誌の第一頁に

石田幸彦

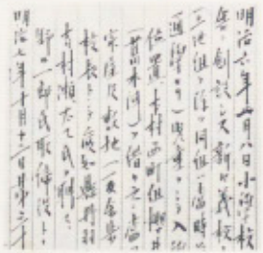


鵜沼小沿革誌(1)

我校ノ沿革誌ヲ歓クコト久シ。故ニ之ヲ調製シ、一ハ以テ我校ノ沿革ヲ知リ、一ハ以テ本県法令ノ定ムルコトノ設備ニソワントシ、其ノ念ヲ抱懐スルコト数年、依テ学校ノ書類ト村役場ノ記録トヲ捜索、考査スルモ往々、明治二十四年ノ大地震ハ本村、殊ニ劇甚ニシテ、南北学校及ビ村役場ハ共ニソノ厄ヲ蒙リ、為メニ記録ノ類モ泥土ニ委棄セラレタリ。故ニ之ガ考察ハ校下父兄ノ記述ト口傳トニヨラザル可カラズ。然ルニ創設ノ当時、世ニ未ダ学校ニ重ヲ望マズ。

当時、関係ノ人ハ既ニ故人トナラレタルモノ其半ニ達シ、正確ノ調査ト明細ノ記述トテナスコト能ハズ。之レ其ノ念ヲ抱懐スルノミニシテ調製ヲ得ザラン所以ナリ。

然ルニ今、茲三月、稿ヲ起シ、其梗概ヲ記述シ、其責ヲ塞グコトトナセリ。



沿革誌第一頁

素ヨリ考証ノ記録書類ナリ。重ニ校下父兄ノ口傳ニ依リタルモノナレド杜撰、粗漏ハ言ヲマタザルナリ。

明治三十五年六月記、とある。記載者は不詳であるが、その苦心と努力に対し、深甚なる敬意を表したい。

以下その記述を繙けば

明治六年（一八七三）二月八日、小学校令ニヨリ新々舎ヲ創設ス。新々義校トモ称ス。本村児童ヲシテ入学セシム。主者ハ阿部源市。位置、本村西町組、桜井吉兵衛氏宅、（旧本陣）ヲ借リ之ニ当ツ。師者三名、児童ハ男子一二七、女子二十五名。校長トシテ愛知県丹羽郡犬山町ノ儒者、村瀬太乙氏ヲ聘ス。

明治七年、戸田幸一郎氏校長トナル、亦、野口一郎氏取締役トナル。

明治七年（一八七四）十月十二日、第三十番中学区ヘノ報告左ノ如シ。

設立当時の北校跡

明治時代の学校長

創立
新々義校
明治6.2.8
↓
鵜沼尋常小学校
明治27.8.20
↓
鵜沼尋常高等小学校
明治29.8.31
↓
鵜沼国民学校
昭和16.4.1
↓
町立
鵜沼第一小学校
昭和24.4.1
↓
市立
鵜沼第一小学校
昭和38.4.1

初代　村瀬太乙
二代　戸田幸一郎
三代　田口（不明）
四代　目崎（不明）
五代　後藤益江
六代　村上義典
七代　吉田需
八代　村上吉太郎
九代　佐藤譲
一〇代　岩田繁吉郎
一一代　木村庫三
一二代　大槁茂樹
一三代　大熊正直
一四代　横江秀
一五代　戸倉清五郎
（以下右の写真による）
一六代　長尾敬之
一七代　野口泰三

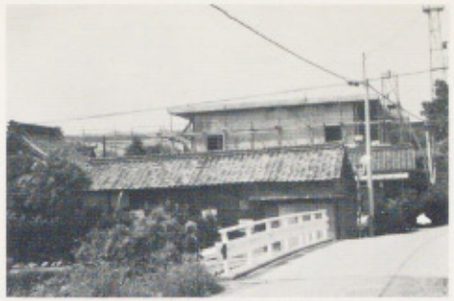
第19代　山岡　清校長

第18代　伊藤幸太郎校長

第三十番中学区
第四十三番小学新々義校下
満六才以上十三才以下人員百五十八人
就学児童百五十八人　男子　百二十七人
女子　三十一人
不就学児童四百三十二人　男子　百九十四人
女子　二百三十八人

明治八年（一八七五）九月学校ノ位置一方に偏シ、且ツ狭隘トニヨリ南北ノ両校ニ分立スルコトトシ、本村古市場組ニ南校ヲ創設シ、大伊木・小伊木・古市場・南町・宝積寺ノ五組ノ児童ヲシテ此処ニ入学セシム。

明治十九年四月（一八八六）改正小学校令ニヨリ、尋常科及ビ簡易科ノ両科ヲ併置ス。校名ヲ鵜沼北尋常小学校、鵜沼南尋常小学校ト改ム。


南校のあった現在地

鵜沼北校ハ明治二十四年十月二十八日ノ濃尾大地震ニヨリ、被害殊ニ甚シク、幸ニ死傷者ヲ出サザリシモ、器具ハ悉ク破壊。帳簿記録ノ類ハ殆ンド泥土中ニ委棄セラル。

休業スルコト一ヶ月、佐藤譲校長ノ宅ヲ假校舎トシ、二ヶ月ニシテ懸長助氏方ニ移リ、更ニ一ヶ月後、林権右衛門氏方ニ移転セリ。

校舎新築ノ件ハ焦眉ノ急ニ迫レリ。国庫ヨリ校舎建築補助費トシテ、金一千円ヲ南北両校ニ下附セラル。此ノ機ニ至リ、南北両校ヲ合シ、中央適当ノ場所ニ一校ヲ建設スルガ得策ナリト云フ論者アリ。亦、両校説ヲ固執スル論者モアリ。衆議紛出ス。

明治二十五年（一八九二）本県知事、一校説ノ可ヲ賛セラレ、一校トナスコトニ決ス。

鵜沼南校ハ北校ト同ジク、災害ヲ蒙リ、林辰次郎氏方ヲ以テ仮校舎ニ当テ、後ニ小林又治郎氏宅ニ移リ、終ニ合併ノ時ニ及ベリ。

明治二十六年（一八九三）一月一日、御聖影ヲ奉戴ス。校舎ナキヲ以ッテ、野口一郎氏（東町組）新築宅ニ於テ挙式、奉置所ヲ南宮神社ト定ム。

曩キニ一校説ト決シタルモ、位置ニ於テ異論続出、帰スルトコロヲ知ラズ。然ルニ漸クシテ位置ヲ現今ノ西町組字向畑ト決定シ、明治二十六年（一八九三）十一月起工、翌二十七年五月竣工ス。

敷地　七百七十六坪
教室　百十二坪
廊下　五十七坪
その他　百十二坪

工費総額　二千余円
学級数　尋常科四　補習科一とある。

現在、当時の写真、文献、資料等何一つ残っていないことは誠に残念である。しかし、明治五年、「自今一般人民（華、士族、農工商及婦女子）必ず邑に不学の戸なく、家に不学の人なからしめん事を期す」云々の大政官布告の翌年、本校の黎明を知ることが出来る。

明治二十七年以降の沿革誌によれば、

明治二十七年四月十五日、校舎起工式ヲ挙行ス。本郡々長、濱口直澄氏外多数臨席セラレ、烟火、投餅、角力等ノ余興アリ。

○五月一日、南北両校ヨリ児童ヲ新校舎ニ集メ開校ス。
学級数、尋常科四、補習科一。
経費総額　金四百二十二円拾銭。

○五月二十一日、学校長、大熊正直氏、本県武儀郡小金田尋常高等小学校長ニ転任セラレタリ。

○八月一日、愛知県犬山町、横山秀、学校長トシテ赴任セラル。

○八月二十日　鵜沼尋常小学校ト改称の件、許可セラル。

明治二十八年度
学級数　尋常科四　補習科一
経費総額　金四百八十六円三十八銭

○五月、戦争講和条約成ル。
学校長、横山秀

明治二十九年度
学級数　尋常科五、補習科一。
高等科設立ノ後、補習科ヲ高等科、一トナス。
経費総額　金九百八十三円八十七銭八厘

○四月二十日　本県不破郡垂井尋常高等小学校ヨリ、戸倉清五郎氏、訓導兼校長トシテ赴任

○五月十二日　本県、尋常師範学校長、多和田豊吉氏巡視セラル。

○六月十七日　高等小学校設置ノ件、許可セラル。修業年限四ヶ年。

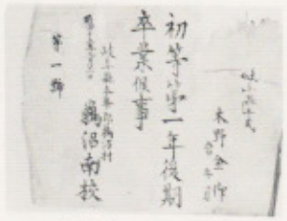
○八月十七日　高等科設立等ノ為メ、校舎狭隘ノ為メ、二階建教室一棟ヲ建築スルコトトナリ、起工ス。

○八月三十一日　非常ナ暴風雨ノ為メ倒潰。明治三十年三月二十九日落成式を挙行ス。
総坪　七十八坪半・教室　六十九坪・廊下　九坪半。

○八月三十一日　高等科併置ヲ許可セラル。

○一月十二日　英照皇太后陛下御崩御ニ付キ五日間休業ス。

○三月二十九日　證書授与式ヲ兼ネテ、校下一般ニ寄附


南校第一号卒業証書

金七十余円ヲ募リ、風琴、理科器械等ヲ購入セシ披露ヲナス。

明治三十年度
学級数　尋常科六、高等科一。
経費総額　八百四十九円七十六銭
○四月三十日　学校長、戸倉清五郎氏病気休職トナル。
○五月二十七日　本県岐阜市徹明小学校ヨリ長尾敏之氏訓導兼校長トシテ赴任ス。

明治三十一年度
学級数　尋常科六、高等科二。
○三月十八日　校長、長尾敏之氏、益田郡下原小学校ニ転任セラル。
○三月二十四日　卒業証書授与式ヲ挙行、初メテ高等科卒業児童ヲ出ス。

明治三十二年度
学級数　尋常科五、高等科一。
経費総額　九百六十三円六十三銭。
○四月八日　本県不破郡垂井尋常高等小学校長、野口泰三氏学校長ニ任ゼラル。
○七月十七日　各国ト対等条約締結セラレ、実施ノ日ニ付キ午後休業、祝意ヲ表ス。

明治三十三年度
学級数　尋常科五、高等科二。
経費総額　金一千三百四十六円三十九銭。
○五月十日　東宮殿下、御婚儀ノ大典ヲ挙行セラルルニヨリ、奉祝式ヲ挙行ス。当日、記念切手発行アリ。
○九月二十七日　伊藤幸次郎氏、校長ニ任ゼラル。
○十二月八日　事務室移転及湯沸所新築ニ着手ス。其工事費ヲ減ズル為、各児童ヨリ、竹一本、又ハ、縄二把、又ハ、藁一束ノ寄附ヲ、勧誘ス。

明治三十四年度
学級数　尋常科六、高等科三。
経費総額　金一千三百七十円三十四銭
村長　阿部　有三
校長　伊藤幸次郎
○二月十七日十八日ノ両日　教育幻燈会ヲ開ク。

明治三十五年度
学級数　尋常科六、高等科三。
経費総額　金一千五百八十円四十八銭
○四月二十二日・二十三日　高等科児童本県不破郡垂井町及安八郡大垣町地方ニ、修学旅行ヲ

ス。
○明治三十六年三月二十六日　卒業修業証書授与式挙行ス。
○明治三十六年三月一日ヨリ七月三十一日マデ　大阪市ニ於テ、第五回国内勧業博覧会開会ス。

明治三十六年度
学級数　尋常科六、高等科三。
経費総額　金一千六百四十六円四十銭
内、教育経費　金一千四百四十円
○六月二十日　本校に、鵜沼裁縫専修学校附設ノ件、認可セラル。
○四月二十三日　高等科児童七十八名、職員五名、本県土岐郡多治見町地方ニ、一泊修学旅行ヲ挙行ス。
○十月三十一日　各務野ニ於テ、本校及前宮、三ッ池、各務、蘇原ノ、五校連合運動会ヲ挙行ス。
○二月四日　運動機具新調ノ為、校下有志ノ寄附ヲ、勧誘セシニ、総額二十四円三十銭ヲ得、木馬、鉄棒、フットボール、ロンテニス四種ヲ、購入ス。村長阿部有三氏、専ラ其労ヲトラル。
○二月十一日　露国ト宣戦ノ詔勅ヲ喚発セラル。
○二月二十五日　軍資金トシテ、金四十一円九十四銭ヲ、児童、職員ヨリ献納ス。
○三月二十五日　卒業証書授与式ヲ挙行ス。学業ノ優等、操行ノ善良ナル児童ニ、(尋常科六名、高等科二名)本郡長ヨリ賞与アリ。
○三月二十八日　学校長伊藤幸次郎多年教育ニ、従事シ功労顕著ナルニヨリ、金二十円ヲ、本県知事ヨリ賞賜セラル。

明治三十七年度
学級数　尋常科五、高等科二。
経費総額　金一千二百四十三円四銭。
○前古未曾有ノ時局ニ際シ、町村税ハ　其徴収ニ制限ヲ置カレシヲ以テ、厄ムヲ得ズ、学級二ヲ減ジ、附設裁縫専修学校ヲ廃止スルコトトナセリ。
○一月二日　旅順ノ要塞主将ステッセル、力尽キ、開城トナル。
○一月十四日　旅順口陥落ノ祝捷式ヲ挙行シ、記念樹ヲ栽植ス。
○三月二十五日　卒業証書授与式ヲ挙行ス。

明治三十八年度
学級数　尋常科五、高等科三。

経費総額　金一千三百七十円三十四銭
○本年ハ、露国トノ戦争ハ打続キタルモ、三月ニ奉天ノ大会戦、五月ニ日本海ノ大海戦共ニ、空前ノ大捷ヲ獲、敵ニ殆ンド致命ノ傷ヲ与エタリ。米国大統領ノ忠告ニヨリ、両国ノ全権講和委員ハ、米国ポーツマスニ会議シ、十月講和条約批准交換アリ。漸ク戦後経営ノ時機ニ入レリ。
○十月十六日　露国トノ平和条約発表セラル。
○十月二十八日　三ッ池及前営ノ両校ト連合シ、各務野ニ於テ、運動会ヲ挙行ス。
○三月二十六日　卒業証書授与式ヲ挙行ス。

明治三十九年度
学級数　尋常科五、高等科三。
経費総額　金一千五百十四円三十二銭
○四月七日　日露戦後凱旋祝典挙行、本校児童一同国旗行列ニ参列ス。
○五月八日　高等科児童名古屋市地方ヘ修学旅行ヲシタリ。
○二月二十一日　本校々長伊藤幸次郎氏、愛知県ヘ出向ヲ命ゼラル。山岡清氏本校々長ニ任命セラル。
○三月二十五日　卒業証書及修業証書授与式ヲ挙行ス。

明治四十年度
○日露戦争大捷ノ効果ハ、国力ノ発展トナリ、又、我教育界刷新ノ機運ヲ向上、明治四十年、小学校令ヲ改正セラレタリ。義務教育ノ年限ヲ、六ヶ年ニ延長シ、明治四十一年施行スルニアリ、故ニ、本年度ハ諸般ノ準備ノ時機ニ属スルモ、本校ハ、従来尋常高等併置ノ学校タルヲ以ッテ、幸ニ困難ヲ感ゼサリキ。サレドモ、就学児童ノ増加ハ、教室ノ不足ヲ訴フルヲ以ッテ、校舎増築ノ計画ヲナシタリ。而シテ、時世ノ要求ハ、学校内ノ教育ノミヲ以テ、満足スベカラザルヲ以テ、或ハ、農業補習学校ヲ、附設シテ、農業ニ従事セントスル者ニ、其職業ニ必要ナル知識、技能ヲ授ケ、同時ニ普通教育ノ補習ヲ為シ、或ハ、裁縫専修学校ヲ再興シテ、女子ニ、普通裁縫ヲ授ケ、兼テ、女子ノ徳性ヲ、涵養シ、或ハ通俗教育講談会、父兄懇談会ヲ、開催シテ、父兄ノ向学心ヲ、喚起シ、風教ノ改善ヲ謀ル等。総テ、本村ノ教育的空気ヲ、濃厚ニスルコトヲ、勉メタリ。
学級数　尋常科六、高等科三。
経費総額　金一千六百二十円六十五銭
○五月三～四日　高等科児童ハ、岐阜地方ヘ、修学旅行ヲスル。
○五月二十二日　本校ニ、鵜沼裁縫専修学校附設ノ件、認可セラル。

教員二人。生徒数三十人。経費無。
○六月二十二日　本校ニ、鵜沼農業補習学校附設ノ件、認可セラル。
教員一人。生徒数四十二人。
経費総額　金十七円。
○十月九日　父兄懇談会ヲ、開催シテ、父兄ニ、児童ノ成績品ヲ従覧セシメ、実地教養ノ模様ヲ示シ、最後ニ教育上ノ談話ヲナシタリ。
○一月一日　八重桜花ノ中ニ鵜沼ヲ以ッテ、本校、校章ト定メタリ。
○二月八日　本県師範学校教諭、高柳竹四郎氏、及本郡視学、松井鶴吉氏ヲ招シテ、通俗教育講談会ヲ開ク。来校スル父兄、二百余名ニシテ、非常ニ盛会ナリキ。
○三月二十五日　卒業証書、並ニ、修業証書授与式ヲ挙行ス。父兄等数十名臨場セラル。

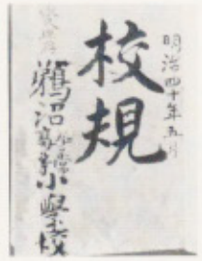
なお、明治四十年五月、次のような諸規定が定められており、これは鵜沼小学校のいわば憲法に匹敵するものとして、年々歳々これによりどころを求め、教育の実をあげてきたものである。

☆☆☆☆○☆☆☆☆

鵜沼尋常高等小学校々規

御真影勅語謄本奉護規程

第一條　非常事變ニ際シテハ學校長若クハ首席教員ハ直ニ奉置所ニ至リ職員ヲ指揮シテ謹嚴奉護ニ從事スベシ。
非常奉遷所ニ遷座シ奉リタル時亦同ジ
第二條　非常事變ノ場合ニ際シテハ職員ハ直ニ出校學校長若クハ首席教員ノ指揮ヲ受クベシ。
第三條　學校内奉置所ニ於テ奉護シ能ハズト認ムル時ハ非常奉遷所ニ遷座シ奉ルベシ。
第四條　非常奉遷所ハ左ノ場所ニ設け鵜沼尋常高等小學校、御真影非常奉遷所ト正書シタル標札ヲ掲ゲ置クベシ。
第一奉遷所　御社村國眞墨田神社
第二奉遷所　眞宗大谷派小川山正法寺
第五條　御真影並勅語謄本奉遷ニ際シ奉持守護ハ學校長若クハ首席教員之ヲ奉仕シ職員及村長學事関係者之ヲ警護シ奉ルベシ。



校規表紙

第六條　前條夜間ノ場合ニ於テハ其門前ニ「鵜沼尋常高等小学校御影非常奉遷所」ト記シタル提燈ヲ掲クベシ。

第七條　非常事變急激ニシテ學校長若クハ首席教員ノ指揮ヲ受クル暇ナキトキハ其他ノ教員ニ於テ本規程ニ基キ適宜之ヲ処置シ其旨直ニ學校長若クハ首席教員ニ通知スベシ。

第八條　非常奉遷所ハ最モ清浄ニシテ不敬ニ渉ラサル場所ヲ選定シ関係ナキ者ヲシテ猥リニ接近セシムヘカラズ。

第九條　非常事故止ミタルトキハ速ニ學校内奉置所ニ遷御シ奉ルベシ。
　但奉持警護ノ手續ハ第五條ニ準ズ。

第十條　非常ノ場合ニ際シ御影並勅語謄本ヲ遷座シ奉リタルトキハ其状ヲ具シ監督官廳ニ申報スベシ其故止ミ遷御シ奉リタルトキ亦同ジ。

大正元年十一月十五日　庶第四〇九四号認可
同　年十一月廿九日　告示第八号發布

職員服務細則

第一條　教育ニ関スル勅語ノ趣旨ヲ奉戴シ法律命令ハ勿論本校々規ニ従ヒ誠實ニ其職務ニ服スベシ

第二條　左ノ場合及之ニ類似ノ場合ハ豫メ學校長ノ許可ヲ受クベシ。
一、創始ニ属スル事項ヲ指定若クハ命令セントスル場合但軽微ノ事項ニシテ他ノ學級児童ニ影響ナキ場合ハ此限リニアラズ。
二、官衛學校及保護者等ニ對シ交渉証明又ハ召喚等ヲ為サントスル場合。
三、校外教授又ハ校外運動ヲ為サントスル場合。

第三條　左ノ場合及之ニ類似ノ場合アルトキハ直ニ學校長ニ申告シテ指揮ヲ受クベシ。
一、學校ノ内外ヲ問ハズ本校ニ関係アル重要事件ノ起リタルコトヲ認知シタル場合。
二、職員及児童ノ身上ニ異変起リタル場合。

第四條　分掌ノ事務ハ校規ニ定ムル所ニ依リ遅滞ナク正確ニ処理シ且事務ヲ処理ノ責ニ任ズベシ。

第五條　學校ニ於テ火災其他非常ノ事変アルトキハ直ニ登校シテ臨機ノ保護警戒ヲナスベシ御影及勅語謄本ノ非常奉遷所ハ眞墨田神社又ハ正法寺トス。

第六條　學校長出張又ハ歓勤シタルトキハ上席職員之カ代理ヲ為スモノトス但公文書ニハ代理者ノ氏名ヲ署スルノ限リニアラズ。
　前項ノ場合ニ於テ學校長ノ帰校又ハ出勤シタル後遅滞ナク代理処辨シタル事務ノ行程ヲ申告スベシ。

第七條　職員ノ登校時刻ハ始業時刻三十分前タルベシ。

第八條　職員ノ退出時刻ハ終業時刻後當日ノ事務整理及次日ノ事務準備ヲ終ヘタル後タルベシ。

第九條　歓勤又ハ遅刻セントスルトキハ始業時刻前マデニ其事由及必要物件ヲ具シ、歓勤ニアリテハ日數、遅刻ニアリテハ時數ヲ豫定シ學校長ニ届出ルベシ但豫期セラルヘキ事故ノタメ歓勤又ハ遅刻セントスルトキハ前日中ニ届出ツルモノトス。
　歓勤七日以上ニ及ブ時ハ前項ノ手續ヲ為スト同時ニ其事由ヲ具シ日數ヲ豫定シ郡長ニ届出ノ手續ヲナシ期日ヲ過グルモ尚出勤スルコト能ハザル時ハ更ニ其手續ヲ為スベシ但シ疾病ニ依ルモノハ医師ノ診断書ヲ添附スルモノトス。
　出勤時刻中ニ外出又ハ早帰セントスル時ハ學校長ノ許可ヲ受クベシ。

第十條　服忌ノ為メ歓勤スルトキハ前條ニ準據シ學校長ニ届出ツルト同時ニ部長ニ届出ノ手續ヲ為スベシ。

第十一條　帰省幕参又ハ其他ノ事故ニ依リ任地ヲ離レントスルトキハ日數ヲ豫定シ部長ノ認可ヲ受クルノ手續ヲスベシ但休日中ニアリテハ日數及旅行先ヲ定メ同様届出ノ手續ヲ為スモノトス。

第十二條　陸軍六週間現役又ハ勤務演習等服役ノ為メ出發シ又ハ除隊ノ為メ帰校シタル時ハ學校長ニ届出ツルト同時ニ部長ニ届出ノ手續ヲ為スベシ。

第十三條　陸海軍現役ニ服シ又ハ戦時事変等ニ際シ召集セラレタルトキハ正教員准教員ニアリテハ知事ニ代用教員ニ在リテハ郡長ニ届出ノ手續ヲナスベシ。

第十四條　着任シタルトキハ直ニ其旨ヲ學校長及郡長ニ届出ノ手續ヲ為シ且履歴書一通ヲ調製シテ學校長並ニ郡長ニ差出スベシ但任命前既ニ差出シタルモノハ此限ニアラズ。

第十五條　退職又ハ轉任シタルトキハ學校長ノ指揮ヲ受ケ残務ノ処理ヲ為スベシ。

第十六條　居住所ヲ鵜沼村以外ニ定メントスルトキハ郡長ニ認可ヲ受クルノ手續ヲナスベシ。

第十七條　營利ヲ目的トスル會社ノ事務執行社員取締役監査役ト為リ又ハ給料ヲ受ケテ他ノ事務ヲ行ヒ若クハ營利ヲ目的トセル業務ヲ為サントスルトキハ知事ノ認可ヲ受クルノ手續ヲ為スベシ。

第十八條　職員各自ノ職務ニ関係若クハ影響アル事柄ニ関スル文書ヲ官衛又ハ學校等ニ提出スル場合ニハ學校長ヲ経由スヘシ但特別ノ規定アルモノハ提示又ハ申告ニ止ムルモノトス。

第十九條　勤務時間中男正教員ハ左ノ服制ノモノヲ着用スヘシ。

一、洋服・製式・詰襟背廣
　地質・随意
　色合・夏ハ白若クハ鼠冬ハ黒若クハ紺。

一、帽子　海軍形但徽章ハ本校所定ノモノ其他ノ男教員ニシテ和服ニ袴ヲ着用スルモノト雖帽子ハ前項ニ從フベシ。
　女教員ハ和服ニ袴ヲ着用スベシ。

第二十條　職員ノ同居中傳染病ニ罹リタルモノアル時ハ速ニ届出ヲ為シ學校長ノ指揮ヲ受クベシ。

第二十一条　授業日登校シタルトキハ直ニ職員出勤簿ニ捺印スベシ休日ト雖モ學校長ニ於テ全部ノ職員ニ出勤ヲ命ジタルトキモ亦同様トス。

校務分掌規程

第一條　児童教養ノ責ニ任スベク次ノ分担ヲ設ク

一、學級担任　二、學年主任　三、學科主任

學級担任ハ担當學級教養ノ任ニ當リ該學級ニ関スル一切ノ事務ヲ処理ス。

學年主任ハ担當學年教養上ノ指導整理ヲナス

學科主任ハ常ニ該學科ノ調査研究ヲ行ヒ其教授細目ノ編成改訂ヲ行ヒ並ニ日々教授ノ指導ノ任ニ當ル。

第二條　校務ノ簡捷ト正確トヲ期スル為左ノ係ヲ置キテ分掌セシム。

一、教務學籍係　二、庶務文書係
三、衛生係　四、調査係　五、營繕係
六、図書係　七、器具係　八、用度係
九、會計係

㈠　教務學籍係ノ取扱フベキ事項

1・教授細目　教案ノ整理保管ニ関スル事項
2・児童ノ學業成績及成績品ニ関スル事項。
3・時間表ノ調製及教授時間ニ関スル事項。
4・補欠授業ニ関スル事項。
5・児童ノ學用品ニ関スル事項。
6・児童ノ操行及賞罰ニ関スル事項。
7・児童ノ呼集ニ関スル事項。
8・児童ノ看護及校外取締ニ関スル事項。
9・級長及學園長ニ関スル事項。
10・児童ノ運動遊戯及携帯品ニ関スル事項。
11・校庭掲示板ニ関スル事項。

12・保護者召喚及家庭聯絡ニ関スル事項。
13・児童ノ出席督励ニ関スル事項。
14・修業卒業證書ニ関スル事項。
15・學籍簿性行考査簿ノ整理保管ニ関スル事項。
16・児童入退學ニ関スル事項。
17・授業料ニ関スル事項。
18・卒業名簿ノ調製保管ニ関スル事項。
19・右ノ外學籍ニ関スル事項。

㈡　庶務文書係ノ取扱フベキ事項。

1・校規ノ改正ニ関スル事項。
2・毎月豫定事項行事調製ニ関スル事項。
3・職員會及職員會合ニ関スル事項。
4・宿直及警備ニ関久ル事項。
5・儀式並ニ祝祭日及参列員ニ関スル事項。
6・諸官衛學校等ニ関スル照會報告交渉及通信ニ関スル事項。
7・来校者ノ接待案内等ニ関スル事項。
8・職員履歴書ノ整理保管ニ関スル事項。
9・日誌及沿革誌ニ関スル事項。
10・使丁給仕ノ監督ニ関スル事項。
11・時刻ノ正確ヲ計ル事項。
12・不用品ノ賣却及寄贈金品ニ関スル事項。
13・職員出欠席ニ関スル事項。
14・職員及児童ノ慶弔ニ関スル事項。
15・諸文書ノ受付發送ニ関スル事項。
16・文書ノ整理・保管ニ関スル事項。
17・右ノ外諸係ニ属セザル事項及関係事項。

㈢　衛生係ノ取扱フベキ事項。

1・校舍内外ノ清潔整頓及消毒ニ関スル事項。
2・掃除區域配當ニ関スル事項。
3・校舍内外ノ掃除ノ統一並ニ精検ニ関スル事項。
4・児童ノ急救手當ニ関スル事項。
5・児童ノ飲料水ニ関スル事項。
6・児童ノ食事ニ関スル事項。
7・防寒及採光採暖ニ関スル事項。
8・児童ノ身体検査ニ関スル事項。
9・衛生ニ関スル器械薬品ノ整理保管ニ関スル事項。
10・學校衛生ニ関スル經費豫算ノ調製。
11・トラホーム治療ニ関スル事項。
12・右ノ外衛生ニ関スル事項及関係事項ノ統計報告ニ関スル事項。

㈣　調査係ノ取扱フベキ事項。

1・學校一覧表ノ調製保管ニ関スル事項。
2・児童ノ貯金ニ関スル事項。
3・日々出欠席月末統計其他一般調査統計ニ

関スル事項。

(五) 營繕係ノ取扱フベキ事項。

1・校地校舎各部ノ整理營繕ニ関スル事項。
2・校地校舎図面ノ調製及保管ニ関スル事項。
3・學校園ノ整理營繕ニ関スル事項。
4・樹木草花ノ栽培ニ関スル事項。
右ノ外學校ノ整理營繕ニ関スル事項。

(六) 図書係ノ取扱フベキ事項。

1・図書台帳及保管ニ関スル事項。
2・図書ノ整理及保管ニ関スル事項。
3・図書ノ購入貸与ニ関スル事項。
4・図書ニ関スル経費豫算ニ関スル事項。
5・児童図書館記念文庫ニ関スル事項。
6・雑誌新聞縣公報等ノ購入整理保管ニ関スル事項。

(七) 器具係ノ取扱フベキ事項。

1・校具並ニ器具器械台帳ノ整理保管ニ関スル事項。
2・器具器械並ニ校具ノ整理修繕及保管ニ関スル事項。
3・器具器械ノ貸与購入ニ関スル事項。
4・校具ニ関スル経費豫算ニ関スル事項。
5・右ノ外器具器械ニ関スル事項。

(八) 用度係ノ取扱フベキ事項。

1・消耗品ノ出納ニ関スル事項。
2・児童實習材料ニ関スル事項。
3・理科消耗品ノ購入及整理ニ関スル事項。
4・用度係ニ関スル経費豫算ニ関スル事項。

(九) 會計係ノ取扱フベキ事項。

1・俸給旅費教員住宅料使丁給料手當賞与ノ受領ニ関スル事項。
2・経費支拂ノ記入整理ニ関スル事項。
3・職員規約貯金ニ関スル事項。
4・職員ノ共同出金ニ関スル事項。
5・就學奬励給与ニ関スル事項。

鵜沼尋常高等小学校教育綱領

第一條　教員ニ関スル勅語及小學校令第一條ノ趣旨並ニ本校定ムルトコロノ校訓ニ基キ適切ニ児童ヲ教育シテ善良有為ノ人物ヲ養成センコトヲ期スベシ。

第二條　常ニ全校児童ノ教育ニ留意シ内協同一致シテ善美ナル校風ヲ興起シ外家庭ノ協同ニ依據シ相聲援シテ教育ノ効果ヲ完クセンコトヲ期スベシ。

第三條　實践躬行ヲ主トシ自ラ模範ヲ示シテ感化シ陶冶ノ切ヲ堅實ナラシメンコトヲ期スベシ。

第四條　児童ヲ率ヰルニハ親切厳明ヲ旨トシ其放肆ヲ検束シテ規律及秩序ヲ保持セシメンコトヲ期スベシ。

第五條　日常生活ニ必須ナル知識技能ヲ選ビ成案的方法ニ依リテ之ヲ教授シ且反覆練習シテ応用自在ナラシムベシ。

第六條　適當ナル運動遊戯ヲ課シ且衛生上ノ注意ヲ与ヘ心身ノ根本ヲ鞏クスベシ。

第七條　學資ヲ節約セシメテ教育ノ普及上進ヲ圖ルベシ。

第八條　勞作ヲ課シテ勤勉力行ノ良習慣ヲ得セシムベシ。

第九條　校規ヲ齋一ニ履行セシメ公共一致ノ心ヲ養フベシ。

第十條　教師ノ児童ニ接スル時ハ総テ教育ヲ施ス時ニシテ教師ノ児童ニ接スル所ハ総テ教育ヲ施ス所ナリト知ルベシ。

校訓大綱

謹ンデ教育ニ関スル勅語ノ御趣旨ヲ服膺シテ善良有為ノ人トナリ上ハ以テ。
大御心ニ答ヘ奉リ下ハ以テ父母師長ノ望ニ副ハンコトヲ期スベシ。

児童心得。

第一皇室ニ對シ奉ル心得

一、天皇陛下ハ國家無上ノ至尊ニオハシマセバ厚ク敬ヒ奉ルベシ。
皇后陛下、皇太子殿下其他皇族ノ方々ニ對シ奉リテモ亦同様ノ心得アルベシ。

二、御眞影ヲ拜シ奉ル際及御眞影奉置所内ニ在ル時ハ謹慎静粛ヲ旨トシ不敬ニワタラサル様心掛クベシ。

三、勅語勅諭等ノ御趣旨ハ常ニ服膺シテ之ニタガハザランコトヲ務メ又其御言葉ヲ謹寫シタル書冊帳簿等ハ鄭重ニ取扱フベシ。

四、菊花ノ御紋章ハ皇室ニ限リ用ヒサセ給フモノナレバ臣民ニ於テ用フベカラザルハ勿論似ヨリタルモノト雖モ用フルコトアルベカラズ。

五、皇室ノ御事ニ関シ話シ奉ラントスル時ハ鄭重ナル敬語ヲ用フベシ。

第二、父母師長ニ對スル心得。

一、父母師長ニハ萬事尊敬ノ意ヲ以テ仕ヘ且ツ常ニ操行ヲ慎ミ學業ヲ勵ミ身体ノ健康ヲ保チテ父母師長ノ安心セラル様ニ心掛ケ又其恩ハ永久忘ルベカラズ。

二、父母師長ノ教訓ハ謹ンデ服膺シ決シテソムクベカラズ。

三、父母師長ヨリ命ゼラレタル事柄ハ何事ニヨラズ能

ク意ヲ用ヒテ為シ決シテユルガセニスベカラズ。
四、身ニ過アラバ速ニ父母師長ニ謝シ決シテ包ミ隠スコトアルベカラズ。
五、父母師長ノ召シ給フ時ハ速ニ返辞ヲ為シ已若シ仕事ナドヲ為シ居ルトモ直ニ止メテ其許ニ行キ命ヲ承ルベシ。
六、祖父母等年老イ給フ人ニハ特ニ尊敬ノ意ヲ以テ事ノ世話厄介等ヲ掛ケザル様心掛クベシ。

第三、兄弟姉妹及朋友相互ノ心得。

一、兄弟姉妹ハ相互ニ善ヲ勧メ悪ヲ戒メ又常ニナカヨクシ決シテ喧嘩口論等ヲ為スベカラズ。
二、兄姉ハ常ニ弟妹ヲ扶ケ導キ弟妹ハ常ニ兄姉ヲ敬ヒ尊ブベシ。
三、朋友ハ相互ニ助ケ合ヒ誠ヲ盡シテアザムクコトナク又親シキ中ニモ禮儀ヲ重ンズベシ。
四、已ノ欲セザル朋友トテミダリニ之ヲ退ケ其悪事ヲ吹聴シ又ハ除ニ之ヲ傷ケントスルガ如キコトアルベカラズ。
五、朋友若シ已ノ行ニツキテ忠告シクレタル時ハ深ク其厚意ヲ謝シテヨク反省スベシ。
六、已ニ對シ雑言ヲ吐キ妨害ヲ加フル朋友アリトモ決シテ争フベカラズ若シ止ムヲ得ザルトキハ父母師長ニ告ゲ知ラスベシ。
七、他人ヲアザムキ幼者ヲスカシテ物ヲトリ又ハ悪戯ヲ勧ムルコトナドアルベカラズ。

第四、家庭ニ在ル時ノ心得。

一、父母、祖父母、兄姉等長上ノ命ハ之ヲ守リテ逆ハザル様ニ為スベシ。
二、家事手傳ヲ命ゼラレタル時ハ進ンデ為スベシ。
三、兄弟姉妹ハ相睦ミ相助ケ決シテ喧嘩等為スベカラズ。
四、朝ハ早ク起キ夜ハ父母長上ノ命ゼラルル儘ニ臥シ又起臥共ニ必ズ父母長上ニ挨拶ヲ為スベシ。
五、出入ニハ必ズ父母長上ニ挨拶ヲ為スベシ。
六、日々復習ヲ怠ルベカラズ。
七、客人アリタル時ハ相當ノ敬禮ヲ為シ又客人ノ歸ラル、マデハ萬事特ニ静ニスベシ。
八、留守番ヲ為ス時ニハ常ニ火ノ元ニ注意シ夜ニ入ラバ戸締ヲ為スベシ。
九、僕婢ハ慈愛ヲ以テ召使ト決シテ之ヲ賤ミ軽ンズベカラズ。

第五、本校ヘ往復スル時ノ心得。

一、學友ハ互ニ親切ヲ尽スベシ。
二、登校及歸宅ノ時ハ落チナク入用ノ學用品ヲ携フベシ。
三、登校ノ際ハ遅刻セヌ様心掛クベシ。
四、學事関係者及知人ニ逢ヒタル時ハ敬禮ヲナスベシ
五、通行人ヲ譏誘スベカラズ。

六、廻リ道又ハ道寄ヲ為スベカラズ。
七、徑、畠道其他通路ニアラザル所ヲ通ルベカラズ。
八、路草ヲ為シ又ハ飲食ヲ為スベカラズ。
九、農作物ヲ折リ取リ又ハ踏ミ荒スベカラズ。
一〇、途中ニテ土石ヲ投ゲ樂書ヲ為シ又ハ喧嘩口論等ヲ為スベカラズ。
一一、水邊溝バタ其他危キ所ニ近ヅクベカラズ。
一二、路上ニ車、農具等アルトモ決シテ毀損スベカラズ。
一三、登校ノ際曇レル時ハ雨具履物等ヲ用意シテ来ルベシ。

第六、教室ニ在ル時ノ心得。

一、教室ニアル間ハ姿勢ヲ正シクシ座作進退共ニ静肅ニナスベシ。
二、課業ヲ受クル間ハ一心ニ注意スベシ。
三、机、腰掛、黒板其他ノ器物及窓掛等ヲ丁寧ニ取扱フベシ。
四、教室内ハ常ニ清潔ニシテ紙屑鉛筆ノ削屑等ヲ棄ツヘカラズ。
五、教室ノ出入座席ノ去就及器具ノ出納等ハ先生ノ指図ニ從ヒ静ニナスベシ。
六、雑談外見又ハ手遊等ヲ為スベカラズ。
七、隣席ノ朋友ノ答案ヲ窺ヒ又ハ已ノ答案ヲ隠ス等ノコトアルベカラズ。

第七、放課時間中ノ心得。

一、長幼相親ミ強弱相扶ケ快活ニ遊ブベシ。
二、放課時間中ハ決シテ教室ニ入ルベカラズ。
三、始業ノ合図アラバ指定ノ場所ニ集リ静肅ニ為スベシ。
四、運動場ニテハ左ノ事柄ヲ守ルベシ。
(イ) 校舎ヲ毀損スル如キ所為アルベカラズ
(ロ) 樹木草花等ヲ損傷スベカラズ。
(ハ) 周囲ノ畠ニ入リ瓦石ヲ投入シ又ハ作物ヲ害スベカラズ。
(ニ) 棚ニトマルベカラズ。
(ホ) 便所ノ附近ニテ遊ブベカラズ。
(ヘ) 地上ニ坐臥スベカラズ。
(ト) 他人ノ運動遊戯ヲ妨グベカラズ。
(チ) 俗歌ヲ唱フベカラザルハ勿論野鄙粗暴ナル言葉ヲ遣フベカラズ。
(リ) 紙屑木片等ヲ棄ツベカラズ。
(ヌ) 定メノ區域ヨリ外ヘハ出ヅベカラズ。
五、雨雪天等ノ時廊下ニ遊ブ時ハ角力ヲトリ駈ケ廻ル等サワガシキ遊ビヲナスベカラズ。
六、他人ノ履物ヲ用ヒ便所ニ行クベカラズ。
七、便所ニテ押シ合ヒスベカラズ。

第八、掃除ニ関スル心得

一、教室及運動場等ノ掃除ハ各自ニ率先シテ丁寧ニナスベシ。

二、机、腰掛其他ノ器具ハ丁寧ニ取扱ヒ汚損セザル様ニ為スベシ。
三、掃除ニ用ヒタル汚水ハ定メノ場所ニ捨ツベシ。
四、掃除ノ際ハ特ニ口ヲ閉ヂテ鼻孔ヨリ呼吸スベシ。

第九　物品取扱ニ関スル心得

一、凡テ物品ハ丁寧ニ取扱ヒ汚損又ハ遺失セザル様ニ心掛クベシ。
二、書物及筆記帳等ニツキ左ノ事柄ヲ守ルベシ。
　(イ) 表紙ニハ學年氏名等指図以外ノ事柄ヲ書クベカラザルコト。
　(ロ) 文字ニ仮名ヲ付ケ繪画ニ彩色ヲナシ又樂書等ヲ為スベカラザルコト。
　(ハ) 書物ノ讀口ヲ覆エ置ク為メ其処ノ紙ヲ折ルベカラズ又爪ニテツマミ指ニ唾シテ開クベカラズ。
三、机ノ中ハ常ニ清潔ニシ又諸品ノ位置ヲ正シク為シ置クベシ。
四、傘類ニハ札履物ニハ印ヲ附ケ置クベシ。
五、金銭ハ授業料ヲ納ムル時ノ外持チ来ルベカラズ若シ父母長上ノ命ニ依リ持参スルトキハ登校ノ際直ニ先生ニ申出テ預ケ置クベシ。
六、物品ヲ失ヒ又ハ拾ヒタル時ハ直ニ先生又ハ父母長上ニ申出ヅベシ。

第十、禮儀作法ニ関スル心得

一、敬禮ハ上下ノ分ヲ明ニシ秩序ヲ保ツニ必要ナルモノナレバ常ニ心得置キテ正シク行フベシ。
二、凡テ敬禮ヲ行ウニハ礼容ヲ表スルノミナラズ衷心ヨリ恭敬ヲ尽シ且眼ヲ敬禮スベキ人ニ注クベシ。
三、本校ニ来ラレタル人ニ逢ヒタル時ハ屋外ト屋内トヲ問ハズ正シク敬礼スベシ。
四、長上先ダチテ進ミ又ハ其前ヲ横ギル等ノコトアルベカラズ若シ止ム得ザル場合アル時ハ會釋シテ通ルベシ。
五、人ノ己ニ對シテ敬礼ヲ為スモノアルトキハ直ニ相當ノ答礼ヲ為シ又人ノ己ニ對シテ敬礼ヲ歡クコトアルモ不満ノ心ヲ抱クベカラズ。

第十一　容儀服装ニ関スル心得

一、常ニ口ヲ閉ジ鼻孔ヨリ呼吸スベシ。
二、身ナリハ常ニ正シク服装ハ常ニ整フベシ。
三、身体ハ常ニ清潔ニシ頭髪顔面手足等ハ特ニ注意シ汚レザル様ニスベシ。
四、衣服ヲ着ルニハ襟ヲ整ヘ前ヲ合セ羽織袴帯等ノ紐ハ正シク結ビ見苦シキ体裁ヲ為スベカラズ。
五、身ナリヲ整フルハ善キコトナレドモ之ガ為メ白粉紅、指輪等ヲ用フルコトアルベカラズ。
六、男児登校ノ時ハ必ズ筒袖ノ和服ヲ着用スベシ。
七、羽織ノ紐ノ長大ニ過グルモノハ用フベカラズ。
八、鼻紙等ハ常ニ携フベシ。

第十二　言語動作ニ関スル心得

一、言葉遣ヒハ簡単明瞭ニシテ且ツ優シキヲ宜シトス野鄙ナル言葉粗暴ナル言葉等ハ決シテ用フベカラズ言葉多キニ過ギ音聲低キニ失スルモ亦宜シカラズ慎ムベシ。
二、父母師長其他朋友ニ對シテ話ヲ為ス時ハ相當ノ敬語ヲ用ヒ且ツ之ヲ呼ブニハ夫々敬称ヲ附スベシ假令親シキ間柄ナリトテ呼捨ニスベカラズ。
三、人ノ恥トナル事柄又内輪ノ事柄或ハ父母兄弟ノ賢愚ニ関スル事柄等ハ決シテ語ルベカラズ人ノ蔭口ヲ言フモ亦宜シカラス。
四、座作進退其他戸障子等ノ開閉ハ務メテ静ニ為スベシ。
五、喧嘩口論ハ勿論樂書勝負事等賤ムベキ事柄ハ決シテ為スベカラズ聞キ苦シキ俗歌等ヲ歌フコトモ亦宜シベカラズ。
六、君ガ代ノ唱歌ハ一定ノ場所一定ノ場合ノ外妄ニ唱フベカラズ。
七、参観人アル時ハ指笑耳語不敬ニアタル行アルベカラズ。
八、世間ニ行ハル、イヤシキ風儀言葉等ハ決シテマネスベカラズ。
九、不具者等ニツキアルキ若クハ之ヲ嘲リ罵リ或ハ笑フ等ノコトアルベカラズ。
一〇、革履下駄ノ類ハヌギハキ共ニ正シク且ツ静ニ為スベシ。

第十三　祝祭日及式日ニ関スル心得

一、大祭祝日ハ國家ノ祝祭日ナレバ能ク其由来等ヲ心得オキ祝賀祭祀ノ意ヲ表スベシ。
二、凡テ儀式ハ厳粛ニ挙行スベキモノナレバ其際ハ特ニ謹慎静粛ニシ且ツ敬意ヲ尽スベシ。
三、儀式ヲ挙行スル際ニハ左ノ事柄ヲ守ルベシ。
　(イ) 先生ヨリ申付ケラレタル時刻ニハオクレザル様ニ登校スベキコト。
　(ロ) 姿勢ヲ乱シ雑談外見咳拂失笑等不敬ニ渉ル行アルベカラザルコト。
　(ハ) 服装頭飾等ハ質素ヲ旨トシ前垂等ハ遠慮スベキコト。
　(ニ) 勅語奉讀ノ節ハ奉讀ノ初ニ敬礼シ奉讀中ハ少シク頭ヲ垂レ両手ヲ直垂シテ敬聴シ奉讀終リタルトキハ再ビ敬礼スベキコト。
　(ホ) 先生又ハ来賓方ノ御話アル時ハ静ニ聴聞シ深ク其本意ヲ記憶シ置キテ常ニ之ヲ服膺スベキコト。
　(ヘ) 唱歌ヲ合唱スル時ニハ能ク意ヲ用ヒテ一齊ニ和唱シ乱レザル様心掛クベキコト。
　(ト) 病気等ニテ参列ニ堪ヘザル時ハ先生ニ申出テ指図ヲ受クベキコト。

(チ) 入場前ニ大小便ノ用意ヲナシ置キ若式中ニ催アルトキハ静ヘ外方エ出ツベキコト。
(リ) 式中ニ一旦外出シタルトキハ再ビ式場ニ入ラザルコト。

四、式日ニ證書褒賞等ヲ賜リタル時ハ有リ難ク受ケ戴キ持チ歸リテ父母長上ニ示スベシ。

第十四　校外運動ニ関スル心得

一、服装ハ質素軽易ヲ旨トスベシ。
二、長幼互ニ相扶ケ合ヒ強弱互ニ相救ヒ合フノ心掛アルベシ。
三、履物ハ草履、麻裏、鞋等軽便ナルモノヲ用フベシ。
四、手拭、鼻紙ヲ携帯スベシ。
五、弁當ハ風呂敷ニ包ミ各自ニ携帯スベシ。
六、全員菓子発火物其他不用ノ品物ヲ携帯スベカラズ。
七、合図アリタルトキハ直ニ定メノ場所ニ集ルベシ。
八、病気ニ罹リ又ハ負傷シタルトキ若クハ變事ニ遭ヒタル時ハ直ニ先生ニ申出ツベク他ノ児童ニシテ同上ノ事故起リタルコトヲ知リタル時ハ直ニ先生ニ知ラスベシ。
九、許ヲ得ズシテ歸宅又ハ列ヨリ離ル、コトアルベカラズ。
一〇、食事ハ定メノ時刻及場所ニテ為スベシ。
一一、断崖絶壁水邊等危険ノ場所ニ近ズクベカラズ又岩上樹上等ニ登ルベカラズ。
一二、建物、樹木、草花等ヲ汚損スベカラザルハ勿論通行ヲ禁シタル場所ニ立チ入ルベカラズ。
一三、竹木草花岩石等ヲ持チ歸ルベカラズ。
一四、生水ヲ飲ミ又草類等ヲ採リ食フベカラズ。
一五、物品ヲ失ヒタル時又ハ拾ヒタル時ハ直ニ先生ニ申出ツベシ。

第十五　衛生ニ関スル心得。

一、姿勢ハ常ニ正シクシ身体ハ常ニ清潔ニ保チ特ニ頭髪顔面手足等ヲ汚サヾル様ニ心掛クベシ。
二、頭髪ハ時々洗ヒ口ト歯トハ毎朝洗ヒ漱キ眼モ亦度々冷水ニテ清メ爪ハ短ク切リ取ルベシ。
三、常ニ適當ノ運動、遊戯ヲ為スベシ。
四、食物ハ能ク噛ミテ徐々ニ食シ湯茶ハ成ルベク少ク用フベシ。
五、暴飲暴食ハ害アリ慎ムベシ。
六、生水ハ決シテ飲ムベカラズ、瓜類、梅、桃等ハ多ク食スベカラズ。
七、酒ト煙草トハ害アリ用フベカラズ。
八、着物ハ時々洗濯シテ垢ノツカヌモノヲ用フベシ。
九、襟巻手袋等ハ成ルベク用ヒヌ様ニスベシ。
一〇、居間ハ常ニ清潔ニ掃除シ又能ク風ヲ通スベシ。
一一、便所ニ行キタル時ハ便所ヲ穢サザル様ニ注意シ又必ズ手ヲ洗フベシ。
一二、朝寝、昼寝、夜フカシ、寝冷ハ衛生ニ害アリ深ク

戒シムベシ。
一三、蠅ハ傳染病ノ媒介ヲスルモノナレバ飲食物ニトマラザル様ニスベシ。

学業成績考査規程

第一條　學業ノ成績ハ各教科目毎ニ左記ノ方法ニ依リ考査シテ之ヲ定ムルモノトス。
(一) 學期成績。毎學期間ニ於テ教授シタル事項ニ就キ考査シテ之ヲ定ム。
(二) 學年成績。三學期ノ通約得点ヲ以テ之ヲ定ム。

第二條　學業成績ハ点數ヲ以テ表示シ各教科目毎ニ其満点ヲ十点トス。

第三條　學業成績考査方法ハ左ノ規定ニヨルベシ。
(一) 平常教授ノ際各教科目毎ニ各學期間一回以上其成績ヲ考査シテ評定スルコト。
(二) 國語成績ハ讀方書方綴方ニ付各別ニ考査シ通約シテ定ムルコト。
(三) 左ノ教科目ニ就キ尋常科第三學年以上ハ各學期間一回以上筆答試問ヲ為シ其成績ヲ考査シ評定スルコト（但シ平素ノ成績ヲ考慮スベシ）
修身、國語（讀方、解釈、書取等）算術、地理、日本歴史、理科、農業。
(四) 左記ノ教科目ニ就キ各學期間一回以上成績品ニ就キテ其成績ヲ考査シテ評定スルコト。
國語（書方、綴方）図画、裁縫。
(五) 前各項ニ依リ考査シタル数回ノ成績ハ之ヲ合計通約シテ算定スルモノトス。

第四條　成績点数計算ノ際可零ヲ生ジタル時ハ四捨五入ノ法ニ依ルモノトス。

第五條　操行ハ児童平素ノ操行ヲ観察シ毎學期末各一回左ノ標準ニヨリ甲、乙、丙ノ評語ヲ以テ品評シ之ヲ定ムルモノトス。
甲、操行佳良ニシテ他児童ノ模範トナルニ足ル者。
乙、操行普通ニシテ別ニ歓点無キ者。
丙、操行不良ニシテ缺点アル者。

第六條　操行學年品評ハ前三學期間ノ品評ヲ参酌考察シテ定ムルモノトス。

第七條　卒業及修業ノ認定ハ學級擔任ノ調査シタル學年成績ニ基キ學校長之ヲ決定ス但シ時宜ニ依リ職員會ノ意見ヲ徴シ決定スルコトアルベシ

第八條　前項ノ認定ヲ為スニハ學年成績ニ於ケル通約得点五点ヲ得タルモノヲ以テ最下標準トス。

第九條　學業成績考査簿ノ様式ハ別ニ之ヲ定ム。
成績ヲ考査評定シタル時ハ學級擔任ハ其都度結果ヲ通信簿ニテ指定ノ期日ニ保護者ニ通告スベシ。

第十條　卒業児童ニハ卒業證書ヲ修業児童ニハ修業證書ヲ授与ス。

第十一條　卒業證書及修業證書ノ書式ハ別ニ之ヲ定ム

児童心得教授規程

第一條　児童ノ德性ヲ涵養シ道德ノ實践ヲ指導スルヲ目的トス。

第二條　職員ハ前條ノ趣旨ヲ体シ児童心得中ノ記載事項ヲ児童ニ教誨訓諭シ躬行實践セシメンコトヲ期スベシ。

第三條　児童心得ノ教授時間ハ左ノ如シ。

一、修身科教授時間中ノ一部。

二、雨雪等ノタメ体操教授ヲ為スベカラサル時間ノ一部。

三、右ノ外適當ノ時間ノ一部。

第四條　前條ニヨリ児童ヲ教誨訓諭スルニハ左ノ事項ニ留意センコトヲ要ス。

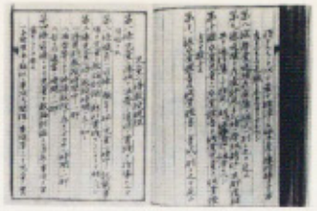
一、各條項毎ニ類似ノ事項又ハ関係ノ事項等ニツキ児童ノ實行シ得ベキ事實ヲ列挙シ其内容ヲ簡明シテ實践ヲ促スコト。

二、児童ノ行為ハ児童心得記載ノ事項ニ對照シテ褒貶親戒スルコト。

三、編纂順序ニヨリ教誨訓諭シ第十三以下ハ便宜必要ノ時機ニ教誨訓諭スルコト。

四、各條項ハ各學年ニ應ジテ教授スルコト。

五、児童心得ハ三ヶ月間ニ全部ヲ教授スルコト。



児童心得教授規程の原本

児童性行考査規程

第一條　小學校職員ハ學校内外ヲ問ハズ常ニ擔當児童ノ性質、行為、習慣、言語、偏僻、勤怠及其家庭ノ情況等ニ留意シ各児童毎ニ善良ト認ムベキ事項及矯正ヲ要スベキ事項等ニ就キ其原因、事實、経過、結果等ヲ観察シテ記録シ置クベシ、但シ自己擔當以外ノ児童ニ関シ見聞観察シタルコトアルトキハ関係職員ニ傳告スベシ。

第二條　學級擔任者ハ毎學期末各一回指定ノ期限内ニ擔當學級ノ各児童ニ就キ常ニ記録シ置キタル事項ヲ審査考定シ其要領ヲ児童性行録ニ記入シ且左ノ標準ニ依リ甲、乙、丙ノ評語ヲ以テ其操行ヲ品評スベシ。

甲、操行佳良ニシテ他児童ノ模範トナルニ足ル者。

乙、操行普通ニシテ別ニ缺点ナキ者。

丙、操行不良ニシテ缺点有ル者。

前項ノ審査考定ヲ為スニハ其都度関係職員ト協議ヲナスベシ。

第三條　入學後五十日ヲ経ザル児童ニアリテハ前條ノ品評ヲ為サザルモノトス。

第四條　操行ノ品評ハ學級擔任者ノ調査ニ基キ學校長之ヲ決定ス、但シ時宜ニヨリ職員會ノ意見ヲ徵シ決定スルコトアルベシ。

第五條　操行ノ品評ヲ結了シタル時ハ其都度保護者ニ通知スルモノトス。

第六條　性行ニ関スル事項ヲ記載シタル表簿類ハ學校長ノ承認ヲ受ケズシテ職員外ニ示スコトヲ得ズ。

第七條　児童性行録ノ記載方ハ左ノ各號ニ依ルベシ。

一、善良ト認ムベキ事項ヲ簡明ニ記入スベシ。

具例左ノ如シ

正直ニシテ観察力鋭ク且言語明瞭ナリ、沈着ニシテ同情ニ富ミ且能ク事ヲ辨ズ、活發ニシテ言語爽快ナリ等。

二、矯正スベキ諸点ノ欄ニハ其児童ノ性行ニ関シ教育上矯スベキ事項ハ勿論其原因ノ認メ得ベキモノハ總テ前項ニ準ジ記入スベシ其例左ノ如シ。

粗暴ニシテ努リ易シ、軽卒ニシテ笑ヒ易シ。

狡猾ニシテ虚言ヲ吐ク、執機ニシテ人ヲ凌キ且言語不明ナリ、概括力ニ乏シ、世才ニ乏シ世話ヲ好ム、人ニ頼ル、言語急調、多辯、時々隠レ遊ヲ為ス友人ニ不良児童〇〇アリテ其影響ヲ受ク等。

三、操行品評、褒賞、及処罰ノ三欄ハ調査若クハ施行ノ都度之ヲ記入スベシ其例左ノ如シ。

操行品評ハ評語褒賞及処罰ハ賞罰ノ内容ヲ知リ得ベキ様褒賞ニアリテハ（操行佳良、學業優等、出席勤勉）若クハ（善行）等処罰ニアリテハ（竊盗ニ付留置）等。

四、備考ノ欄ニハ児童調練上參考トナルベキ事項ヲ記入スベシ其例左ノ如シ。

家庭ノ情況、継母ニ日々虐待セラル、孤ニシテ叔父ノ家ニ養ハル、父ハ大酒家ナリ、家庭ニ風波絶エス等、四隣ノ景況、隣ニ料理屋アリ、船乗業者多クシテ賭博盛ナリ等、訓練ノ方法、常ニ多言ナルヲ以テ教室ノ最前ノ机ニ独居セシム、粗暴ナレトモ名誉心盛ナルニ依リ勉メテ衆児童ノ面前ニ於テハ叱責スルコトヲ避ク等。

☆☆☆☆■☆☆☆☆

児童褒賞規程

第一條　操行佳良、學業優等、業務勤勉、出席勤勉ノ者又ハ特別ノ善行アル者ハ左ノ等差ニ依リテ褒賞ス。

一、特別賞　二、一等賞　三、二等賞
四、三等賞　五、善行賞

第二條　褒賞ハ左ノ内容ニ依リ之ヲ決定スルモノトス。

一、特別賞　一等賞ヲ授與スベキ者ニシテ一層優良ト認ムベキ顯著ナル事實アル場合
二、一等賞、操行佳良、學業優等、出席勤勉ノ三ニ該當スル場合。
三、二等賞、前號中ノ二ニ該當スル場合。
四、三等賞、第二號中ノ一ニ該當スル場合。
五、善行賞、児童ノ模範トナルニ足ルベキ善行アル場合。

第三條　褒賞ハ毎學年末ニ於テ授與ス、但善行賞ハ善行アリタル都度臨時ニ之ヲ授與ス。

第四條　褒賞ノ授與ハ學級擔任ノ調査ニ基キ學校長之ヲ決定ス、但時宜ニヨリ職員會ノ意見ヲ徵シ決定スルコトアルベシ。

第五條　褒賞ハ賞状ニ賞品ヲ添付スルモノトス。

☆☆☆☆■☆☆☆☆

児童処罰規程

第一條　児童操行ノ改善ヲ図ランガ為メ不良ノ行為アル者ハ懲戒ノ目的ヲ以テ左ノ種目ニ從ヒ処罰ス。

一、謹慎　二、停學。

第二條　罰ノ性質範圍ハ左ニ定ムル所ニ依ル。

一、謹慎、便宜ノ場所ニ留置シ運動遊戯ヲ禁止シ謹慎ノ意ヲ表セシムルモノニシテ一期限ハ始業時刻前児童登校ノ際ヨリ終業時刻後一時間迄トス。
二、停學、通學ヲ停止スルモノニシテ一回七日以内トス。

第三條　児童ヲ処罰セントスルトキハ左ノ規定ニ依ルベシ。

一、増當學級以外ノ児童ヲ処罰セントスル時ハ先ズ関係學級擔任ト協議スルコトヲ要ス。
二、停學ノ罰ニ処スベキモノアルトキハ學校長ニ申告シテ指揮ヲ受クルコト。
三、本規程ニヨリ児童ニ停學ヲ命ジタル時ハ郡長ニ報告ノ手續ヲナスコト。

☆☆☆☆●☆☆☆☆

敬礼及称呼規程

第一條　児童ノ敬禮及稱呼ノ方法ハ本規程ニ依據セシムベシ。

第二條　敬禮ノ式及適用ハ左ノ如シ。

一、最敬禮ハ陛下及殿下ノ敬稱ヲ用フベキ方ニ對シ奉リ又ハ其御影ニ對シ奉ルトキ之ヲ行ハシムルモノトス。

二、最敬禮ノ式ハ直立シテ姿勢ヲ正シクシ体ノ上部ヲ前ニ傾ケ頭ヲ垂レ両手ヲ膝マデ垂下シ敬意ヲ表セシムルモノトス此場合ニ於テ帽ヲ被ムルトキハ右手ニテ脱シ裏面ヲ見ハサザル様ニシテ右側ニ垂下セシムベシ。

三、尊長ニ對スル敬禮ノ式ハ正面直立シ姿勢ヲ正シ敬禮スベキ人ニ注目シ体ノ上部ヲ少シク前ニ傾ケ両手ヲ垂下シ敬意ヲ表セシムルモノトス此場合ニ於テ帽ヲ被ルトキハ最敬禮ノ場合ニ準セシムルモノトス又行進中ニアリテハ敬禮スベキ人ノ五歩前ニ於テ歩ヲ止メ左傍ニ避ケ前ノ如ク敬禮シ尊長ノ通過セラルヽヲ待チテ歩ヲ始メシムルモノトス。

四、同輩ニ對スル敬禮ノ式ハ前號ニ準ジ体ノ上部ヲ少シク前ニ傾ケ敬意ヲ表セシムルモノトス此場合ニ於テ帽ヲ被ルトキハ右手ニテ脱セシムルモノトス又行進中ニアリテハ前號ニ準ジ行進ノマヽ敬禮スルモ妨ゲナシ。

五、疊敷ノ場所ニ於テハ総テ座禮ヲ為サシムルモノトス。

六、座禮ノ式ハ左右両手ノ各四指ヲ密接シ体ノ上部ヲ頭ト共ニ前方ニ傾ケ鼻ハ両手ノ樽指及食指間ニ落ツルガ如クセシムベシ。

第三條　毎時間授業ノ前後ハ児童ヲシテ職員ニ對シテ敬禮セシムベシ室ノ内外ヲ問ハズ児童ヲ集合シテ説話スルトキモ亦同シ。

第四條　教授中外来者ニ對スル敬禮ニ関シテ左ノ規定ニ依ルベシ。

一、左ノ場合ニハ職員自ラ敬禮ヲ為スハ勿論児童ヲシテ敬禮セシムルモノトス。

(ア)　學校長豫メ敬禮スベキ旨ヲ通知シタル場合。

(イ)　案内シタル職員ヨリ敬禮スベキ旨ヲ告知シタル場合。

(ウ)　監督官及管理者ノ巡視セル場合。

二、教室内ニテ敬禮スル場合ニハ左ノ順序方法ニ依ルモノトス。

(ア)　外来者教室ノ前面ニ来ラル、時ハ教師ハ教授ヲ中止シ起立ノ旨ヲ號令シ同時ニ教

壇ヲ降ル此際児童一同ヲシテ自席ニ在リテ直立シ敬禮スベキ人ノ方向ニ面セシムルコト。

(イ) 教師禮ノ號令ヲナシ教師児童ト共ニ敬禮ヲナスコト。

(ウ) 敬禮ヲ終リタル時ハ教師児童共ニ旧位置ニ復シ教授ヲ開始スルコト。

三、児童ヲシテ敬禮セシメザル場合ト雖モ外来者敬禮シタル時ハ教師ノミハ之ニ對シテ答禮ヲ為スモノトス。

第五條　証書及褒賞等ヲ受クルトキハ授與者ノ凡四歩前ニテ敬禮シ更ニ三歩ヲ進ミテ停止シ体ノ上部ヲ少シク前ニ傾ケ先ヅ左手ヲ出シ右手ヲ添ヘテ受ケ後之ヲ戴キ其儘三歩退却シテ再ビ敬禮シ上位ニ廻リテ正シク捧ゲタルマヽ退カシムベシ。

第六條　尊長スベキ人ニ對シテ陳述シ又ハ聽話スルトキハ對者ノ二歩前ニテ敬禮シ両手ヲ垂シ正面ニ向ヒテ陳述又ハ聽話シ右終リタラバ敬禮シ上位廻リ退カシムベシ。

第七條　尊長ノ側ヲ過ギントスル時相逢フ場合ニハ凡五歩前ニテ左ニ避ケ停立シ尊長ノ通過セラルルヲ待チテ後歩ニ始ムベク後方ヨリ追ヒ及ブ場合ニハ其後ニ尾セシメ已ムヲ得ズ先ンゼザル時ニハ側面若シクハ後方ニ避ケ少シク体ヲ屈メ會釋シテ通過セシムベシ。

第八條　児童登校シタルトキハ職員及同輩ニ對シ敬禮ヲ為サシムベシ。

第九條　校内ニテ巡視者参観者ニ逢ヒタルトキハ敬禮ヲナサシムベシ。

第十條　隊伍ヲ組ミテ行進スル時又ハ授業中ハ児童ノ任意ニ敬禮セシムベカラズ。

第十一條　職員ニ對シテハ校ノ内外ヲ問ハズ學校長ニ在リテハ職名ニ「サン」ノ敬稱ヲ添ヘ他ノ職員ニアリテハ氏ニ先生ノ敬稱ヲ添ヘテ稱呼セシムベシ。

第十二條　児童相互ノ稱呼ハ男児ニアリテハ氏又ハ名ニ「サン」若ハ「君」女児ニアリテハ同様、「サマ」若ハ「サン」ノ敬稱ヲ添ヘテ称呼セシムベシ。

児童勤務規程

第一條　自主ノ習慣ヲ養ヒ兼テ校務ヲ補佐セシムルノ目的ヲ以テ児童ニ特別ノ勤務ヲ課ス。

第二條　前條ニ依リ児童ニ課スル勤務ノ種類ハ左ノ如シ。

一、級長及副級長。

二、級當番。

三、學友長及副學友長。

四、食事當番。

五、掃除當番。

第三條　級長副級長ハ各學級毎ニ各一人級當番ハ二人ヲ置ク團長食事當番ノ勤務ハ別ニ之ヲ定ム。

第四條　級長及副級長ハ學級担任ノ選定シタル候補者ニ就キ學校長之ヲ任命ス、但尋常科第一學年ハ之ヲ除ク。

第五條　級當番ハ尋常科第二學年以上ノ児童ヲシテ順次輪番ニ勤務セシムルモノトス。

第六條　級長副級長及級當番ノ勤務要領ハ左ノ如シ。

一、級長

(イ) 職員ノ命令告知等ヲ傳達スルコト。

(ロ) 教室ノ出入ニ児童ヲ引率スルコト。

(ハ) 在校中児童ニ関スル出来事ヲ職員ニ申報スルコト。

(ニ) 右ノ外職員ノ命ジタル勤務ニ服スルコト。

二、副級長

(イ) 級長ノ勤務ヲ補佐スルコト。

(ロ) 級長不在ノ時之ガ代理ヲ為スコト。

三、級當番

(イ) 教授ノ準備及諸器具整頓ノ補佐ヲ為スコト。

(ロ) 筆記帳通信簿及成績品ノ集配ヲ為スコト。

(ハ) 教授用水ノ集配ヲ為スコト。

(ニ) 右ノ外職員ノ命ジタル勤務ニ服スルコト。

第七條　級長及副級長ノ勤務期ハ一學期間トシ級當番ノ勤務期ハ一日間トス。

児童看護規程

第一條　看護ノ勤務ハ放課時間中児童ヲ保護監督シ且運動遊戯ヲ奬励シ兼テ児童ノ性質言語挙動等ヲ観察矯正スルヲ以テ要旨トス。

第二條　児童ノ看護ハ職員毎日交替之ニ當ルモノトス其人員ハ學校長之ヲ定ム。但學校長及特別ノ事情アルモノハ之ヲ除ク。

第三條　看護當番ハ始業時刻三十分前ニ登校シ勤務ニ從事シ終業時刻後看護日誌ヲ記録シ翌日ノ當番ニ渡スベシ。

第四條　雨雪等ノ為メ児童ヲ舎内ニ在ラシムル場合ニハ學級担任ハ各自関係児童ヲ看護スベシ。

第五條　看護ノ際注意スベキ事項ハ左ノ如シ。

一、運動場ノ區域外及門外ニ出ダサザルコト。

二、樹木ニ挙ヂ登ッタリ折ラシメザルコト。

三、危険野鄙ノ運動ヲ禁ズルコト。

四、猥ニ教室内及使丁室ニ入ラシメザルコト。

五、賭博ニ類スル遊ビヲ禁ズルコト。
六、課業ノ復習及豫習ヲナサシメザルコト。
七、豫報後ハ過劇ノ遊戯ヲ止ムルコト
八、協同遊戯ヲ奬励スルコト。

団長規程

第一條　児童通學ノ區域ニヨリ之ヲ左ノ數組ニ分チ各組毎ニ團長及副團長ヲ置ク。

羽場組正一人 副二人　西町組正一人 副二人
東町組正一人 副二人　寶積寺組正一人 副二人
南町組正一人 副二人　古市場組正一人 副二人
小伊木組正一人 副二人　大伊木 新田組正一人 副二人
大伊木 本郷組正一人 副二人　内野組正一人 副一人
三ッ池組正一人 副一人　各務組正一人 副一人

第二條　團長及副團長ハ學校長之ヲ命ズ。
第三條　團長及副團長ノ勤務要領ハ左ノ如シ。
一、團長
(イ) 登校及下校ノ際児童ヲ引率スルコト。
(ロ) 組中ニ起リタル出来事ヲ職員ニ申報スルコト。
(ハ) 右ノ外職員ノ命ジタル勤務ニ服スルコト
二、副團長
(イ) 團長ノ勤務ヲ助クルコト。
(ロ) 團長不在ノ時代理ヲ為スコト。
第四條　團長副團長ノ勤務期ハ一學年間トス。

宿直規程

第一條　本校ニ毎日宿直員一名ヲ置ク。
第二條　職員ハ順次輪番ニ宿直スルモノトス。
但シ時々常直ヲ置キ又已ムヲ得ザル事情アルトキハ他ニ代直ヲ依託スルコトヲ得然ル時ハ學校長ノ許可ヲ受クベシ。
女教員ハ日直勤務ニ服スルモノトス。
第三條　左記各號中ノ一ニ該當スルモノハ宿直ヲ免除ス。
一、出張中ノモノ。
二、服忌ノ為メ引篭中若クハ疾病七日以上缺勤シタル場合ニ於ケル缺勤期中。
三、右ノ外學校長ニ於テ必要ト認ムル場合。
第四條　宿直ハ平日宿直及休日宿直ノ二種トシ各別ニ輪番ヲ定メ勤務スルモノトス。
第五條　宿直ノ勤務時間ハ左ノ如シ。

一、平日宿直　其日ノ終業時刻ヨリ翌日ノ始業時刻マデノ間。
二、休日宿直　其日ノ始業相當時刻ヨリ翌日ノ始業相當時刻マデノ間。
第六條　宿直員ハ左ノ諸項ヲ遵守スベシ。
一、御真影室用ノ鍵ヲ保管スルコト。
二、職員退出後校内ヲ巡視シテ窓戸ノ閉否、火氣ノ有無等ヲ檢査スルコト。
三、火、風其他非常変災ノ時ハ、御真影室並ニ語謄本ヲ第一奉遷所　郷社村國眞墨神社
第二奉遷所　眞宗大谷派小川山正法寺ニ奉遷スルコト。
四、祝祭日等ニ國旗ヲ掲揚スルコト。
五、受領シタル文書アル時ハ相當ノ処置ヲナスコト。
六、来校者アリタル時ハ用務ヲ質シ相當ノ処置ヲナスコト。
七、就寝後ハ電燈ヲ消スコト。
八、宿直勤務中ハ飲酒ヲナシタリ又ハ不体裁ニ流ルル所為アルベカラザルコト。
第七條　宿直員ハ宿直日誌ニ宿直勤務中ニ起リタル事件及自已氏名ヲ記載捺印スベシ。

☆☆☆☆●☆☆☆☆

明治四十一年度
学級数　尋常科七、高等科二。
経費総額　金一千七百九十二円（本校文ノミ）
○八月　増築工事起工シ、翌年五月竣工ス。
工事総金額　金三千五百七十四円
（内訳）三教室建築費　金一千八百九十七円
瓦代　金二百七十円
運動場（三百五十二坪）　金三百五十五円
改築諸費　金四百九十二円　他。
建築委員　村長　坂井銀右衛門
阿部有三
佐守喜代松
坂井久樹
渡辺次郎右衛門
藤田浅五郎
○四月二十九日尋常科第五学年以上ノ、児童八、名古屋地方ヘ、修学旅行ヲ成シタリ。
○十月九日　秋季大運動会ヲ開催。競技六十余回。来賓者、千余名ニテ、非常ニ盛会ナリ。
本校運動場ニ於テ、大運動会挙行シタルハ、最初ナル。父兄ヨリ、歓迎セラレ、賞与費トシテ、村農会ヨリ、金六円。村内各組ヨリ、金十三円三十銭ヲ、機材費

トシテ、寄附セラレタ。
○十月十三日　戊申証書ヲ、発布セラル。
○十一月五日　三ッ池尋常小学校ヲ廃シ、本校ニ合併シ十二月二十二日、三ッ池分教場ヲ、設置シ、同組ノ、尋常科第四学年迄ノ、児童ヲ収容ス。
○三月二十六日卒業並ニ修業証書授与式ヲ挙行シタリ。

明治四十二年度
学級数　尋常科十（本校分）　高等科一。
経費総額　金二千三百七十円三十三銭。
（内、金二百七十六円四十六銭、三ッ池分教場分）
○四月二十六日第五学年以上ノ児童八十名、岐阜地方ヘ修学旅行ヲナシ、歩兵六十八連隊ヲ、参観シタリ。
○五月十六日　増築校舎落成式ヲ挙行ス。
花火、撒餅、角力等ノ、余興アリ。
○十月七日　秋季大運動会ヲ開ク。競技九十四回、父兄数百名ナリ。
○十一月四日　伊藤博文公ノ国葬。
○十二月二十七日　教員住宅竣工ス。
坪数十八坪五合。
建築費　五百十円（県ヨリ補助金アリ）

○二月十六日　児童学芸会、及　通俗講談会ヲ開ク。
内容ハ児童ノ談話、朗読、理科実験、唱歌アリ。当日、本県師範学校教諭、蒔田宗次氏、水力電気ニ付、実験上講話アリタルヲ以ッテ、父兄等ハ、大ニ了解シタリ。又、別室ニハ図画、書方、裁縫ノ成績品ヲ、陳列シテ、縦覧ニ供シタリ。
○三月二十六日　卒業並ニ、修業証書授与式ヲ挙行シタリ。

明治四十三年度
学級数　尋常科十一、高等科一、分教場一。
経費総額　金二千七百十一円十銭。
○四月十八日　第五学年以上ノ児童五十名ハ、名古屋地方ヘ、修学旅行ヲ成シタリ。
○十月十六日　韓国合併記念トシテ、本村各区ノ青年会ヲ、合併シテ、鵜沼村青年会ヲ設置ス。
○十月十八日　秋季大運動会ヲ挙行ス。
○三月二十五日　卒業並ニ、修業証書授与式ヲ挙行ス。

明治四十四年度
学級数　尋常科十二、高等科一。
経費総額　金三千百二十円
○八月　北校舎ノ増築起工。

○十月八日　秋季大運動会ヲ開催ス。
○十月一日　鵜沼村青年会総会開催シ、余興トシテ、青年ノ撃剣会及角力会ヲ、開催シタリ。
○十二月二十六日　北校舎増築落成式ヲ挙行シ、角力、撒餅の余興アリタリ。
○二月二十四日　元陸軍大尉、栗田徳次郎氏ヲ招シ、通俗講談会ヲ開催シタリ。
○三月二十六日　卒業並ニ、修業証書授与式ヲ挙行ス。

明治四十五年度
○学級数　尋常科十三、高等科二。
裁縫専修科一、農業補習学校二。
経費総額　金五千百四十七円
○山岡校長、大正元年ノ辞令ニテ、病気退職、其後任トシテ、稲葉郡芥見尋常高等小学校長、秋山勘次郎、同年十一月二十八日付ノ辞令ニテ、本校々長ニ、任ゼラレ、其他ノ職員ハ、全テ前年度ニ同ジ。

校　章

旧校舎の鬼瓦

明治卒業生座談会

座談会風景

出席者氏名
栗木　謙二
山田　武一
岡部　益衛
後藤　邦幹
大沢　善市
広江　義一
磯野　清二
岩城　文三
（順序不同）

栗木　百年誌を編集するに当り、私も名をけがさせて頂いているのですが、やはり、多くの人達の声を聞くのが一番いいのではないかと思いまして、今日長老の方達に集まっていただいてずっと昔のことになりますが、いろいろとお話しを、お聞きしたいと思いますのでよろしくお願いします。

山田　私が、連合広報会長をやっていた関係で、この度の百年誌編集委員長を、おおせつかったわけですが、それについて何か、皆さんの思い出話をお聞きして、載せてはどうかということで、今日まず第一回の会合を、持たせていただいたわけです。司会を、やらせていただきますので、よろしくお願いします。まず、最初に岡部さんから一つ何か。

岡部　古市場に、今の鵜沼小学校の前身があったということを、伊藤静夫さんなどから、聞いた事がある。

山田　そのようなことでいいですから、いろ〳〵お聞かせ下さい。例えば、栗木先生、最初は、尋常四年生までが、義務教育だったのがその後、尋常六年生までになったのは、いつ頃からですか。

栗木　明治四十年に、尋常四年生から、尋常六年生までが、義務教育に切り換えられたのです。

山田　その当時に、六年生では、男子生徒は、何人、女子生徒は何人位でしたか。そして高等科へ行ったのはどの位ありましたか。

栗木　女子で高等科へ行ったのは、二人でした。山崎と東町の子で、「山田つぎ」と「野口かつ子」という子でした。その時の受持ちの先生が、今の伊藤校長でした。叱り方が、非常に面白くて「栗木謙二、不注意きわまる。」といって叱られたものです。伊藤先生は、当時、自転車を買われて、学校へ通われた。当時、自転車は、今の自動車よりもめずらしがられた時代で、下渡しを渡られる時は、自転車をかついで、舟にのられたそうです。そして、学校へ来られると、自転車を大事そうに、なぜられていましたなあー。

後藤　大きな輪の自転車でしたねえ。

山田・広江　伊藤校長を、私たちは、知らないですね。

後藤　伊藤先生は、叱る時は、大きな声でしたが、又すぐ、ニコニコされていい先生でした。

栗木　伊藤先生の後が、山岡先生でしたねえ。山岡校長の時は、月給が二十四円支払わなければならないという事でしたが、とに角、山岡先生をお迎えしたわけです。学校の形式が大体整ったのが、山岡先生の時です。「忠孝」とか何とか、服務規定なんかは、今の先生が、御覧になると、気に入らないようなことが、書かれておりましたね。

山田　私が、六年生の頃は、男女とも、五十人位でした。それで、高等科へ入ったのが、女子が十二～三人位男子が二十人位でした。進学率は、百人のうち三十人位更に中学進学となると、一人位になってしまった。四年で卒業証書をもらって、高等二年で、また、六年生の卒業証書をもらった。そして高等科卒業の証書ももらった。明治三十九年に始めての六年生の卒業証書をもらった。明治何年に南北が統合されたのですか。

栗木　明治二十九年です。最初は桜井本陣の屋敷跡で

明治36年卒業生

明治40年卒業生

した。余談には、清州城の御殿が、移転されたという事ですが、二階作りの立派な建物でした。今の武藤の入口の近所が本陣の入口だった。学区制が発布されたと同時に、桜井本陣跡に、学校が設けられたのです。そして大山の成瀬家の侍官で（出身は美濃町）漢学者の頼山陽の門人で、この人が最初の先生でした。「村瀬太乙」校長先生でした。しかし実際には、授業を見にこられたのは、殆んどなかったそうですね。

広江　鵜南校は、今の古市場のお天王様の所にありましたね。佐森長右衛門が仲々の学者で、この人が、寺子屋をやっておられた、その後南校になった。その時の人数はどの位だったか。

栗木　百十名位が、桜井本陣当時の生徒数だった。明治二十四年濃尾大震災で桜井本陣が倒壊したので、その後、しばらく現西町公民館の近くで、仮すまいをした。私は、その時に入学した。その当時は、百人もいなかったと思う。殆んど、男生徒ばかりだった。先生は、羽場の愛宕神社の「愛宕の良様」だった。当時は、文庫という入れ物に、新聞紙の切ったのと、筆、すずりを持って、通った。「良様〳〵」といった。朝から墨をすって、新聞紙を真ッ黒にした。そして、「真ッ黒」にする競争をした。字の練習は、先生に注意されて、二字か三字書いただけだった。

磯野　当時は、勉強というと、読み書きだけでしたね。

栗木　北校に対して、佐森さんの寺小屋を、南校にした。その後、南北統合をすることになった。この時にいろ〳〵問題があった。とに角、今の処に校舎が作られたその当時は、新式な学校だった。今の正門が入口だった今の体育館の処に職員室があった。南と北に三教室の計六教室が出来て、理想的な学校が作られた。開校式の時には、餅投げが行われた。鵜沼に青年団が出来たのは、明治四十二～三年だった。私が作ったのですが、初代会長は村長だった阿部源一村長だったと思います。

広江　後藤さんも、鵜沼小学校で二～三年、先生をやっておられたですね。「その当時の先生の月給は、四円五十銭だったですね。校長先生はいくらぐらいですか。

栗木　さあ、十円か、そこらだったかな。

後藤　代用教員が、四円五十銭。正教員が七～八円だった。

司会　校章を作る話しは、どうでしたか。思いつきですか。

栗木　学校のシンボルがなければいけないということで校庭に、八重桜が咲いていたので、それを図案化、校章を作った。そして、一ヶ、四銭で売り出した。

大沢　習字を書いて出すと、八重桜の真中に、「優」と書いた印を押して、はり出してもらえた。

司会　成績表は、和紙でしたか。

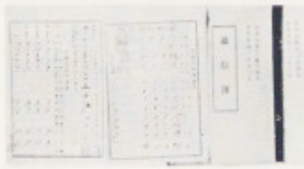
栗木　当時、通知表は、個人には、出さなかった。学校に残っただけです。父兄会もあまりなかったです。

岡部　私の時代には、通信簿をもらってきました。日本紙でした。

司会　甲乙丙でしたか。

山田　一点、二点だった。一点が一番よかった。わかりよかったな。学校の先生も、ロクに試験は、やられなかった、いい加減なものだったですね。

卒業証書



通知表

司会　当時の重点目標は何でしたか。

山田　教育目標は大きかったですよ。とに角、教育勅語が中心の教育でしたからね。

岩城　試験の答案で十点もらっていても、通信簿ではいい点がもらえなかったですね。つまり、品行が悪いのでいかなんだです。

司会　つまり先生の主観が、非常に大きかったわけですね。

岡部　昔の教育のほうが、人間性が出来たような気がしますね。

栗木　昔の教育は、よくないとかいいますが。

磯野　今の教育は、民主教育とか言いますが、やはり昔の教育の方がよかったと思います。

山田　そりゃあ、昔は「三歩さがって、師の影を踏まず」と、先生に対する観念があったからこそ、先生の云われることを、よく聞いたのですね。

栗木　先生に叱られたとか、やらされたとかいうのではなく、生徒は、一生懸命先生の教えを受けたものだし、また、先生は先生で、なんでもかんでもこの子を、忠義で、孝行な子にしてやろうという気持で、一生懸命だったものです。その為に、ビンタを取ることもあった。

山田　昔の教育は、いいものがあると思ったねえ、今

の教育のやり方ではどうもねえ。

広江　もう少し、何かピンと来ないところがあると思うねえ。

司会　学校の生活で、机とか黒板は、いつ入ったものか、また、掃除は、いつ頃からしたか。

栗木　黒板などは、明治四十年代には、もうありました。黒板といっても、今の様に良いものではなく、四分板を張ったものに、墨をぬって、作ったもので、夜になると、先生が、墨を塗り直しては、使ったものです。

山田　今の計算でも、大きな数は、計算器や、何かがあって、便利かもしれないが、商家へ奉公に行くには、やはりこまかい計算が必要だった。その為にも、二・一天作の五の方法が、良かったね。日常使う計算には、やはり、そろばんが、一番便利だと思うがねえ、今の教育では教えますか。

石田　基本的なことだけは、教えております。

司会　八重桜は、校庭に沢山ありましたか、場所は、今の南舎の自転車置場のところにありました。最後は、かれてしまいましたが。

教育勅語の写真

栗木　きれいなのがありましたよ。

山田　今で一番古い校舎は、南舎ですかね（南舎は、昭和四十九年に取り壊す）あの南舎の竣工式で岡部君が町会議員をしていて、祝辞を述べたことを、覚えている。あれはいつ頃でしたかな。

岩城　私が、二十六才位の時だったと思いますね。昭和の初めかな。

岡部　大正十二～三年頃だったと思います。

栗木　南舎は、六教室で、教室と講堂兼用の校舎として、建てられたものです。各教室の仕切りをはずすと、講堂になり、欄間の大きさを違えて、音響効果を考えて設計されたもので、非常に良く考えて、作られてありますな。

司会　過保護、物を粗末にするのが今の子供の姿なのですが、昔は、いかに大切に使用したか、そういうことをお聞かせ下さい。

山田　物より金のほうが大切という経済が、現在の考え、昔は、金と物との観念は、別々として物を大切にし、なんでも繕って使用した。今は繕う間に働きに出て、賃金をもらい、それで買ったほうがいいという時代だ。

磯野　小使いを一銭もらうにも、なかなかもらえなかった。そのくらい大事にお金を扱ったものだ。

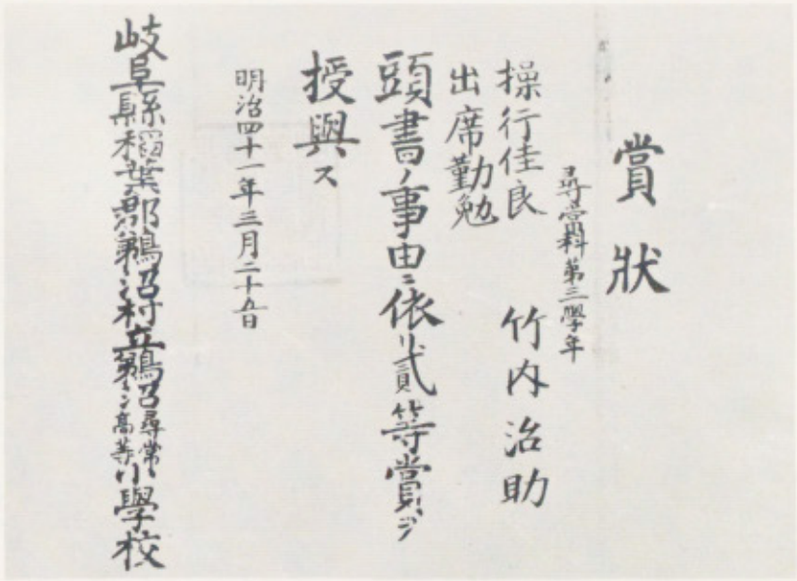
後藤　やっぱり、物を大切にする教育を、してもらいたいですね。

山田　昔の教育は、昔なりによいものが多くあったなあ―。

司会　それでは、まだまだ話し合ったり、お聞きした

いことが沢山ありますが、今日はこの辺で終りたいと思います。どうも、ご苦労様でした。

南校舎



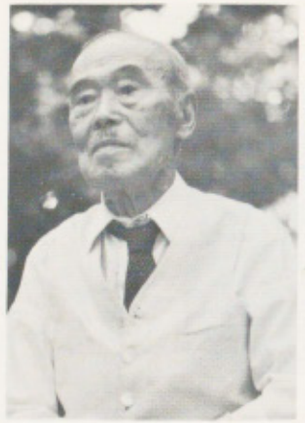
賞状

尋常科第三學年
竹内治助
出席勤勉
操行佳良
頭書ノ事由ニ依リ貳等賞ヲ
授與ス
明治四十一年三月二十日
岐阜縣稲葉郡鵜沼村尋常小學校

賞状

けやき(の木)は語る

栗木謙二



栗木先生近影

私は鵜沼第一小学校の上の運動場に、私なりの生甲斐を求めて、私の生涯に感謝し、力一杯に根を張り枝を伸ばして、児童の皆さんと共に愉快に励んでおる欅であります。

私は明治四十二年四月、歳は三つの時、身の丈一米半親指くらいの若い、苗木の子どもで、仲間といっしょに藁菰につゝまれて、郡事務所から鵜沼役場に配布せられその玄関先に無雑作に留めおかれました。

ちょうど翌日曜に隣の学校の若いK先生が、いつものように遊びに来て帰りに私等欅苗二本を、持ち帰りました。私はどこへ行くのかちょっと不安でありました。

K先生は鵜沼小学校新玄関前に植えられてあった、学校創設当時の田玄関前にある由緒ある松の木にもたせかけ、菰をほぐして水を注いでくれました。一週間程水に飢えきっておった時であったから、その水の甘かったことは今も忘れません。

翌月曜に、K先生が昼休みの時間に、Y校長さんの許可があったかなかったかは知りませんが、当時日露戦争の分捕品の大小二丁のシャベルが大切に保管せられてあったので、とっさのことで、これを持ち出して北側校舎東便所の端ぎわに、大きな穴を堀って植えてくれ、私の運命はきまったのです。

ところが、K先生は困ったことになりました。それはとっさに取り出したシャベルの先端が光りだし、穴堀りに使ったことがばれるからです。早速錆らかす為、学校前の大島屋のおばあさんに塩を、もらって塗りつけました。こんな心配をされたことは、私一人が知っておるだけでしょう。しかし私はK先生の、ご苦労なんか深く感じもせず、ただ土にかじりついたのです。

私の住みついた所は畑地で、よく肥えているから十分に根を張り一年一年伸び、ついに庇をのっこすようになったので、K先生が樋の掃除に来て、「邪魔にならぬように成長するのだ」と言われたことを覚えております。

私と手をつないで来た欅君は、後に聞いた事であるが各務の山の前から通勤しておられた五島先生が南側校舎の南面に植えられて、今も繁茂しております。

時は流れ校長先生も、次から次へとお変りなって、三

人目のT校長先生の時、私が余りに頑張りますので、中段から丸坊主に切られてしまいました。しかし根元からでなかったから、命だけは助かり今日あるを得ました。

ちょうどその年、五島先生が病気退職となって、全校生徒への言葉に

本校シンボルの大けやき

「今、私はあの欅の木のように切られて去って行くが皆さんは如何なる困難にもまけず、欅の木が必ず芽を出すように、元気で丈夫で立派な人になって下さい。」と涙で申された。そんな事は無心の生徒はあまり感じなかったようでしたが、卒業生同窓会の席上で当時の物語に涙が出たと童心に帰って話が出るそうです。

私は五島先生の申されたように、翌春になって幹一面に新芽をふきますと、K先生がむだ芽をかき取って、切り口に格好よく適当な芽を残してくれました。

幼少の頃から皆さんのご厄介になりましたが、北校舎が移転改築せられ、私は運動場のほとんど中央に陣取り私の得意時代となって、枝葉は益々繁り、傘をひろげたようになりました。夏は児童に日影を作ってやり、親しまれるようになりました。

蘇原の熊田から毎日〳〵徒歩でコツ〳〵と、通勤せられ新入生常受持ちの、あの小柄の広井先生が、私を取り巻いて、鳩ポツポ遊戯を教えられる時、私もついて歌いました。あの無邪気なお顔が、今も目にうつるような気がします。

「光陰矢の如し。」と申しますが、知らぬ間に昭和七年四月には、私の産婆役のK先生は退職せられ、七月村会議員に当選され、終戦後には町長に就任せられ、続いて、町・市の教育委員となられた。その間教育委員長として十五年も学校に関係されたので、折々来校せられて、私を見上げ、何か話でもするように、私の根元をまわっておられました。

今度は、生徒ならぬ鵜沼盆地の蟬が、私を見つけて、幾百千匹も集まって来て、大演奏会ならぬ大合唱でやかましく学校側でも、授業上問題になったらしく、終戦後になって、新校長H先生は下枝打ち払う事を、提案せられたそうです。K先生の町長はこれを聞いて、「ちょっと待って下さい。蟬は土用十八日間が最盛期で短時日だから少し辛抱して下さい。また、駆除方法は他にもあるはずだ。」

と申され、新校長先生も欅の由来を知って、心よく理

解され下枝切り払いの危機はまぬがれた。

ところが第二回の危機がまたやって来た。それは第一小学校体育館建築に邪魔になるので、処分すべきだという意見も出たらしいが、教育委員長は、思案の末、「明治の始め東京日比谷公園拡張の折、大銀杏が邪魔になり当時の星文部大臣は、取り払いを指示せられた。ところが、当時有名な本多農学博士は、東洋美術学上大切なる銀杏であるから、その保存法を陳情せられ、是非移植するよう熱心に嘆願せられついに許可せられ、当時の金額で四百幾円の経費で、その目的を達せられたことを聞き及んでいる。

この欅も他に財源を求めても、伐採を中止するべきだと強い信念を持って、当時のN校長にも相談せられ、そのまま保存せられる事になって、私は命拾いをしました。

私は六十有余年、この運動場で皆様のお世話になった過去をふり返って見ると、色々のことがあったが、それにも増して忘れることの出来ぬのは、私の根元を固く踏みしめ立派に成長せられ卒業して行かれた、幾千人の生徒さんのことです。

その中には、学会に名を挙げられた広江美之助博士、竹山説三博士あり、政界に活躍せられた武藤嘉一、嘉文の父子、岡部益衛の方々様、また、郷土産業発達の為に尽くされた方々の数は限りありません。

この百年の伝統と名誉ある鵜沼第一小学校の生徒の皆さんよ!!。私、欅は力一杯根を張り枝葉も茂り続けて来ました。なお、これからも母校の名を汚さぬよう幾百年後までも頑張る覚悟であります。

私が根と枝が相調和して、大きくなったように、皆さんも健康な体と、健全な精神を持って立派で有為な人となって新時代に役立つ人となって下さい。

【備考】

Y先生　山岡先生　　T先生　棚橋先生

H先生　服部先生　　K先生　栗木先生

逞しい裸のけやき

教育勅語時代

片桐綱男

私の母校が、この度百周年を迎えたことを聞き、時の流れの早さに驚くと同時に、明治、大正、昭和と、三代に渡って生きて来た私自身を、「よくぞここまで。」との感慨にひたっているこの頃です。折しも「明治の頃の学校の思い出を書いてもらえないか。」との依頼を受け、遠い昔を偲びつつ、つづった次第です。私が聞き伝えで記憶している、明治初年頃の学問に関して記してみますと、当時、学問の好きな人は私塾や寺小屋において学ぶのが精一杯でありました。明治維新後、廃藩置県が施行されましてからは、「教育は人生の基礎である。」と言われ、同時に文明開花の為にも普通教育の急務が叫ばれ、学制令が発布されるに到ったことです。また、明治二十年頃、明治大帝が全国都道府県の知事招集の節「教育の基礎とはいかなるものか。」との御下問に対し、知事連は明確な回答が申し上げられなかったとのことで、急拠、明治二十三年十月三十日、かの有名な、「教育勅語発布」が成されたのであります。そして、この教育勅語なる教育の真髄は明治、大正、昭和の終戦まで、長期間にわたって受けつがれて来ました。さて学制令が発布された当時、鵜沼の宿場のあった中仙道添いには、役場、警察、学校（当時は、本陣跡に北尋常があった）があって、この頃の学則には!!ムラニ不学ノ戸ナク、家ニ不学ノ人ナカリシメン事ヲ期ス。人ノ父兄タルモノヨロシク、コノ意ヲ体認シ、幼童ノ子弟ハ男女ノ区別ナク、小学ニ従事セシメザル者ハ、父兄ノ落度タルベキコト!!等と、布告されていたそうです。その後、明治二十九年に、南北校が合併され、現在の鵜沼第一小学校のところに位置づけられたのであります。

このように学制発布。教育勅語発布と普通教育の基礎が徐々に確立されて来た明治中後期、即ち、明治三十三年に、私は鵜沼村に生まれました。そして明治四十年四月、稲葉郡鵜沼村立尋常高等小学校に入学しました。入学当時は、山岡清校長先生でした。当時の主要教科は一年生は、修身、国語、算術、唱歌、体操となっていました。二年生までは、現在のようなノートはなく、紙石板に字を書いて学びました。三年生になると習字が、四年生からは珠算が教科に加えられました。

また、当時三ツ池には分校がありました。五年生になると分校の生徒は、本校に通うことになっており、私が、五年生になった時には分校より男女あわせて十五、六名が通学してきました。

教科は、更に歴史、地理が加えられました。

六年生を卒業するまで、男子組と女子組に分れて勉強しました。高等科一、二年は男女共学で、男子約二十名女子は十三名だったと記憶しています。

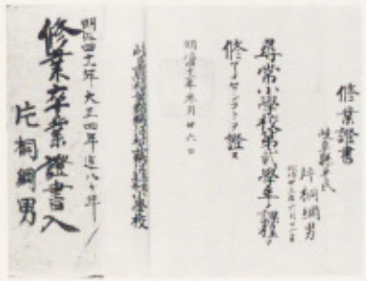
又、私が入学した頃には、現在の各務にも小学校があり、そこの小学校を卒業すると現在の山の前、各務中組東組は、鵜沼の高等科へ、須衛、西組は、蘇原の高等科へ通学したものです。生徒は全員徒歩で、晴天の日は、わらぞうり、雨天の日は、下駄または裸足でゴザを着用し、雪の日は、素足にわらぞうりをはいてかけ足で登校したものです。

更に当時の学校で毎年挙行された三大節（拝賀式、紀元節、天長節）を始めとする式典には、必らず君が代斉唱、教育勅語奉読が行なわれました。

こうして私は、大正四年、尋常科、高等科と、八年間に渡る、教育課程を終了したのであります。卒業時は、秋山勘次郎校長先生でした。

それから五十八年の歳月が流れ、この度鵜沼第一小学校の百周年の記念式典が盛大に挙行されるということは私にとって誠に有難く、誇らしく思う次第であります。終戦後、私も子ども、孫どもに、母校である鵜沼第一小学校で「新教育」という、名のもとに学ばせて来ましたが、戦後、二十八年を迎えた今日、「教育勅語」に準ずる教育の再現を望んでおられる方も多くあるのではないかと思います。いかがでしょうか……

☆☆☆☆□☆☆☆☆



修業証書

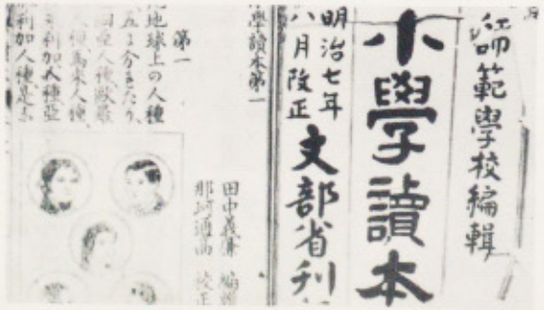
私の小学校時代

大沢ちよ

私は明治四十二年生まれですから、あの頃の稲葉郡鵜沼村の小学校へ入学したのは、大正五年頃だったと思います。

あの頃の一年生は、今のように鉛筆でノートに字を書くのではなく石板に石筆で書いては消し、消しては書いて勉強したのです。一年生の最初は、ハタ、タコ、コマ、でカタカナのけいこでした。ひらがなは多分二年生からだったと思います。

一年生の頃は粗末ながら買ってもらった鞄でしたが、



教科書

大きくなればみんなが風呂敷包みでした。風呂敷に包んでまん中をひもでしばって肩にかけ毎日学校へ通ったものでした。

私が一年生の頃は、この辺にはまだ汽車も電車もひけてはいなかったので、遠足は各務野の飛行場か前渡のお不動さまへ歩いて行きました。

この辺に電燈がついたのも、たしか私が二年生の頃だったと思います。高山線の汽車がひけたのは、それより後だったとおぼえています。あの時は旗行列をして学校から鵜沼駅へ行ったのを、かすかに記憶しています。先生に連れられて友達とならんで駅へ行ったら、大勢の人がいて、大にぎわいで万才を唱えて帰ってきました。

小学生時代の思い出はもうはっきりしたことは、あまりおぼえていませんが、一年生のとき教えていただいた広江先生がいつ頃だったか、亡くなられたときいた時、子ども心にもひどく悲しかったこと。また四年生の時山添先生が、五年生には光田先生が、転任になって行ってしまわれた時の淋しかったことは今もおぼえています。それから六年生の修学旅行に養老の滝や大垣城へ行った時、私は生まれて初めて汽車に乗りました。靴も初めてはきました。友達もたいていの子がそうだったと思います。本当に喜び勇んで行きました。

あれからもう五十余年たって、私は六十代も半ば近くなりました。ほんとうにぼんやり年をとってしまったような気がします。今年の春までは、孫が小学校へいっていましたので授業参観などで、時々、今の小学校へも行ってきました。そんな時よく自分の小学生時代を思い出しました。

暑い暑い夏の日、また寒い北風の吹いていた冬の日のあの学校の校庭での思い出。ずいぶんたくさんあるのですが、ぼんやりして途切れてしまって、とても書くことは出来ません。が、あの頃の学校の様子や運動場にあった大きな樫の木、銀杏の木は今でも目をとじるとはっきり頭の中に浮かんできます。

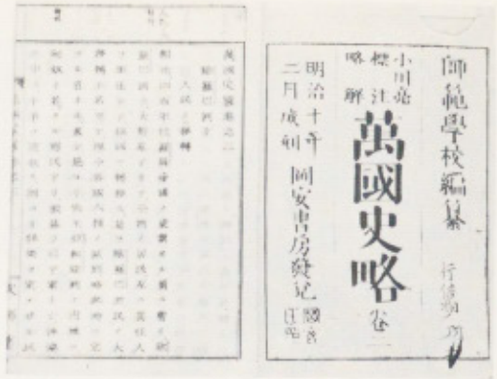
☆☆☆◇☆☆☆

楽しかった遠足

保浦仲一

明治生れの人間に小学校時代の思い出などと言われても、六十年近く前のことで気の遠くなるような話で、今考えると感慨一入のものがある。

当時は現在の時勢と比ぶれば、格段の相違があって、文教・社会・経済の面に於ても、未開発国の様相をさらけ出していた時代であった。学業の一部においても国語科を読本・数学科を算術などと称していた。また修身と言う道徳科目があり、教育勅語の奉読を、毎月曜日、朝の時間に行なった。君に忠義・父母に孝行と教えられ、



教科書

国を愛する思想をふき込まれた。専ら精神教育に主力が注がれたものです。そして教育勅語は否応もなく学童に対して絶体的であった。それを常に心がけていた時代で今思うと、人間として生きて行く上で心の糧になっていることを、今更ながら深く考えさせられる。

現在の教育行政ではすべての点において充実した勉学ができるが、当時は学校の設備は勿論のこと、学童の使う文房具なども貧弱でした。それも今思い出してみるとそれはそれなりに懐しいことだ。

低学年は、石板「黒い石の板」と、石筆「白い石を細く棒状にしたもの」を使ったもので、小学二・三年級にならないとノートや鉛筆は使用できなかった。学校の設備品などは体操に使う「跳び箱」ぐらいが主だった。現在のように屋内体育館や水泳プールなどは、もちろんなくて、水泳と言えば、よく木曽川（小伊木河原）へ先生の引率で行ったものです。また、野外教科の時間には、近くの堤や野原へ出て、地雷管を背負って敵の陣地へのり込んだ勇士の話や、また敵の攻撃を受けた時の防衛策など戦争の話を聞いた。

何一つ思い出しても懐しいものばかりだが、何といっても小学校時代は遠足が一番楽しい思い出である。今と異って、洋服など着ているものは殆んどない時代で、和服に草履ばき、それに母の作ってくれた、梅干入りおにぎり弁当を白布に包み斜めに肩へかけ、乗物等は勿論ないので徒歩、今のように自動車もないので、交通事故の心配はない。右に左にきれいな野花を眺め、小鳥の囀りを耳にした遠足の一日。どれもこれも去りし小学時代の「思い出」として心の片隅に残るわが人生の一駒です。

☆☆☆■☆☆☆

赤座先生の思い出

野入くわ

母を亡くした私は、小学校二年生の九月名古屋橘小学校から鵜沼分校に転校、当時赤座先生は一年生から四年生まで総数五十人余りを指導されていました。一教室に四学年、学年毎に机を並べ、先づ一時間目と二時間目をクラス別に算数と国語に分け、一時間目が始まると四年生が最初に国語、前日覚えたところを一人づつ黒板の前に出て朗読、つまればそのまま立っている。次々と出て

一回り済むと二、三名は立っている。その間に先生は三年生の算数問題を黒板に書き出され、児童は黙々とやっている。次は二年生の国語、先生が二度読まれる。後は児童たちが一人〳〵と交替でよむ。待っていた一年生に数字を教え、石板に書くよう申されて、四年生の番だ。立っていた生徒は席に帰る。先生の読み書きが始まる。ここまでと言われ三年生の方へ行かれる。

教科書

四年生は席のまま、一人ずつ交替で読む。つまれば誰かが教える。十数人が読み終る頃、先生が来て漢字を黒板に書くように言われる誰々さんはこういう字、ああいう字と言い付けて、立ち去る。その間、先生は一、二年の方だ。交替で書き終った頃、先生は来て字の書き順や、間違いを、いろ〳〵注意して一時間目終り。二時間目は四年生が算術、三年生が国語、二年生は算術、一年生が国語と変る。三時間目は体操。全生徒が一緒になって一二三四、二二三四、四二三四、それが済むと一寸法師、金太郎、兎と亀など遊戯で楽しむ。雨天の場合は、先生のお話。昼食後は三、四年が学級で先生のお話。一、二年は習字と、時間割に依り上手に教えられ児童たちを叱るということがない。

掃除の時間は、兎も角ほめる一方、スウちゃんはスーとやる。サァちゃんはサッサッーとやるという具合に。私なんか、ぼさあっとしていて、てつだわざるを得なかった覚えがあります。また、私は三年生の時、雪が積っていた寒い朝、下駄の緒を切らして足袋はだしで登校中、後から見えた先生は「おお冷たかろう。急いで学校へ行きあたらせてやるから」と言って三尺四方もある火鉢で火をたき、足袋を乾かすやら下駄をすげて下さるやら大変お世話になりました。また、遠足の時でした。前渡のお不動様へ行く途中、私は腹が痛み出して困っていると、友達が先生に話したので、「ここでひと休みしよう」と言って三十分以上も私の背中をさすって下さった。幸い通りかかった人に私を頼んで家へ帰らせ、翌朝お見舞を受けたこともあります。

赤座先生は本当に優しく大きいものには飲まれよ。長いものには巻かれよ主義の良い先生で、一口にいえば、「実る程頭を下げる稲穂かな」の言葉通りの先生で、飛鳥の如く飛び回わり児童たちを叱るひまがなかったのでしょう。実に人間味豊かな熱心な先生であり、素晴らしい先生でした。

受賞の思い出

竹山ゆきゑ

私は明治三十九年十一月二十九日生まれ、大正二年四

月一日に入学しました。

教科書

おかあさんが忙しいので、小さい時から桑のじくを取ったり、桑むしりを手伝いました。

学校に入学する時には姉について行きました。

学校の門の入口の西側に枝ぶりのよい松の木があり、その東南の角に井戸があり、井戸水を木のつるべで汲んで教室のぞうきんがけをしました。

一年生に入学した時は、カタカナを習いました。数学は先生が黒板に問題を書かれるので、それをノートに写して家に帰り、家で問題を解き翌日先生に見てもらいました。

読本は学校で習ったことを、家に帰り暗記して翌日学校の教壇で暗唱しなくてはなりません。暗唱の出来ない者は罰として一時間立たされました。

弁当は家に食べに行く生徒もあり、持って来る生徒はお茶当番が、家へ取りに行き、持って来たお茶で、弁当を食べました。

体操の時間は春は、しょうろ・つつじ・秋は、しめじ取りに近くの松林に行きました。運動会には本校まで、一年生から四年生まで全員、一里八丁の道を徒歩で行きました。弁当は、梅干の入った日の丸のおにぎりでした遊びは、お手玉・まりつき・縄とび・冬は寒いので、はた結びをしたりしました。

掃除は三年生の時から、午後は教室を全部やり、朝の当番は机の前と後ろのあいている所と机のふたをふきました。

四年生になると教育勅語を暗唱しました。暗唱出来ない者は家に帰れません。

女生徒はお裁縫を山田警察の奥様におそわりました。赤座先生は厳しい先生でしたから、分校の生徒は本校に行っても恥ずかしいことはありませんでした。

五年生になり本校に行くと朝礼があり、浅野先生の指揮で「君が代」を斉唱して、校長先生の号令で最敬礼をして教室に入りました。本校に行って五年の時、子守りをしながら学校に来る子が四人いました。頭にしらみがいて着物も貧弱でした。私たちの食べ物は米三分、麦が七分のご飯でした。

夏休みには麦を石うすで引き割るのが仕事でした。

着物は縞柄、帯はすごきでした。はき物は下駄や藁草履でした。冬寒い時には足と着物の間のつとわらに、ひびが切れる子もいました。

五年生は土屋先生、六年生は柴山先生でした。先生は親切で好きな先生でした。生徒は四十八人でした。数学

の試験に百点で鉛筆一ダースずつ六人いただきました。
お裁縫は四ッ身の着物を早く上手に縫い、足立先生にほめられ、ノート一冊ずついただきました。六年生の時一等賞になり、模範学生自習事典をいただきとても嬉しかったことなど、この年になっても忘れることは出来ません。

☆☆☆☆●☆☆☆☆

分教場と赤座先生の思い出

大岩静雄

歳月の流れは実に早いもの、小学校を卒業してから半世紀、鵜沼第一小学校創立百周年。思い出そうと思っても思い出せないことばかり特別なこと以外殆んど忘れている。

三ッ池尋常小学校以前

鵜沼村北校下であったが、鵜沼村の最西端にある三ッ池部落の子どもは、隣村前渡村公立時習小学校に委託通学していた。

明治二十四年十月二十八日、根尾に源を発する濃尾大地震は、マグニチュード八・四。死傷者七、二七三人。家屋倒壊一四二、一七七戸(中日新聞より)の大被害をもたらした。この為時習小学校は倒壊。三ッ池部落に一校設立の声がたかまった。明治二十五年二月二十一日水口兵次郎住家を仮校舎として、蘇原村三柿野赤座鶴次郎先生に教鞭を頼み開校す。当年度経費金五十八円也。男子生徒二十一名。女子生徒十八名。

三ッ池尋常小学校

明治二十五年五月その筋の認可を得て、三ッ池尋常小学校と称す。修業年限三ヶ年。

三ッ池尋常小学校設立後

明治二十六年九月十一日校舎新築、同年十一月二日落成式。明治三十年十二月修業年限四年の認可あり。本年度の経費、百二十三円五十銭とあり。明治三十二年の就学生、男一〇〇名。女八四名。就学率八〇%。明治三十三年十月二日赤座鶴次郎先生校長兼任を命ぜらる。明治三十八年度の経費、二百三十二円とあり。明治四十一年四月より義務教育年限六ヶ年となり、五年生以上は鵜沼尋常高等小学校へ通学が決まる。明治四十一年十一月五日三ッ池尋常小学校は廃校となり。以降は鵜沼尋常高等小学校三ッ池分教場と称す。

分教場移転

大正十四年各務野地区(現在地)に移転改築し、七月五日落成式。七月六日より三ッ池、大伊木、各務原区、の四年生以下の児童を収容することとなり、各務原分校と称す。

学校名改称

明治十六年四月一日国民学校令に従い、鵜沼国民学校

各務原分校と改称す。初等科一年より四年まで五学級約二二〇名収容。昭和十七年四月以降は大伊木区の児童は本校に通学となる。(児童数年々増加し教室不足となった為)昭和二十年六月九日、初空襲で機銃掃射攻撃を受ける。目標は飛行場内の飛行機の為校舎児童に被害なし六月二十二日B二九編隊による大空襲。校下被害甚大、児童一名(各務原杉浦ちず子)母親と共に爆死。その他父兄爆死者多数あり。各務原、三ッ池方面被害多し。六月二十六日B二九編隊九十機来襲。校下三ッ池、川崎地区被害極めて甚大。すでに六月二十二日第一次空襲で児童の約三分の二は父母の郷里、その他縁故を求めて四散し消息不明となっていた。七月十三日夜間、焼夷弾豪雨の時校舎周辺に大型焼夷弾多数破裂、その一弾が西校舎に命中、三教室を全焼(東三教室は無事)以降は各部落にて分散授業。九月二十日三ッ池地内元養成隊兵舎跡を仮校舎として戦後の第一次的授業をはじめる。離散児童の約半数以上が復帰し、又復員関係の他転入児童多くなり児童数二〇〇名を越す。昭和二十一年三月各務原元校舎跡に旧飛行隊の兵舎二階建一棟を移築し、校舎復興工事開始さる。同年九月校舎落成。三ッ池の仮校舎より移転。授業開始せるも各室は教室向でなかったが、一応学校としての機能を取戻した感あり。(以上は昭和九年四月一日より昭和三十五年三月三十一日まで三十有六年、此の道一筋に教鞭を取られた元小森秀雄先生の原稿による。)

分教場跡

鵜沼尋常高等小学校三ッ池分教場の様子

分教場の位置は、現在の三ッ池第二広報会西部にて、校地や校舎の面積は記憶がないが、とに角狭い一教室で一年から四年までの児童が、一人の先生に教えられた。校地の南西に火の見櫓が雨や風にさらされていた。

現在の学校との比較

現在の学校は校舎敷地、生徒数これに伴なう諸施設は当時のすべての数十倍、また児童数四学年で約十名で、今日では想像も及ばぬ形態であったが、全児童が一抹の不安もなく心身共に楽しく元気で、くる日も〳〵過ごしたその当時が想い浮かぶ。山川草木すべてが再び喜んで私たちを迎へ来るような心地がする。

服装は木綿の着物で、履物はわら草履、かばんは手製

の風呂敷を縫い合せたお粗末なもので、通学の時は脇の下にかかえこんで通った。次いで大正八、九年頃は、かばんの形態が変って、右肩より左脇下にかけられるものになり、急ぐ時には左手で抱えて走ったものです。

登校の時は、部落の上級生が其の指導者となって、必ず整列して通学し、下校の時は学年毎に帰った。

遠足・修学旅行

遠足は、おがせ池、前渡不動明王、犬山遊園等まで、日の丸弁当を白風呂敷に包み、右肩より左脇下にかけ、水筒は一部の生徒が持参。女生徒は袴を付け、前夜は嬉しくて寝られず、今思えば想像も出来ぬ最高の行事であった。又、秋の運動会には、紅白の帽子をかむり、連日の練習、本番となれば我が家から、シャツとパンツを身につけ、日の丸弁当を持ってカバー（運動の時にはく足袋）をはいて一目散に学校へ行った。今思えばそんなことと笑うでしょうが、それが事実で心からの運動会であった。

子供の躾の面

昭和二十二年四月より教育制度一大改革。六・三・三制となり、学習指導要領も一変し自由平等、個性尊重と言う看板に塗りかえられて二十六年。この教育を受けた方はすでに社会人ですが、国土民族に関係の深い感謝報恩の念が薄いように思われます。茅誠司先生（元東京大学総長）が、常に力説されているように、学校や家庭での躾が大切です。

恩師の思い出「その一」

故赤座鶴次郎先生は蘇原村三柿野、赤座円右衛門の次男として明治三年に生まれ、明治二十五年から大正十四年三月まで三十有五年、この道一筋に尽された。分家の時譲り受けた田畑約五〇〇アールを、家族（妻女子四人）だけで、人手を借りることなく耕作された。文字通りの勤勉努力家です。

恩師の思い出「その二」

大正年代には、各家庭でお正月用の餅を一俵以上つくことは珍らしくありませんでした。その時代の赤座先生家の出来事。蒸篭に入れて、蒸しあがった餅米をウスでつくことは何人も知っておられる。空になった蒸篭の底部の簀が器の上に平になっていないのに、そのまま餅米を入れたので餅米は、簀とともに土間に落ちた。奥さんは「お父さんすみません」と言われた。その時返す言葉でたいがいの人なら「どうして確かめて入れぬか」と大喝するところが、先生は「俺が悪かった」と返された。奥さんは「いいえ、私が悪かった」再び謝られた。この美しい気高い光景を見て、私は子どもながら先生は、実に偉い人だと思いました。

恩師の思い出「その三」

大正十五年二月、勲八等の栄誉を受けらる。大正十五年十二月十七日病魔に侵され、遂に帰らぬ旅に立たる。

告別式の参列者幾百人。三ッ池青年支部長加藤美佐雄、参列者を代表して弔辞を捧ぐ。

「故赤座鶴次郎先生の霊に告ぐ、先生は……」と音声が式場に流れし瞬間、はかり知れぬ悲しみはいや増しぬ参列者一同、悲しみのどん底に突き落されし心地して、声をあげて泣きくずれぬ。流れ出ずる涙は止まず。これを境に、師と我等住む地を幽明と分からぬ。

思えば、先生は基礎教育尋常科一年より、四年までを一身に担い、資性温厚篤実にして、研究の念強く、ししとして教鞭一筋に精励し、終始一貫倦むこと知らざりき。関係当局の方々をはじめ、父兄の信頼厚く、大いに将来を嘱望せられ、衆の敬慕せし良き師なり。

されど、遂に立つ能わざりき。先生今やすでにこの世に無し。生者必滅は人生の鉄則、誰か死なからん。真に痛惜の情切々として、湧き出ずるを禁ずる能わず。遺族始め衆の心中を思ふ時、ただ〳〵断腸の思い、慰む詞なし。嗚々悼ましき哉。

されど、人事を尽せし先生の功績は　乎として、崇高なり。その教育精神は鵜沼小教育史の第一頁を飾る。

前渡不動の参道

明治時代(三つ池分校)卒業生座談会

一、日時　昭和四十九年七月十八日
一、場所　三ッ池公民館
一、司会　稲垣好夫

【出席者】

竹山匡一　小林義雄　桜井　覚
竹山誠一　桜井誠一　桜井一枝
竹山ゆき

司会　明治時代の学校の様子など、当時のお話を、うかがいたいと思いますので、よろしくお願いします。

竹山(匡)　明治四十年に分校に入学して、四十四年に、本校に通学したが、その時の本校の雰囲気と、建物の大きいのに、まずびっくりしたなも。当時、本校校庭には大きな八重桜の木があったことを覚えています。そして生徒は、七百名ぐらいだった。分教場は、五十人から六十人だった。それで、本校には、一年生から、高等科二年生まであった。建物も、だん〳〵改築されて、今では変ってしまい昔の面影は、なくなってしまっちょるわナ。我々は、中仙道（約五粁）を通学したが、途中でいろいろいたずらをしたので、先生によく叱られました。中仙道は石ころの道で、大きな松並木があったが、これは伊勢湾台風で、全て倒壊してしまったようです。

本校の運動会は、非常に賑やかで、楽しいものだった。私も子供ながらに一生懸命やりました。

小林　私は八十一才の老人です。明治二十五年四月に三ッ池分教場が開校され、私は明治三十一年四月、七才にて入学しました。当時の校長は赤座鶴次郎先生でした。児童は約七十名で、一年生から四年生まで、一つの教室で一人の先生で勉強しました。朝の授業開始は九時でした。当時は、陸軍演習の大砲の発射音で、授業が時々中止されたりしました。

しかし、その後大砲の発射演習は中止になったので、よく勉強も出来るようになりました。

私は明治三十四年三月に、三ッ池分教場を修了し、赤座先生にもお別れを告げました。

そして、三十四年四月に、本校に入学しました。当時の校長は伊藤幸次郎先生でした。

当時の中仙道は、人通りも少なく、武藤嘉門先生が、岐阜の店へ人力車で、お通いになる姿を、度々見かけたものです。

又、私の子供時代の嬉しい思い出は、明治二十七・八年の日清戦争の戦勝祝い、明治三十七・八年の日露戦争の戦勝祝いと、四年生の修学旅行で、犬山城の下から、舟で笠松まで行き、そこから徒歩で岐阜へ行ったことです。又、前宮に大火災があったことが、恐ろしい思い出として残っております。

桜井(覚)　私は、一年から四年まで、三ッ池分教場で学んだが、当時先生は、赤座先生一人でした。先生は大変元気で、気が長く、優しい方であったと、記憶しています。

五年生より本校へ通ったが、校庭にあった大きな紅葉の木が懐かしく思い出に残っております。夏は紅葉の木影で遊び、シャ〳〵と、蟬の鳴くのを聞き、秋は色づいた紅葉の木を眺めて、美しいと、思ったものです。

子供の頃の楽しい思い出は、苧ヶ瀬の池端のお開帳の時、大きな鯉を見ることでした。

又、前渡不動のお開帳の時には、山より木曽川を眺め帆前船の、上って行くのが珍らしく、いつまでも見ていたものです。又、帰りには、山つつじを、沢山折って持って帰ったことです。遠足は、苧ヶ瀬の池か、前渡不動でした。着物で帽子はなく、藁草履、お弁当は梅干入りのおにぎりを、白風呂敷に包み、タスキがけにして出掛けました。

通学の時は、お母さんの手作りの鞄に、学用品を入れたり、風呂敷に包んで通ったりしました。

竹山(ゆ)　分教場の時に、お茶当番というのがあって、二時間目の授業が終ると、お茶当番は家まで、お茶を取りに帰りました。そして遅れると、先生に叱られるのでお茶を持って走ったものです。

小林　私達の頃は、三ッ池分教場にお世話になったので、現在の第二小学校には、全然世話になっていない訳です。

又、学校は、四年間通う人は全員ではなく、一年だけでやめたり、二年でやめたりする人が、大半あった。幸い私は、親の情で、四年生まで、通わせてもらいましたが……。

服装は、男子も女子も着物だった。履物は、藁草履だった。親が一生懸命作ってくれたが、通学したり、遊んだりしている中に、破れてしまって、帰りには、裸足で帰ったりしたもんです。

尚、式典は、男子も女子も一応、羽織。袴ということでしたが、その数は少なかったですなー。

桜井(一)　分教場には、真中に大きな紅葉の木があって、小雨の時には、大きな紅葉の木の影で、体操をやったもんです。とに角、枝の広さは直径、五十メートル位もあったと思いますがねえ。その紅葉の木も、分教場が閉鎖と同時に、後藤別荘に移植させられました。

小林　着物は殆んどが、母親が織ってくれた。縞の着物で、絣の着物を着る人は、殆んどなかったですなあ。

司会　当時、学校で学ぶ勉強には、主にどんな学科がありましたか。

小林　当時の勉強は、やはり「読み・書き・そろばん。」

が中心だった。
私達の頃は、一年から四年まで、一緒の教室だったので、三間も四間もある長い黒板を、四つに仕切って、学年毎に、「読み・書き・そろばん」を教えて、もらったものです。

竹山(ゆ) 教科書は、国語と、修身、習字の手本位だったなも。

竹山(匡) 他には、体育と、唱歌、図画があったが、唱歌の本はなかったなも。
体育の服装は、普段は着物で、運動会の練習になると、シャツ一枚になり、運動会には、アサブラ、などを、履いてやった。

竹山(ゆ) 四年生になると、女子は、お針があったなも。先生は、男の赤座先生が、教えて下さった。

小林 子供の頃の遊びは、男子は、ゴマまわし、なわとびが殆んどで、ゴマなどは、全部自分達で作ったものだった。

竹山(ゆ) 女子は、お手だま、まりつきを、みんなで、集ってやったなも。まりも、お金を出してまでは、買ってもらえなかったから、綿に糸を巻いて、お母さんに作ってもらったなも。まりつきは、お正月の楽しい遊びやったなも。

桜井(覚) タガまわしもあったなも。普通は、桶にはめてあるタケで作った、タガまわしで、一寸と、良いので、金のタガやったなも。

竹山(誠) しようやけんも、やったなも。

竹山(匡) 赤座先生は、蘇原の野村から、黒の詰衿の服を着て、下駄ばきで、大体、生徒が三分の二ぐらい集った頃には、必ず見えた。
体育の時間には、先生と一緒に、演習の大砲場へ行ったり、松林へ行ったり、秋にはコケ狩り、春にはワラビ取りに、行ったりしました。それが楽しい思い出として残っていますねえ。

竹山(誠) 赤座先生は、宿題を出されて、それを学校でやらされた。よく出来る人は、早く家へ帰れたが、出来ない人は、出来るようになるまで、黒板の前に立たされて、いつまでも残されたものだった。

竹山(ゆ) 教育勅語は、毎朝、暗記で言わされた。
先生の教育は、なか〳〵厳しかった。五年生になって本校へ来た時、本校の人は、本を見て教育勅語を読んだが、私達分校の者は、暗記で言うことが出来た。
分校では、本の暗唱をよくさせられた。出来ないと、いつまでも立たされてやらされた。

桜井(一) 本校へ通うようになってからは、授業が終ると、集団下校だった。
三ッ池部落の人で、南の方の人は、犬山街道を通り、東や西の方の人は、中仙道を通って帰ったものだ。中でも中仙道を通った人の方が、よく横着をしたようだった

ハハハ……。

小林 私は、生徒の責任者で、「学友長」と書いたのを、肩につけてもらって、集団下校をする時の、責任を持たされたことがある。これを、俗に「道級長」といったなも。ワッハハハ……。私は、五年と、六年と二ヶ年やらされた。

竹山(誠) 本校までの通学時間は、走って四十分。歩いて一時間はかかった。一寸遅くなった時など、羽場の椋坂の所までくると、北の校庭で、二時間目の体育が始まっているのが見えた。「二時間目かー」と言って、慌てて、駆けて行ったものだ。

竹山(ゆ) 授業開始は、最初、予備のリンが鳴って、それから、半鐘が鳴った。

小林 今から思うと、五粁の道を、よく四年間も通ったと思う。一人や二人なら、よう行かなかったが、友達が大勢いたから、通うことが出来たと思う。

竹山(匡) 本校へ行くようになって、校長官舎のそばに花畑があった。その花畑の真中に、立派な牡丹の花があったが、それもいつしか盗られて、なくなってしまい、子供ながらに、淋しく思った事があった。

司会 いろいろ、貴重な思い出話を、聞かせていただき、有難うございました。思い出は尽きないものがありましょうが、今晩は、この辺で終わらせていただきます。有難うございました。

私の小学時代

竹山誠一

私は小学校三年生（満八才）の時、五月中旬家庭の事情により祖父に伴われて、犬山南尋常小学校から鵜沼小学校三ッ池分校へ転校して来ました。
学校の小さいのと、赤座先生一人で、一年生から四年生まで、受け持たれると聞いて驚きました。三年生は二十二名位でしたが、全児童は八十名程でした。
友だちに親切に分校教育の状況を教えてもらい、三年生は無事に修了し四年生に進級しました。
校庭も余り広くありませんが休みの時間には、餓鬼大将として、良く飛びはねました。
また、学科の勉強も一生懸命にやりました。四年生も無事修了し、五年生になって毎日、風呂敷に学用品と弁当を包んで腰に巻き、藁草履で一里八丁の道を本校へ通学することになりました。
ある日一人で通学していた時に、当時大伊木の山界坊の集団に追われて顔が青くなったことがありました。
珠算で赤座先生に加減乗除の教えを受け、五年生は広井勇三郎先生に教育を受けました。これらの勉強は分校児童がはるかに優れておりましたが、他の学科については平均して、すこし本校より劣っていたように思います。

田舎では、年中行事の報恩講には、老若男女を問わず参詣して、空安寺の御堂がわれるかと思うほどでした。

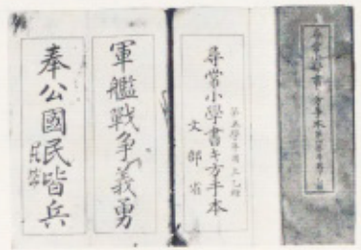
六年生には、各務の村国座へ芝居を観覧に行き、方角を誤り、難儀したことがありました。

五年生は土屋善市先生、六年生は栗木謙二先生、高一年は、伊藤源平先生、高二年は佐守實先生で、修身は校長秋山勘次郎先生でした。

校長先生に「お前たちは、葉書ぐらいは、手に持って毛筆で五分で書け」と教えられましたが、恥しいかな現在でも、一枚かくのに十分位かかります。高等科の授業料は金二十五銭で、私は家事手伝で一ヶ月欠席して免除になったこともありました。

いずれにしても、父兄の教育観念の薄い時、叔父の理解があって、学校へ通わせてもらい、先生もまた特に親切に御指導下さいまして、心から感謝しております。私は人生で小学校時代がフレッシュで一番楽しかったと思います。

☆☆☆☆■☆☆☆☆



教科書

三ッ池分教場と赤座鶴次郎先生

吉田金蔵

鵜沼南北小学校が合併し、鵜沼尋常小学校が発足し、三ッ池は遠い為三ッ池分教場が廃校になった。明治二十五年二月隣郷蘇原村三柿野の赤座鶴次郎先生が雇教員として就任され、一年から四年まで男女共学で一室で四、五十名の児童を教え、児童のお茶の準備まで一人で世話をするという独特な学校であった。尋常五年生から本校たる鵜沼尋常小学校、今の第一小学校に通学するのだった。

また、夜は青年夜学を教え、小学校をおえてから家で働く青年を教育するという精勤ぶりであった。

大正十四年に校舎が各務原に移転し鵜沼村立鵜沼尋常高等小学校各務原分校と称し赤座先生は、初代校長に栄進された。大正十五年に退職されるまで二十有五年のながきに亘り教鞭をとられた。この間、夜は青年夜学や農業補習学校准訓導として青年を十六年間指導された。故に三ッ池には親子二代教え子となった人も少なくない。近郷の人たちは全く父母の如く慕い、先生の永眠をおしみながく後世に先生の御恩徳、御功蹟をたたえようと相計り、今の第二小学校の校庭に頌徳碑を建てました。学校百年祭に際し、この変った教育方法で一ヶ所に三十六

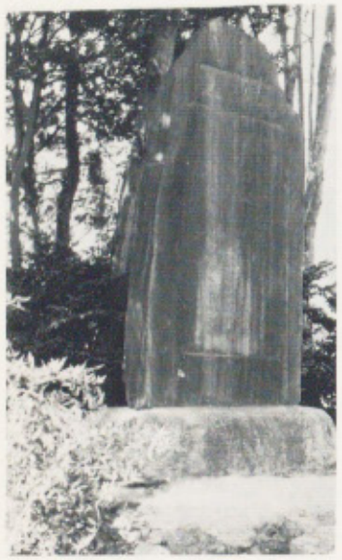
年勤続された先生をもう一度偲びたい。

次に私は明治四十五年四月一日三ッ池分教場に入学、三年生の時から病気にかかり四・五・六年は授業日数の半分位しか学校に行けない状態でした。四年生まで赤座先生の教えを受け、五・六年は欠席多く、他の友達より勉強がおくれるので、夜青年学校の人と一緒に先生の教えを受けました。

六年卒業後も病気で学校にも行けないので、青年夜学と農業補習学校に入学して、明治四十五年から大正十四年まで十四年間指導を受けた一人である。

先生からある時、三ッ池には親子二代世話をした人はあるけれども、一人で十四年間この学校に通ったものは稀であるといわれた。

病気と貧乏の悪条件の中を育てて下さった、赤座鶴次郎先生を、七十才にならんとする老骨金蔵、今ここに涙とともに偲び、ごめいふくを祈りつつペンをおく。


赤座先生の碑

欅の木を撫でて

土屋幸治

さて、それは半世紀前、実に気の遠くなりそうな話、はたして思い出せるか危なっかしい。それでも折角のことゆえ、たどたどしいが湧いてくるまゝに綴ってみることにした。

振り返って見ると、実に色々のことがあったものだ。先ず、何かの歌の文句ではないが、「昔の夢の懐かしく尋ね来たりし云々」と私も小学校々庭を訪れた。実に懐かしい。校庭の地形は、全然変っていないが、目に付くものすべて変ってしまって、当時の面影を残すものは全然ない。但し其の校庭の一隅に一つの発見をした。それは欅の木と大樫木である。これこそは紛れもない、私共の入学以前からあって、朝夕数多の児童と喜び悲しみを分って来た木なのだ。

早速駆け寄って撫でてみたり、仰いで見たり懐かしい限りだ。そして私は、しばらく瞑想に耽った。私は大正五年四月に此の木の下へ入学したのだ。絣の着物に麻裏草履、帽子を頭にのせ、布の鞄をかけ緊張した顔で……まさに紅顔可憐の美少年……。

その当時の校舎は丁度、アルファベットのEという字の通りで、北中南と校舎が二列に並び、西側は道路沿い

卒業生アルバム

に渡り廊下で接続されていた。校舎と校舎の中間が北の運動場、南の運動場、更に東側の下段の地を下の運動場と言っていた。

附近の建物といえば、現在農協本所が村役場、そして現在の大栗文具店のあたりに校長官舎があった。他には家は全然なく、周囲は桑畑で囲まれていた。当時、この欅の木は北の運動場に、大樫木は南の運動場の西隅にあったものだ。

服装も村長さん以下、役場の吏員も村会議員も一般の人も和服一本、ただ学校の先生方が洋服を着ておられたのみ、洋服の先生方は特にえらい人に見えた。

当時は、日露戦争に大勝した日本帝国が、天皇を中心として戦えば必勝の自信の下に尽忠報国、質実剛健を理想として、ます〳〵将来に向って、大きく羽ばたこうとしていた時だ。しかし現代と比較して見ると、実に幼稚きわまりない、むしろこっけいな気がする。しかしこういう時代を通り過ぎて今日があるのだと思えば、うなずかれもする。

学校も毎朝の朝礼の時は、第一に御真影奉安室の方へ向い、最敬礼をし、それから校長先生の訓示の後、各教室に入ったものだ。たいてい第一時間目は修身で、例の「朕おもうに我皇祖皇宗」を各クラス全員直立不動の姿勢で斉唱が始まる。それが、あちらのクラス、こちらのクラスから聞こえ、その調子が実に見事なものでした。教わることも、何につけ第一に忠君愛国、親に孝行、勤勉努力、勤倹貯蓄であった。この頃ちょうど、国鉄高山線が各務原駅まで開通して、マッチ箱のような汽車が大変もの珍しかった。また、各務原飛行場が、完成して、所沢から、モ式とかいう飛行機が三機移駐して来た。この時は近辺挙げて見物に行ったものだ。それから毎日、好天の日には、五・六十米の高度をガラ〳〵飛び廻っていた。この頃の交通機関といえば、人力車、荷物は、馬車か荷車、旅人は、脚絆、ワラジで殆んど徒歩、自動車なんて、見たくともなかった。自転車は各部落に四、五台くらい、あっただろうか。またこの頃は、まだ電燈もなく、ランプのお世話になったものだ。あんな暗いものが、当時は今の電燈と明かるさが大差ない様に思えたもので、実に不思議なものだ。

この頃、第一次世界大戦が終った。日本は連合国側に立ち、直接参戦しなかったために、大変得をして、輸出

卒業生アルバム

が増大し、なかでも絹糸の輸出で好景気を迎えた。従って養蚕が盛んになり、当鵜沼は地の利も手伝って県下でも一、二の養蚕地となり、お蚕様、お蚕様といって、たいへんもてはやされた。次から次へと思い出は尽きないが、とにかく、私どもの小学生時代は、近代日本の夜明けであった。そして日を追って軍備拡張、シベリア出兵大正デモクラシーの台頭、平民首相、原敬の暗殺、等々世相は複雑さを表わし、遂に上海事変、満州事変第二次世界大戦と、真暗闇に突入して行った。またこういう思い出もふと浮かんだ。私共が入学した当初は、校長先生は、秋山先生と言った。実に、見るからに温厚な大人格者であったが、じきに転任された。次に来られたのが棚橋重五郎先生。この方も立派な、人格者であったがお名まえの通り、丁度昔の後藤又兵衛を、しのばせるような、もの凄い先生で、黒ラシャの詰襟の服を着て、平素は下駄を、おはきになっていた。この先生に一喝、食らうなら、たいていの悪童でも縮み上ってしまう先生でした。

確か私が六年生の時だった。ちょうど昼休みの時間、南運動場で、石を拾って南校舎の屋根を越させる競争をはじめの間は、二、三人の者がやっていた。面白そうなので、「一大吠ゆれば、万犬これにならう」の例で、遂に七、八人に増した。その中に私も加わった。それまでは良かったが、折悪しく、校長先生が官舎で昼食を済ましして裏道を通っておられた。その頭に石が上から降って来て命中した。とおっしゃるから確か、命中したに違いない。烈火の如くというが、まさにその通りに怒られた校長先生が飛んで来て、たちまち全員、引っつかまってしまった。其の後は、散々、足で蹴られる者、手でたたかれる者、両頬の皮が伸びる限界迄引っ張られる者、実にもの凄かった。それでお許しが出るかと思ったら、直ちに、一列に不動の姿勢で立たされ、放課後になっても何の音沙汰もない、一同心細くなって来た。そしたら担任の確か金武先生に発見され、仲介の労を取ってもらいようやく放免になったことがあった。これも今から思えば、一コマの漫画のようで、ホホエマシイ光景であった

こんなことは毎日いくらでもあった。それから私は、他の目的のために懐かしい小学校、そして欅の木、樫の木に別れを告げた。今この欅の木、樫の木は私が、撫でているうちにも、このような思い出を湧かしてくれた。卒業生ならば、一度触れて見給え、かならず、その人、その人の懐かしい思い出を、蘇えらせてくれることと思

う。実にこの木こそ、小学校にとって、重要天然記念物とでもいうべきものです。

「どうか、もっと〳〵生きつづけて、懐かしい、長い歴史を伝えてくれ」と、呼びかけ、忘却の彼方に消え去ろうとしていた私の思い出を、綴らせてくださった今回の企画に対して、深甚なる謝意を表し、筆をおく。

☆☆☆☆■☆☆☆☆

小学校の思い出

薫田　薫

明治は遠くなりにけり、と言う明治の末、即ち四十四年の四月、現在の第一小学校である鵜沼尋常高等小学校に入学した。

当時の校舎は、木造平屋建の南校舎と一部二階となった平屋建北校舎の二棟で西に門があり、コの字形に並んでいました。当時郡内（稲葉郡二十九ヶ町村）では加納町についで大きい学校であった。

校門を入るとすぐ丸庭があり、檜の寄せ植えがしてあった。右手が事務室で西から校長室、教員室、宿直室、小使室、炊事場、物置、教室となっていた。

この玄関には枝ぶりのいい松があり、事務室を引き立てていた。

小使室の前には梅、教室の前には桜が東へ三本植えてあった。いつも四月十日頃には、満開で実に美事であった。左手には井戸があり二階建校舎があった。この校舎が一番古くこれを基礎として東へ増築したものらしい。この前に三本よく伸びた松が並んでいた。これは大正天皇御成婚記念樹と聞いていた。

次に大きな樫の木があった。校内で一番大きいものでなかなか一人ではかかえられなかったが、根気よく石を打ち込んだり、穴をあけたりしていじめてあった。

こんなわるさを誰がした。ものを言うものなら聞いてやりたいくらい、可愛想な木であった。それが大層元気で子どものように伸びていた。

次に三ッ又の松があり、ややはなれて大きな柳の木があった。これもまた樫の木に次ぐ大木であった。こうした木々が教室の前にあったが、これがまた僕等の大事な遊び仲間であった。それは当時よく陣取りと言う遊びをやった。その時人数の多い時は太い木、少ない時は細い木を利用した。例えば、羽場部落全員を東西に分け、守る者せめる者という具合でなかなか勇壮なものだった。

こうした木が校舎の前にあり、その中が運動場になっていた。運動場は丸砂利が一面に敷かれよくころんで傷をしたものだ。運動会の折には、砂利を全部木のもと、校舎の前によせて運動会場を作ったものだ。（この作業も裏に新運動場が出来るまでのことである）

また、ここで朝礼、終礼の行事をやることになっていた。

朝礼の時には一年生を中心（ちょうど太い樫の木の下）に左へ五・六年に高等科一・二年、右に二・三・四年の順で多少人数の都合で位置は変ることがあった。

奉安殿

次席先生の指揮で整列し、服装を正した。当時服を着ている者は一人もなく、皆着物で前かけをしていた。前かけは三角に折って紐にはさむことになっていた。

整列が終ると校長先生は奉安所に向かい最敬礼をし、それから一同に向かって、最敬礼の号令をかけられる。そして何か、その日に伝達事項があれば係りの先生からいいわたされる。それがすむと生徒代表（高等二年生級長）の「礼」の号礼でおわり、それぞれ教室へ級長の指揮で入り、担任の先生に挨拶をして授業を始めた。

当時五・六年では、毎朝勅語を斉唱していたように思っている。

また、陸海軍記念日、時の記念日等の日には、朝礼の後で校長から二・三十分お話を聞くことになっていた。

学校の儀式といえば、入学式、卒業式と三大節。この時には、奉安所に続いた四教室の間仕切りを取りはずして式場を作ったものだ。だから、ここの生徒は大迷惑だった。机、腰かけを全部持ち出して他の教室に積み込んだ。いつも上級生のかたがたのお骨折りであった。

そうして式は村内の有力者、村長、助役、村会議員、学務委員、各区長、各種団体長等が紋付袴の姿で、ずらりと前に並ばれ、生徒といっしょに国歌を歌って行ったものだ。三大節にはあとで紅白饅頭がもらえたので、うれしかった。

一日の授業を終り、下校の時にも朝と同様、運動場に並びました。この時は部落毎に整列した。西の門を出る部落は西から三ッ池、大伊木、内野、羽場、西町、小伊木、東の門を出る者は東から南町、東町、古市場となっていた。

当時部落には、学友団という団体があって、登校下校の時には、一定の場所で集合、解散をした。羽場の場合では掠坂に集合して整列して登校、下校の時はここで随時解散した。

やがて学友団毎に団旗が出来、それを先頭にたてて行くやうになり、ラッパ手が出来て、集合の合図をすることになった。この団体は少年団となって、部落毎にいろいろ行事をするようになった。行事の一例はお宮掃除、朝起き会、読書会等であった。朝晩の行事は、朝礼に遅刻の場合一人でも奉安所に向かって行なうのが常であった。早引きの場合も奉安所に最敬礼をして、校門を出たものだ。

奉安所とは言うまでもなく、天皇陛下のお写真がお祀

りしてある所で、本校の場合は、二階建と平屋建のつなぎめ所で、前に例の樫の木があった。私の入学した時は明治天皇であったが、翌年七月おかくれになり、大正と改められ、初冬に大正天皇とのお取り替えがあった。この時全生徒並に村有力者は、羽場の西までお迎えに出た礼装の村長を先頭に校長が真白の手袋に、お写真を奉持して静々と中仙道を人力車で通って行かれた。一同最敬礼でお迎えをし、その後から学校までお供し奉安所に納められた。村長並びに校長の訓示があり、君が代を歌ってお迎えの式を終った。時の村長は坂井銀右エ門殿、校長は秋山勘次郎先生。

南校舎の裏に道路があり、少し離れて校長住宅があった。そこまでの空地が下の運動場となっていた。ここは石がなく角力などやるのにとてもいい所だった。ここを通り校長住宅の裏に出て行く所が、自然に東の通用門となっていた。

校長は校長住宅に入るのが原則であった。校長の生活は一般村民に影響を与えるもので、責任が重かった。

入学した時の校長は山岡清先生であった。眼鏡をかけ八の字ヒゲのいかめしい先生のようであったが、案外体が弱く医者通いをしておられた。私の家へ沢田という医者が出張診察をしておられたので、二～三回使いをしたことがあった。こんな訳で私が二年生になる時やめて、郷里へ行かれ、その後（芥見小学校校長秋山勘次郎先生が赴任して来られた。先生は芥見で大層評判がよく、村の青年たちが本校まで送って来てくれた。背は低いが太く総ヒゲであった。岡田式静座法の実行者で、静座の校長として、郡教育界の第一人者であった。

授業はいつも静座から始まった。先生の受持ちは修身であった。臍下丹田に力を入れ、無念無想一分間静座下腹を突き出し、ポンポン叩かれるのが得意の姿であった校長は学校では先生であり、村では指導者であった。当時、村と言うよりも部落が主体で、なんでも部落で決め部落で行なった。組合、青年会、処女会、婦人会、敬老会、その他趣味の会、こうした会合が行なわれるたびに招待を受けて出られたが、いつも静座、これにより無病長寿の法を説き、健康第一を強調しておられた。書道に長け、和歌の道にも堪能であった。先生の書は、今も公民堂や各家庭で見ることがある。村民にもたいへん親しまれ、生徒にも好かれておられたが、在校六ヶ月、私が高等二年に進級する春、みんなに惜しまれ郷里可児郡上ノ郷の校長に転任せられた。その数年後同郡広見町に実科女学校を新設され、もっぱら女子教育に尽くされた。また、可児郡青年団長として活躍せられたこともあった。

秋山校長

秋山先生の後任には、やはり芥見校長棚橋重五郎先生が赴任して来られた。愛想のいい大きい先生だったという印象だけ残っている。

母校の百年祭に際して先生の思い出は沢山あるが、特に記しておきたいことは、母校の為に全生命をかけて下さり記念碑が残る加藤信夫先生、それに忘れられてしまっている広井勇三郎先生である。先生は隣村蘇原村熊田の方で、毎日徒歩で降っても、照ってもこつこつと私たちの指導の為に通って下さった。先生の受持ちは、いつも一年生。それに珠算が堪能であったので珠算を教えて下さった。

各務村が郷里の小学校に転任するよう、その筋から勧められても鵜沼でよろしいとことわり、鵜沼小に教職から退かれるまで留まられた尊い先生であった。なお、存命である。私が入学した時、すでに奉職しておられ、いつもきつい先生のように思っていたが、六年生と高等科一年の二ヶ年担任として教えを受けた。実にやさしく親切な先生であった。特に国語の講義がうまかった。今もその一語一語が浮かんでくる。和歌の解説。謡曲等は本式に謡曲を唱って聞かせて下さったことなど印象に残っている。自分が文芸を好むようになったのも先生の賜だ。私は在学中は勿論卒業後も、今に至るまで何かと指導を受け、親ともお慕いする尊い先生である。先生が二十余年間在職中には、他へ栄転する機会は、たびたびあったが振り切って郷土のために、この道一筋に打ち込まれた功績は実に偉大で村民の感謝するところである。先生が代々の校長につかえ、うまく学校の運営をせられたことは、鵜沼小学校の基礎を固めひいては、大鵜沼建設の基ともなった。先生が退職せられる時、記念碑建設の話が持ち上ったが、先生の固辞により、これに変るべき記念事業として栗木賞なる制度を設け、毎年卒業生の首席の者に送ることになっている。時代の変化で貨幣価値も変ったが栗木賞だけはなんとかして続け、偉大なる先生の功績を後世に伝えて行きたいと思う。母校百年祭に際し思い出を栗木賞で打ち切ることとする。各務原市文芸祭の折、左の二首を母校によせて、投吟したので書添えて筆をおく。

つぎつぎと鉄骨校舎に
　建てかわり
わが思い出の
　きゆるさみしさ
学舎の庭に
　茂れる大けやき
校歌となりて
　子らのうたえる

教科書

昔をかえり見て

大竹ふみを

私は明治三十五生まれで、小学校を卒業してから、はや六十年近くになります。

当時は、尋常高等小学校で、静かな畑の中にありました。

現在のように洋服がなくて、和服を着用し、下駄または、わら草履で六年間通学いたしました。冬などは大雪が降って、下駄の歯には、雪がこまって、泣いて帰ったこともありました。

学校に行く途中大安寺川に橋がなく、大雨が降って、大水が出た時などは、おそる〳〵川を渡って、大変困ったこともありました。

学校の遠足などは、何も乗り物がなく、那加の北の琴塚まで、往復歩いて、足が棒のようになり、疲れ果て、帰ったことなどありました。また、お小遣いなど昔は一銭もらって、一日中遊ぶことが出来ました。今のように、車、自転車などあまり見かけず大変のび〳〵と、学校に通学が出来ました。昔をかえり見れば、大変懐かしいことばかりです。

小学校時代の想い出

加藤国雄

小学校時代、机を並べ一しょに勉強した同級生位何年たっても思い出深く、なつかしいものはありません。

その同級生の中に正三という名で、顔も形も猩々によく似た人がいました。その方は今なお健在で、各方面に活躍しておられるので、こんなことを書くと叱られるかもしれません。まことに相すまんと思いますが、私の思い出だから許していたゞきたい。

今、どこの学校でも完全給食で、昼は皆一しょに仲良く食べますが、私たちの頃は、学校で弁当を食べる者と家に食べに行く者と二色ありました。ある時、その正三君（猩々）が家に帰り、家で昼のご飯を食べ、時間に遅れて教室に入って来ました。その時、山田というこれまたひようきんな友達がいて大きな声で。

「正三（猩々）が来た」とどなりました。私たちは教室の入口にしょぼんと立っている正三君（猩々）を見て、どっと笑いました。

その時の先生は、柴山という（今は故人）師範を出られたばかりの青年教師でなか〳〵寛容な方でしたので、私たちの方を見てニコ〳〵笑っておられました。

年月は流れ私が中学に進み、博物の時間に、動物を習い猿類のところで、たま〳〵猩々が出て来ました。私は小学校時代の、その思い出が頭に浮かび、クス〳〵笑ってしまいました。若い博物の先生は私を見逃さず、真赤な顔をし、眼をつり上げて私をきつく叱りとばしました。私は小学校時代の思い出を一通り話し、「先生の授業を笑ったのではない」と弁明しましたが、仲々許してくれませんでした。あとで聞いて見ると、その若い博物の先生は検定上りの中学の先生で、学校の中で頭のあがらない部類の先生だったようであります。先生にも色々型のあるものだということが、今思い出されてきます。

小学校時代の恩師のこと、同級生の思い出ぐらい、何年たってもなつかしく脳裡に浮かんでくるものはありません。

あれやこれやと幼い時代をなつかしく回想しつつ…。

恩　師

旧校舎

地震・雷・大砲

小林義雄

私は、今年満八十一才の老人。小林義雄と申します。

明治二十四年六月の濃尾大震災の年に母の体内に宿り母が連日余震の為、本屋へ入ることが危険であったので、裏の竹藪に小屋掛けして一ヶ月余も暮して、私を守って下さったと言うことを、ものごころのついた頃に、聞きました。その時、始めて母性愛と言うものは、人間一生忘れてはならないと考えました。また、父は当時、商用の為、大阪市へ行って不在中の出来ごとでした。

翌日、大阪市の宿より大阪方面も地震が起きたが、美濃の方は如何かと通信が届き、一同大安心をしたとのことでした。

私は明治二十五年二月二日人間として此の世へ、生まれ、明治二十五年四月開校の三ッ池尋常小学校へ、入学しました。初代校長は赤座鶴次郎先生でした。全校一年より四年までの児童約七十名が、ご指導を受けました。先生のご恩は一生忘れることは出来ません。

当時、毎年十月十五日は、三ッ池氏神様の祭礼を中心に第三師団の野砲第三連隊が、各務原へ実弾射撃演習に二週間ぐらい、泊りで来ていました。私宅も下士官以下、七十八名位宿泊し、兵隊さんに菓子、パン等をいただき

兵隊さんに抱かれて、寝たことも度々ありました。
朝九時演習が始まると、砲声が硝子戸を通して地ひびきがして、勉強の邪魔になったこともありました。
明治三十七・八年日露戦争が終り、新鋭の三八式速射野砲が出来て、始めて各務原で試験をしました。ところが砲弾が三井山を越えて更木村へ落下するという一大事が起り、各務原では演習不可能となり、後は豊橋の高師原及び伊良湖岬に移された。その後は小学校の教育上に支障はない状態となりました。私も幸い明治三十四年三月三ッ池小学校を修了し、赤座先生にお別れをし、四年間の思い出に涙しました。
なお、同年四月鵜沼高等小学校へ入学。当時、校長伊藤幸次郎、副名和敬三、深尾惣一先生以下の先生方の、手厚きご指導を受けました。その間、約一里八丁の行程を四季の別なく、毎日中仙道の松の巨木下を、雷雨時は危険とは知りつゝも他に道無く、四ヶ年草履に力を借りて通学しました。一番困ったことは夏季の雷雨に、雨具の不用意の為、羽場の部落で雨具を拝借しない時は、自宅まで一里八丁の道を濡れて帰ることでした。
当時の中仙道は人通りも少なく、冬季になると大八車に鹿の死体を三尾ぐらい積んで、三、四台行列で東の兼山へ、運搬するのを見た。また、武藤嘉門先生が岐阜の店へ人力車でお通いになるのにお会いしたことも度々ありました。これらはいずれも、私の小学校八ヶ年間の思い出の一部に過ぎません。

三ッ池分校入学
一年よりの思い出の記

奈良村寛一

陽は早や西山の彼方に沈み行く夕暮の
赤き夕日を背に受けて
われは今、慣れたる鍬を肩にして
遙かに見ゆる、伊吹の山を望みつ、
トボ〳〵我が家に帰る道すがら
しみじみ、おもふ過去の夢
思い出づる六十余年のその昔
あの懐しき小学、一二年生頃の思い出よ
あの中仙道の両側の
天にそびゆる松並木
三百年を経たる大木の
三ッ池分校の行き帰り
話に聞いたる徳川時代のその頃の
西国や四国、九州の大名達が
下に/〵と上り下りの行列をしのびつ、
雨の日も又、風の日も、幼き二、三の友達と
三ッ池分教に共に通いし一・二年生のあの頃を

そして二十軒前の陸軍の演習場の
大砲場、見渡す限りの広野原
西の森や東の森、中小屋前の
まばらに生ゆる松の木や
あの三ッ池の一本松の、そのほとり
畑の中の小さき分校で
赤座先生に教えられ共に学びし四年の間
そして明治も終りの四十五年
あの思い出多き、三ッ池分校に別れをつげて
鵜沼の本校にぞ入りにける
尋常五年のその年は
明治大帝崩御の報に
古武士の如き、校長山岡先生が
七百八十余人の生徒を集めてぞ
声涙ともに下りて涙ながらに訓示あり
先生、生徒共々に只斎として声もなし
そして五月の半頃、一天俄にかき雲り
教室の中も夕暮の如くうす暗く
閃閃たる稲妻や
耳をつんざく雷鳴や
小さきコブシの如き降雷や
木曽川、川島上空に数百米の
天に渦巻く大竜巻や
尚も九月の彼岸の中日に
伊勢湾大風如き
大正元年の大風雨
数多の異変重れり
あの五年生の思い出よ

教を受けし先生に蘇原より来らる、河合と言う八字ヒゲの立派な先生があった。又、広井と言う小柄の懐しき先生もおられた。当時鵜沼の本校の先生方は全部で十八名であったと思う。先年亡くなられた神主さんの後藤邦幹氏は十六、七才の若い詰襟服の先生であった。
六年の時は、今尚当町の最長老として力を尽くしておられる。羽場の栗木先生で当時、校中の中堅の先生でありました。今日に至るも時折拝顔して、小学時代の思い出や、その後の世の中の移り変わりの有様を、共々に伺い語るのであります。名校長の誉れ高い山岡校長。その後来られたる秋山校長、威風堂々たるアゴヒゲの子供午らに立派な校長さんと思っていたのであった。高等科一年生の時は、浅野直吉と言う先生であった。
当時の自転車は貴重品でどこの部落でも一、二台あるだけで町内は勿論、蘇原より来られる先生方も、皆歩いて雨の日も、又雪の中でも来られたのである。三井より来られた柴山と言う先生が、只一人自転車で来られた。その後浅野先生と（那加長塚より）只二人であったのである。明治四十五年頃のことである。

●□●

嫁振坂や一里塚
今だに変らぬ犬山城を眺めつ、
母校の庭にたわむれて
学の窓の往き帰り
清き流れの木曽川に
夏は木かげに水辺に
あの林の中の一本道の犬山街道や
冬は淋しく吹く風に共に通いしあの頃を
羽場は掠坂、嫁振や伊木山より
西へかけて一面の松林
所々少しずつ開けし開墾地
林をすかして見ゆる五、六軒の
一軒ずつの小さき農家等
その中に私の家もあり
そしてわらびを取りし思い出や
時折り来たる兵隊のあの林の中で打つ
鉄砲の音嫁振り坂で打つ大砲の響き
心もおどる演習を
今は消えて跡なきあの小伊木河原の松林
思い出多き良友や心に残る悪童の
共に老いたり今何処
思えば遠く限りなし

大正三年高等科一年生の時

第一次欧州大戦争が勃発し
我が日本も当時英国への交誼上
独逸に宣戦を布告せり
大正六年日本で第二番目に出来たる
各務原の飛行場
モ式と言う凧のような飛行機や
その後追々改良せられたる新型機
大正九年の春岐阜より各務原まで開通せる
現在の高山線そうして現在の各務原市が誕生す
その後の移り変わりの五十年
今日のような立派な学校となりにけり

あ、幼き頃の学友よ
身は莫逆の友として
幾年月を送りしが
世の中のうつり変わりの烈しさに
思い出多き友人は
別れ〳〵に散りにけり
風の便りに聞きしかど
君は他郷の空に住み
われは今は変われる郷里の
この各務原にて鍬振いてすぎにけり
春すぎて夏立ちて
秋来り冬となり

エンジンの時はめぐりて六十年
今凜烈の残寒の風
天地をこむる荒涼の
風颯颯と吹き行けど
君より何の便りない
夕月凍る晩秋の荒れたる畑にたゝずみて
鐘の響に思うよう
何処の空で老の身を
君はわが家で何かせん
星の夜空を仰ぎつゝ
松の葉すれの音ひくゝ
心淋しい秋の夕
わが懐かしきあの小学時代の思い出よ

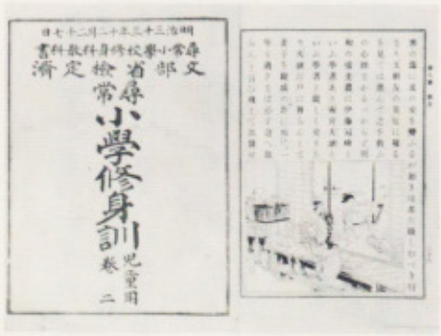
時はすぎ行く流水の
明治、大正、昭和の世となりて
興亡こゝに百余年
あの太平洋戦争の思い出や
その後変われる世の中の
明治は遙かに遠くなりにけり
過ぎ去りし過去の七十年
転感慨無量の情に堪えん　（原文のまゝ）

歩んできた小学校時代

五島藤光

明治四十四年四月、私は鵜沼小学校三ッ池分教場の一年生として入学した。分教場の敷地面積は千平方米にも足らない程のもので、この敷地内に教員室及び教室それぞれ一室しか無い小さな校舎が建てられ、東側には、小さな便所があった他、西南の隅に鉄棒が一つと東南の角に湯茶を沸かしたり、掃除をする為に使う井戸が一つ堀ってあった。校舎の正面には、大きなモミジの木が空高く堂々とそびえていた。これが当時の分教場のようすでした。

先生は赤座鶴次郎先生ただ一人で、小使いさんもいませんでした。当時は今と違って、電気もガスもプロパンも無かったので、先生は自分で炭火をおこし、井戸から水を汲んで来てお茶を沸かすことまでやらねばならなかった。それに教室は一室



教科書

で、一年生から四年生まで赤座先生一人で教育されていました。教室の一番北側の一列が一年生、その次の一列が二年生、またその次の一列が三年生、そうして一番南の一列が四年生という順序で、机が配列されていた。

生徒の数は、その年によって多少の変動はあったけれども、だいたい総員七十名前後であったように思う。

とに角、たった一人の先生で、一年生から四年生までを一つの教室で教えられるのであったから、これは大変なことであり、労苦に対する報いは、先生の思いの半ばにも達しなかったでしょう。

一例をあげると入学する四月頃には、当時は道路端にスミレやタンポポの花が見事に咲いていた。先生は一年生の生徒には、スミレやタンポポの花を十本取って来るように言いつけて教室の外へ出される。その後、先生は二年生、三年生、四年生を交互に教育される。

一年生が花を取って帰って来ると、先生は一人〳〵の花を数えてよくできたと言って頭を撫でてくださる。もし間違っていると、「もう一度よく考えて取って来なさい。」と言って外に出される。全く容易なことではなかったのである。

先生の教えを受けて、今でもはっきり覚えていることは学校には教材として色々な絵が備えつけてあった。ある時先生は、その絵の一枚を黒板に掛けて、この物語りは、日本軍が敵陣攻略の為に総進撃をしている時、ラッパ卒であった木口小平は残念にも敵陣に倒れたのであるが日本軍の士気を高める為に、また自からの責任を果たす為に息も絶えなんとする小兵が、進軍ラッパを依然として吹き続けたという美談である。皆さんも大きくなったら責任を重んずる立派な人間になってもらいたいと、熱を込めて話を結ばれた。その時私は小さかったであろう両の手をひざの上でかたく握りしめ、将来大きくなったら必ず義務を守り、責任を重んじ決して先生の教えに背くような行動は致しませんから、どうか先生ご心配召さるなと強く心に誓ったものである。先生と生徒が接触し教えを通じて、先生の人格が子どもの心身に人格の種としてまき付けられ、それが成長して順次人格形成がなされて行く。これが本当の教育というものではないでしょうか。

今時の人達からみれば、全く変則的な不完全な教育であったかもしれないが、私共はここで四年間の学校教育を受け、五年生になると鵜沼小学校に移り、沢山の新しい友だちと一緒になって初めて同級生だけが一つの教室で教えを受けることになったのである。しかし私たちは、鵜沼小学校へ行っても学力・体力の何一つとして、ひけ目を感じたことは無かった。

赤座先生は、あのような教育環境の下で、よくも私達をここまで導いて下さったものだと、感謝の思いが深まるばかりであった。

鵜沼小学校へ通う時分は、勿論汽車もなければ、電車もない。靴もなければ、まして長靴もない。父の作ってくれた藁草履をはいて、学校まで四キロメートル余りの砂利道を、朝夕歩いて通ったものである。当時は、雪の降ることが多く三十センチや、四十センチの雪が積もるのは、毎年のことであった。こんな時はやむなく、下駄をはいて通学したものであったが、雪が下駄のはにかたくこまって、何度となく雪の中で転倒し、時には涙の出るようなこともあった。然しこんなことが心身を鍛錬し強固な意志を持つ人間を作るのに、役立ったのかもしれない。

最近は、生徒が家事の手伝いをする情景など、ほとんど見受けなくなったが、我々の生徒時代には日曜日は勿論、少し早く学校から帰った時等は、必ず幼い弟妹の子守をしたり、父母の手伝いをして農作業をしたものである。

田植時等には、農繁休暇と言って学校も数日間休みになった。そんな時には朝暗いうちから父母と共に、田畑へ出掛けて農作業をし、夕方は星空を仰いで家へ帰ることは、決してめずらしいことではなかった。小さい時から物を生産する仕事に従事する経験を持つことは、人間として大切なことであり、貴重なことであると、今でも思っている。今日の教育ママさんには、ご賛同願えないかも知れないが、子供が家業に、社会の為に額に汗してまじめに働く体験をもう少し持たせてやって欲しいと願うものであります。

鵜沼小学校創立百周年記念にあたり、自分が歩んで来た小学校時代のことどもを、回顧して思い出の一端を書き印した次第であります。

修身「木口小平のラッパ」

林　平　三

明治生まれの私は、大正五年に小学校に入学しました毎日、高学年に引率され通学したものです。私たちは、男女合せて約九〇余名であったと思います。それを生まれの早い者より、一組と二組とに分けられ、私は二組でありました。もちろん二年生までは男女共学でした。時の校長先生は、秋山と言う髭をはやした人でありました受持の先生は、村上忠左ヱ門先生で、一年、二年共に教えていただきました。

校舎は校庭の南西角に職員室、その東に炊事場、その南に大きな無花果の木がありました。次に、東に三教室と便所、これが南舎、中舎は西が二階建で、下の西が唱

歌室と東一教室、二階は階段、西が畳の室で裁縫室、東に一教室となっており、東に続いて平屋で奉安室、続いて四教室ありましたが、戸しきりにて祝日等の式場に使用の場合は、戸を取り除いておりました。

旧校庭

次に、前の運動場と裏の運動場への通り間になり、その東に二教室があり、一年生の教室として使用されていました。裏の運動場の北に北舎が三教室あり、これが一番新しい教室でありました。北舎の前面に大きなしだれ柳の木がありました。

朝の登校は、どこの部落も神社か、それとも広場に集まり、そこから列を作って、学校に集まりました。朝礼は南の運動場で、北向きに全校生徒が集合すると、校長先生が小高い台に上がられ、高等科の級長が「礼」と号令をかけ、話の後は、奉安室に向かい最敬礼をして朝礼を終り、授業を始めたものです。

一年生の読本は、ハタ、タコ、コマが最初でした。書取りは石板と石筆でした。一、二、三の数を教えられるには、大きな玉の下に落ちないそろばんでした。修身での思い出はなんといっても木口小平のラッパを口にして死んだ話です。

二年ともなれば学校になれ、友人とも知り合い、楽しく生活しました。三年生になって、男子組、女子組とに分かれました。これより六年生まで共に学んだものですが、高等科ともなると女子は、六年生で卒業する人が多く、共学で一学級しか出来なくなったものです。

春の遠足といえば、ワラジ履きで弁当はおにぎりを白い風呂敷で包み、背中にたすき掛けでした。一、二年生は各務野ぐらいでした。

今の内野前の辺から東一帯、松林や野原で山つゝじ、あるいは雑草が咲いていました。まだ飛行場もない頃のことです。数年後に飛行場が出来、一番機はE式という複乗機でした。

三大節といって、正月の四方拝、天長節、紀元節などの式には袴をはいたものです。終ると菓子か、または饅頭等がもらえたよろこびは今でも忘れません。なんといっても着物に帯、冬であれば足袋、股引、羽織ですからちょっと友達とくるい遊びをすると羽織の紐がとれ、先生に叱られるやら、下駄のはな緒が切れるやら、雨降りは高下駄にて歯が抜けるやら、雨傘が破れるやら、雪の日、風の日などは傘の骨をよく折らかしたものです。

今から思うとよく過ごしてきたものだと、しみじみ感じさせられます。親たちも大変でした。校長先生も棚橋重五郎先生にかわり、秋山勘次郎校長は退職され、自宅広見町へ帰られたと聞いていました。

昼食は、学校に近い人は家に食事に帰ったものです。秋の校内運動会は十月十六日と決っていました。それは十五日が恒例の村の祭りで、客に来た人が母校へと集まり、また昼食には、前日のお寿司の弁当の都合もよいという訳でした。低学年は遊戯、走り競走で楽しかった五年生ともなると剣舞等。高等科一、二年生で赤白に分かれ棒倒しが運動会の一番見ものでした。

七月暑くなると、南の校庭半分位はヨシズで日覆を作り、その下で遊んだものです。八月の終りから九月初めに台風がやってくると、棚はメチャメチャにこわれてしまいました。今も校庭にある大きな樫の木、中舎の二階建の前にありました。欅は中舎の便所が北へ出ていた、その西側に植えられていました。北舎の東に機械体操施設や砂場があり、数年後に校舎が新築されました。下の運動場の東南角に校長先生の住宅があり、その裏に農場があって上級生の試作地でした。現在の南窓下が道路で今の農協の所が村役場でした。私等の学んだ面影は、今では何もありません。しかし、小学校のクラスの友人ほど良いものはありません。今でも毎年同窓会を催し、昔話に花を咲かせて喜びあっております。

水電気のおかさ

竹山匡一

私は、明治三十三年十月二十四日生まれで、満七十三才になりました。

鵜沼小学校三ッ池分教場創立以前は、石黒儀三郎氏が寺小屋を経営し、羽織・袴を付けて、自宅の座敷で子供の勉強や花、茶を指導されていました。また、竹山寿夫氏及び蘇原村河合岩次郎氏も子供の勉強にあたられました。竹山寿夫先生は蘇原小学校に転勤されましたが、分教場が創立されたのは、明治二十五年四月で、赤座鶴次郎先生（明治三年一月生）を迎え三ッ池、野村、各務野の三地域の子供が通学しました。其の当時一年生から四年生まで約六十人の生徒を赤座先生が一人で指導された

赤座先生は非常に親切であり、子供に愛着心もありました。

当時、学校へ通学する時は着物をきて、わらぞうりを履いた。式典には羽織、袴を付けて登校いたしました。

三ッ池分教場の敷地は約五畝で校舎は二畝、運動場二畝程度でした。三ッ池分教場の西側に道路があり、西南角に火の見がありました。環境は良く、周囲は杉、紅葉、桜など緑で包まれ、生徒はよろこんで通学いたしました。

運動会は本校まで出かけて参加いたしました。

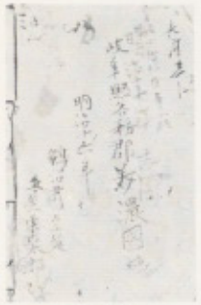
通学中に稲の穂をすっこき〝水電気のおかさ〟に石を投げつけたり、隠れ遊びをしました。五島柳之丞先生になり廊下で三時間程度立たされた覚えがあります。

三ッ池分教場は四年生までで、五年生からは本校である鵜沼尋常高等小学校に通学するようになりました。本校へ行ってびっくりしたのは、学校の建物が非常に大きく又、運動場も分教場に比較して、ものすごく広かったことです。

通学は、本校迄の距離が約四粁ありましたが、今とは違ってみんな中仙道を歩いて行きました。通路の両側には百年以上の樹令の松並木がありました。行き帰りは友達と「カケッコ」をしたり、石の投げ合いをしたりして楽しく通学しました。本校での思い出はいまでも運動場の真ん中に「デン」と構え天をもつらぬく勢いのけやきの木で、これは私達が五年生の時に植えられたものです。

その後、三ッ池分教場が大正十四年七月、時代の流れで鵜沼尋常小学校として、今の第二小学校に移転いたしました。移転する間は三ッ池産業組合の養蚕室で勉強したようです。

思い出は尽きませんが、これにて筆をおきます。



教科書

赤い布の鞄

保浦屋寿

明治四十四年四月一日、鵜沼小学校に入学いたしました。入学の祝として、親戚よりリボンのついた赤い布の鞄と赤い鼻緒の草履をいただき、家では母が絹糸にて縞の機を織って、長い袖の着物を作ってくれました。鞄の中には、修身と読本、石板、石筆などを入れて、長い袖の着物を着て、モスの帯をしめ、左脇に四ッに折った手拭をはさみ、下駄をはいて上級生に連れられ入学いたしました。途中の大安寺川には清水が流れ、堤には西と東に桜木、枝を交え、大安寺橋より約一町程下流の西側に西国四国秩父坂東順廻紀念の石碑が立ち、これを堤の、観音様と言って、朝夕崇拝いたしました。

当時、校舎は南北で二棟建てられており、中央は運動場であり、北の校舎の南西の方に井戸があり、次には大正天皇御即位記念樹として、松の木二本が植えられました。大きな樫の木、松の木、しだれ柳、銀杏が有り、校舎の周囲には、たくさんの木が植えられていました。校舎の裏には、けやき、銀杏の木が今なお、明治、大正、昭和の代を知りながら残っております。緑の木々の下で友と遊んだ遠き昔のことが、懐かしく思い出されます。

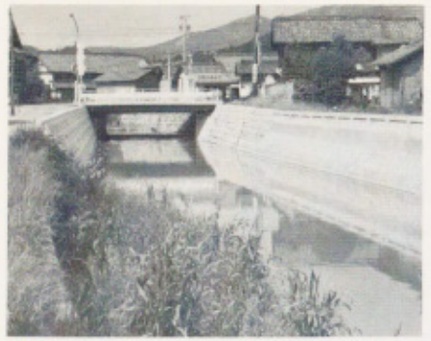
当時、六年生は男女共学、先生は校長先生と裁縫の先

生など十四名。教室は十三教室の他に、事務室、裁縫室唱歌室、宿直室がありました。

明治四十四年の新入生は、羽場が六名、西町九名、東町七名、宝積寺一名、南町一名、古市場二名、小伊木五名、大伊木六名と全部で三十七名入学いたしました。

一年の先生は、羽場の尾関先生で大きな掛図の絵を見て勉強しました。

明治四十五年、二年生の時、校長先生が転勤に付き、可児郡広見より秋山校長先生をお迎えしました。また、八月私共国民の祈願の甲斐もなく、遂に明治天皇御崩御遊ばされ、大正の御代となりました。二年生は箕浦先生三年生は西町の梅田先生、四年生は小伊木の加藤釣次先生、五年生は西町の武藤先生、三ッ池の竹山先生、石黒先生、六年生は柴山先生でした。なお、五年生からは三ッ池分校より、七名の方が、本校へ移って来られ、同級生がふえて非常に仲睦まじく勉強いたしました。七十才の歳を重ねた今もなお、恩師の面影を忘れることが出来ず感謝しております。



現在の大安寺川

当時、遠足は元禄袖の着物を着て、袴をはき、弁当は白の風呂敷を肩たすきにとり、薬草履で徒歩にて、一、二年は各務野の小松の茂る松林、三、四年は前渡の不動明王、五年生は関の吉田観音、六年生は岐阜歩兵第六十八連隊へ、軍旗祭の見学に、いずれも楽しい遠足でした。校内運動会は、十月十六日と定められ、天高く万国旗を飾り、音楽隊も勇ましく非常ににぎやかで参観者も多く盛大でした。三大節には、校門に大きな国旗が、かかげられ村内有力者の方々の御参列をいただき、私共は、紋付の着物に袴をはき、式のお祝の菓子をいただきました。

大正二年、北の校舎が新築されて、教室もふえてきました。大正四年御即位の式典が挙げられ、その時は、

〝大正四年の秋半ば、昇る朝日の空高く、
世界を照らす大君の、目出度き御代の即位式〟

この歌を歌って、日の丸の旗を持ち、中仙道を旗行列してお祝しました。その日は、各分団毎に国旗を作り、それを先頭にたてて登下校しました。

大正五年頃、小伊木護岸の石が紛失のため、岐阜県の「岐」の字を石に書きに行きました。当時の運動場は、現在の上の段のみで、現在下の運動場は、全部桑園にて中央には、西町より古市場に通ずる農道がありました。学校西にある大島文具店は、当時、私共の文房具を購入する六十年以前からの忘れることの、出来ない大切なお店です。

大正六年三月二十六日は四十二名、六年間の在学を終えめでたく卒業し、先生の面影を慕いつつ、西と東に別れていきました。月日の流れは早く、六十余年の長き歳月を経て、今なお、ありし昔の学生時代の懐しき友達の名前と学生姿の面影を忘れることが出来ません。

卒業生アルバム

鵜二小校下明治時代
卒業生座談会

【出席者名】

奈良村寛一　小藤ふさえ
伊藤　敏　伊神勝次郎
伊藤影一　早川真吉
伊藤　力

司会　明治時代の学校の特色についてお話ください。

伊藤(影)　私たちのころは今のように物が豊富にありませんでした。ただ買った物は帽子ぐらいで、あとは親が作ってくれたかばんから弁当箱の袋、足にはく物までみんな手作りでした。天気が良ければわらぞうり、雨が降れば下駄で、今のように靴下をはく人もありませんでした。当時はまだミシンもありませんでした。

伊藤(敏)　私の高等科のころは、はかまをはいて行くことになっていました。ちょうど私は義務教育の切り替えのときで尋常科五年から高等科四年に行きましたが、次の年からは尋常科が六年になって、義務教育になりました。それが明治三十七年です。その当時は着物でわらぞうりでしたが、雪が降るとぞうりとたびを腰に下げて学校へ行きました。濡れるからはき替えのためです。

でも靴をはく人が二、三人いたので、それがとてもう

座談会風景

らやましかったことを覚えています。

司会　お話が服装のことになりました。どうぞ続けてください。

小藤　私は、大伊木から通いましたが、親に作ってもらったぞうりを朝はいて行っても帰りにはもうちぎれていました。下駄なら帰りには、鼻緒がちぎれてしまうというようなことで、親が「おまえは足に金でもつけとるのか」とずいぶん叱られたものです。

やはり服装は着物でした。下着はそのころ、まだズロースが無くて腰巻きでしたが、一年生のころはからだが小さいし、腰巻きは大きいし、さがらかしてしまうので帰りはかばんの中に腰巻きを、押し込んで帰りました。（爆笑）

奈良村　男の子も殆んど、さるまたをはいていた子はありませんでした。そのころは、かすりの着物が上等でした。母が手で織ってくれた、こうじまのシャツに、もも引きをはきました。

司会　では、運動会などはどんな服装でしたか。また

どんな演技をしたのですか。

奈良村　運動会の服装は、やはりこうじまのシャツに、もも引きでした。もも引きには、ボタンがないので走っているとチョロチョロかわいい物が見えることがありました。（爆笑）

伊神　五年だったか六年だったか、運動会に運動場から西町の方へ出て、大安寺を回わって、学校へ帰ってくるマラソンの競技がありました。私がいかにも早く、みんなからほめられ、うれしかった思い出があります。そのころはみんな裸足で走りました。

伊藤(敏)　運動会の裸足はずいぶんあとまで、続きましたね。

そのころは、跳び箱がまだありませんでしたね。だから、運動会も跳び箱運動はなかったのです。

小藤　遊戯としては「はとぽっぽ」のようなものを、やりましたね。

伊藤(力)　騎馬戦をやったことを覚えています。今のように帽子をとるのでなく、馬に乗った人を落としてしまうやり方でした。遊戯では白虎隊をやりました。

吉野をいでて　うちむかう
飯盛山の松風に
なびくは雲か白旗か
ひびくは敵のときの声……

白虎隊は、とても人気がありましたね。終わるとすぐ

い拍手でした。

伊藤(力)　運動会のとき、リレーで五十人のうち八人選手を選ぶのですが、私もその中に入りました。「おまえのおやじは村会議員だから頑張れよ。」とみんなに言われたのですが、六回走るうちに始めはトップ、二回走って尻っぽになった時は、はずかしかったですね。

司会　遠足や修学旅行の思い出はどうでしょう。

小藤　一年から四年までは、各務原市内ばかりの遠足でした。こづかいさんもついて行って、お茶を沸かしてもらいました。五年生のときは、観音様を越えて鵜飼の渡しを回わって、学校へ帰るコースでした。

奈良村　春の遠足は、小学校四年生まで弁当だけで、こづかいは二銭か三銭でした。前宮の木曽川の川原か、前渡のお不動さんが目的地でした。はかまをまいて行った子は少なかったようです。当時は、一銭で大きなせんべいが七、八枚買えました。おまんじゅうなら二、三個きました。木曽川の川原で握りめしを食べて、そのおいしかったことを今でも覚えています。

伊藤(力)　遠足で、名古屋の築港へ行ったことがあります。きつね寿司と水筒を持って行きました。そしたら、ひとりの子が水筒にお茶でなく、ラムネをつめていったんです。当時、ラムネは三銭から五銭しましたが、ラムネをもらっておいしかったことを覚えています。ラムネってこんなにうまいものかとつくづく思いましたね。

伊藤(敏)　名古屋へ共進会を見に行ったときのことです。木曽川から舟でくだって、黒田の辺で岸へ上がって、木曽川の駅から名古屋へ行きました。二晩とまって共進会を見たのですが、その帰りは徒歩だったんです。

八里の間を歩いたわけですが、喉が乾いて川の水を飲もうとしたら、「毒やでいかん。」と先生から言われ、とても辛かったです。むかしは、岐阜へ行くにも木曽川を舟でくだって、笠松で上がり汽車で行きました。岐阜の農林学校や昆虫研究所も見ました。いつの遠足でも行きは良かったのですが、帰りがとてもえらかったことを覚えています。

伊藤(影)　垂井の南宮さんに行ったときのことです。向こうへ着いたらある家の二階の部屋から「いなかの学校」と言ったので、十人ぐらいの子が怒ってけんかをしようとしました。先生が「はじになるから止めなさい。」と言われやめましたが、ほめられたり、叱られたりした思い出があります。修学旅行の思い出ですが、

前渡不動

大垣で一泊した旅館の話です。私たちは当時、井戸で水を汲み上げていて水道はありませんでした。ところがこの旅館は、栓を抜くとひとりで水が出るので、とても珍しくおもしろかった覚えがあります。京都で自動車を見たことも思い出です。

司会　当時の遊びの様子はどうでしたか。

小藤　女の子は、おはじきと今ではお手玉と言いますが、当時はご所玉の遊びをよくしました。石でおはじきもしました。

伊藤(力)　パンツーをやりましたね。めんこのことです。ボール紙の厚い丸いのを山のように積んで、箱にたまるのが楽しみでした。学校では、陣どりをよくやりました。今のけやきとかしの木を陣にして、やったものです。

伊藤(勝)　ベースボールは、当時もよくやりました。だいたい今のようなルールですが、四角ベースでやったり、三角ベースでやったりしました。ボールもゴムボールですが、親がなかなか買ってくれませんでしたね。

司会　当時の食糧事情はどんなふうでしたか。

奈良村　私らの一年から四年生ごろまでの弁当は、ごはん・梅干し・大根づけでしたね。中にはさつまいもを弁当に持ってくる子もいました。今と比べると家畜の食べるような物を食べていました。

伊藤(力)　家では麦飯でした。でも学校へ持っていく弁当は、母が麦飯のくろへちよっと白い飯を入れてくれました。さつまいもを大きく二つに切って、弁当箱に入れて、一週間に二日ぐらいは持って行きました。冬になると、白もちやきびもちを二、三きれぐらい焼いて、たまりをつけ持って行きました。「きょうはもちやぞ。」と喜んだものです。家では麦めしだが、学校へ来ると白飯が食べられるというので、嬉しかった記憶があります。

奈良村　お菓子は、お菓子屋の坊ちゃんが食べるくらいでふつうは食べれなかったですね。

伊神　大伊木は田んぼが無かったし、米は陸稲でとるぐらいでした。だから、米は買って食べる程度で、麦・さつまいもが常食でしたね。

伊藤(敏)　お弁当のことですが、近い家の子は家へ帰って食べました。

司会　そのほかどんなことでも結構です。思い出話や学校への要望がありましたらお話してください。

伊藤(影)　当時、男の子は丸ぼうずでしたが、家にバリカンというものがあって、みんな家で頭髪を刈ったものです。バリカンが切れないので、髪の毛が歯にくいこんで痛かったり、あわてて刈ると虎刈りになって、笑われたことがあります。

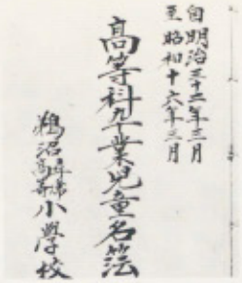
伊藤(敏)　女の子はお下げでしたね。ふつうは後でくくっておきました。頭を今のようにあまり飾らなかったですよ。

奈良村　私たちのころは、教育勅語が教育の根本でした。教育勅語の精神が、そのまま教育の教えでした。天皇からいただいたものを、私たちはうや〳〵しく、心やからだを通して学び、国のため、天皇のためにつくすという臣民としての自覚を高める教育でしたね。

伊藤(敏)　修身の時間には必ず、教育勅語と戊辰証書を一回暗唱させられました。それでだれもが、そらで言えました。

奈良村　私たちが、学校を卒業するまでは必ず、毎朝全員が校庭に集まり、東の方を見て、天皇陛下に最敬礼をしてから授業にはいりました。修身の時間は、全員起立して、教育勅語の奉読をしてから修身の授業をやりました。

伊神　学校へのお願いで申しにくいのですが、この間授業参観におじゃましましたら「蔵」ということばを教えてみえました。みんなが読めるようにはなったのですが「蔵」とは、何を意味するのかの説明が少しほしかったと思いました。テレビとか、絵なんかに出てくる、「蔵」を思い出させるような工夫をしていただくと、いいなあと思っていました。



奈良村　五十年も年代が違っているので、感覚が違っているかもしれませんが、日本の教育もかわってきたことは事実です。民主的で良い面もありますが、教育の内面につながる底辺には、昔も今も一貫したものがあると思います。今の教育にもっときびしさがあって良いのではないでしょうか。

ずっと私は、二十軒の分校でしたが、一年生から四年生まで赤座先生でした。この先生は、三十何年も先生をしておられたが、いつも竹のむちを持っていてちょっと悪いことをすると、頭をピンピンとたたかれました。

伊藤(力)　尋常三年生のときでした。小伊木の加藤先生は、いつもむちを持ってみえました。この先生をみんなは「おねぶた先生」と言っていました。「先生がねむっとられるでいいわ」と思って、ほかごとをしていると「何やっとる!!」と言ってピシャン。今思うと、先生も百姓、家へ帰ると忙しいので学校でねむたいだろうと思うのですが、ねむってござると思うと、そうでなく、ピシャンとくるので不思議でならなかったですね。

伊藤(影)　当時は「三歩さがって師の影を踏まず」の精神でした。目上のものをだいじにし、目下のものをいたわる精神が、一貫していましたね。忠に孝にとか、親に孝にが、基本でしたね。

伊藤(敏)　今の子どもは、昔のことをいうと「昔くさい」と言いますが、昔のことを知って、今の時代を生きることもだいじではないかと思います。ああ、昔は、そのようだったのか、いいところはこうだ、と昔の良いところも受け入れてほしいのです。学校の教育もそうであるといいなあと思っています。

司会　いろいろお話、ありがとうございました。

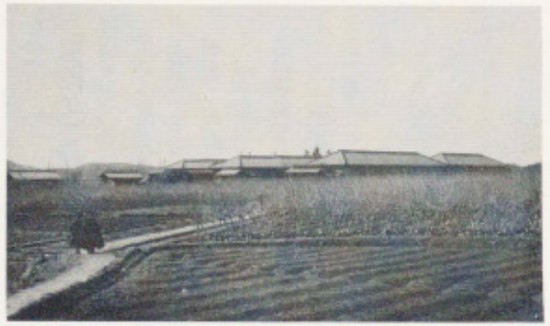
☆☆☆☆●☆☆☆☆

各務野附近

第一校下明治・大正時代
卒業生座談会

【司会者】
石田幸彦

【出席者氏名】
山田武一
横山重夫
渡辺正勝
大栗　実
武内治助
広江義一
土屋利男
勝野春市
坂井源吾
山田　勇
大竹太郎
（順序不同）



当時の学校風景

司会　在学時代の校舎や校地などの様子は、どのようでしたか。

勝野　現在の学校の上の部分の南北に校舎があり、小

さな規模でした。その当時は、六十人ぐらいの生徒が、男女に分かれ二教室で指導を受けました。

司会　南北の校舎の話が出ましたが、南校、北校については、どうだったでしょう。

山田(武)　南校は古市場にあり、北校は西町にあった。しかし濃尾震災で校舎が倒壊し、南北の校舎が現在の地点に合併した。明治二十三年頃のことだから中央の位置を決めるにも歩いての歩数で決めたようだ。また道の西側か東側かについても、だいぶん問題になったようだ。

武内　現在の上の運動場の南北両方に校舎があったがその中央に二階建ての校舎もあった。

司会　今の鵜沼の様子と比べ当時の鵜沼地区の様子はどうでしたか。

広江　その当時の教育に対する関心は北の方(羽場、西町、東町)が強かったようだった。欠席者も北鵜沼は少なく、南鵜沼の方は欠席が多く先生が、いつも注意しておられたように記憶している。

南校の跡

司会　第一次世界大戦の頃の、世情はどうだったですか。

渡辺　あまりわからないが、この当時は、時代の流れが軍国主義に染められ、あちこちで出征のことが問題であったようだ。そのほかはあまり目立つ変化がなかったようだった。

山田(武)　明治四十三年に戦勝気分で浮いていたが、渡辺さんの言ったように大きな変化がなかったな。

大栗　欧州戦争で景気がよかった。日露戦争では景気の上昇はなかったようだった。

司会　当時の服装やはきものなどについて、お話しください。

山田(勇)　当時の学校の服装は、着物にわらじばきであった。でも式典のときには着物に、はかま姿であった。大正二年に父親に靴を買ってもらい、それをはいて学校へ来たら、みんながめずらしがって、ひやかしたりするので、とう〳〵学校へ靴をはいてようこなんだことがあった。そのあとは、ぞうりばきだったし、着物では親が織ったパンパンの木めん物を着たりしていた。

大竹　昭和七年でも、三分の一ぐらいが着物であったし、六年生まで着物で続けた者が五、六人もいた。この時代は昭和の世でも一番不景気だったようだ。

大栗　私が学校に来ていた大正十一年か、十二年頃、六年生でひとりだけ服を着ていた者がいた。それは各務原の駅長の息子だった。みんなもびっくりしていた。

坂井　話が少し変わるが、勉強の中に書き方や歴史があった。勿論、読み書き、ソロバンに修身もあった。また唱歌も一週間に二時間ぐらいずつ教えてもらっていた。

校長　唱歌とは、今の音楽とちがいますか。

坂井　そうですね。唱歌とは歌うことばかりで、楽器などなぶることがなく、オルガンも先生がひくものだと思っていた。

広江　五、六年になって地理、歴史があった。毎日一時間ぐらい修身で、毎朝教育勅語を暗記することをやっていた。午後になって唱歌や歴史があった。修身の内容は「よい人」を作る目的だった。

山田(勇)　体操の時間に雨が降った時などは、えらい人の話などばかり教室で聞いたものだった。

司会　遊びはどうだったですか。

土屋　子どものころの遊びとしては校舎の南側にあった「ねた松」を中心にして、陣取りを多くやったし、女はお手玉をやっていた。また、男はパンコショをよくやっていた。

山田(勇)　男はベースボールを好んでよくやった。その他に、私たちはよく陣取りをやったし、この学校にも大正七、八年頃にテニスコートもできた。

通知表

司会　今の子の遊びと変わっていたでしょうか。

土屋　あまり遊びも変わっていないようだね。

坂井　でも今の子は、はりごまやまわしごまをやらないし、多分知らないだろう。昔の子はよくやったものだった。

大竹　輪まわしをやった。ちょうど自転車のリングみたいなものを金で作って……木の棒で回して遊んだものだった。

坂井　私たちもよくやったが、当時は竹の輪で作ったものだった。

司会　では、書物について、よく読んだ本はどんなものでしたか。

大栗　壇団右ヱ門や猿飛佐助など一晩に一冊ぐらいづつ読んでいたし、友だちとも交換し合って、どんどん読んだものだった。

大竹　私たちの時代になると乃木大将。東郷元帥など軍国調のものが多かった。それに肉弾三勇士もあった。

司会　先生の思い出について話してください。

横山　入学は大正十五年四月だったが、軍事教練をよくやった。先生も竹の根っこで、子どもの頭をなぐられたし、水をバケツにいっぱい入れて両方に持たされ、廊下に立たされていた。そのくらいきびしい先生がおられたと　記憶している。

勝野　昔は宝積寺で遠かったし、おおちゃくかったの

で、途中で弁当を食べたり、山へ行ったりしたので勉強ができなかった。でも、これに似たことは、他の部落でもあったのではないだろうか。（笑い）先生によくしかられたものだった。それも勉強を第二と考えていたからだろう。

大栗　加藤先生は、こっくり先生で、生徒が授業中によくねておって、おおちゃくをしていると後からそっとやってきて、竹の根っこのムチで机をたたいて、びっくりさせることをされたり、なげとばされたりした子がいた。

大竹　野村先生は、ことばがあらく大声であったのでびくびくしていたが、たたいたりはしない先生だった。後藤準先生は、とにかくこわい先生で、だれもがびくびくしていたものだった。だが、どの先生もよい先生だった。

教科書

司会　当時の遠足、修学旅行などはどんな様子でしたか。

武内　明治四十五年ごろ前渡の不動山だったし、尋常六年のときに、はじめて電車に乗って、名古屋の築港へ行った。遠足には、わらじを作ってもらったり、弁当を作ってもらったりして、肩にかけて出かけたが、うれしかったものだ。帰りには野原でわらびとりをして遊んで帰ったが、楽しいものだった。

勝野　大正になっても、遠足は前渡不動や各務原飛行場だった。そして、修学旅行は名古屋の築港だった。

大栗　大正の終わり頃（十四、十五年）六年生では、伊勢神宮へ行くようになった。

横山　昭和六、七年頃になると、伊勢神宮へ、また昭和八年に高等科二年の修学旅行は京都、奈良へ行っていた。

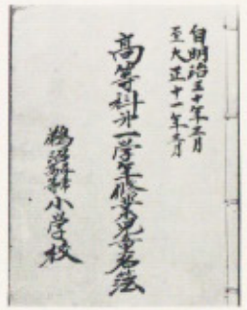
土屋　その後、このコースが長く続き戦争まで続いた。

大栗　御大典記念のとき一年前へ繰り越して京都、奈良への旅行をしたこともあった。

大竹　その時分、昭和二年に天皇がこられた時、土下座して、頭も下げてお迎えしたことがある。その時、通られるとき頭を下げていて、天皇陛下のお顔が見られず頭を上げた時分には遠くの方だったものだ。（笑い）

司会　奉安殿についての思い出がありましたら、お話し下さい。

山田(勇)　大正天皇がおなくなりになり、御真影をお返しする時、人力車で持って行かれた。児童は皆喪章を



修業児童名簿

つけて、お送りしました。お

大竹　奉安殿ができたのは、昭和十一年か十二年だと思う。

通信簿

修業証書

山田(武)　羽場の西まで私たちは迎えに行った。御真影の前での儀式では、緊張したものだった。教育勅語のうちは鼻をすすってもしかられたぐらいだった。大正のはじめ頃は、皇室や目上の人に対する考え方が、だいぶん違って来たようだ。

司会　けやきにまつわる思い出話がありましたら、お聞かせください。

広江　栗木先生が植えられたと言われるが、当時は小さかったが、何年ぐらいたっているだろうか、かれこれ七十年ぐらいになるのかな。

土屋　真中になったのは、中央にあった校舎を取り壊したからで、もとは、横の方だった。むしろ昔は樫の木が中央だった。私たちは樫の木の方が思い出が多く残っている。この樫の木のすぐ北に二階建てがあった。

広江　そうだね。その二階建ての南に職員室があった。

司会　戦争があったりしたが、小さい頃の弁当についてはどうでしたか。

武内　羽場、西町、古市場などは、弁当を持って来たことがなかった。みんな走って食べに行ったものだった。大雨のとき、たまに弁当を持って来たぐらいだった。

大栗　弁当箱なんか使わずおにぎりであった。

山田(勇)　大伊木だったので弁当持ちだったが、弁当箱も同じところに同じように梅干しを入れておくので、そのところだけ穴があいてしまっていた。

大竹　味噌汁を冬の間だけやっていたが、薪や大根などを家から持ってきて作ってもらって食べていたが、おいしく食べたものだった。

大栗　お茶当番があって、木の桶で運んでいたが、廊下でつまずき、ころんでやけどをした子もいた。

広江　米もたしない時代なので、弁当持ちが少なかった。例えば、六俵の米を生産しても三俵が年貢、二俵がお金、一俵が食糧といった具合で、米を十分食べられなかった。従って弁当を持って来る余裕がなかった。芋を食べたり、餅を食べたりしたが、これにもひえ、あわを混ぜたものだった。弁当を持って来たくても、持って来られない時代で、クラスの者が揃って弁当を持って来たことがなかった。

山田(勇)　大伊木は、約四キロも歩いて通う遠い所で

あって、どうしても弁当が必要だった。だから弁当だけ別たきをしてくれたし、芋の産地でもあったので、芋弁当のときも多かった。畑地ばかりの部落だから米は全部買っていた。

司会　今のＰＴＡ活動のようなものは、あったでしょうか。

武内　学校生活八年間のうち、親が学校へ来たということは、一度もなかった。また、いたずらをして親が呼び出されることもなかった。

大竹　私たちの時代で一年一回ぐらいあった。昭和七年頃からで、一月か二月頃に来ていたようだ。

勝野　父兄会と言うこともなかったし、この当時、学校へ来ていたら食って行けない時代でもあった。子どもは先生にあずけ任せっぱなしにするものだと考えていた。

坂井　部落を先生が回って歩いたのも戦後のことだろう。

山田(武)　一般の者も学校へ来たことがないし、来る用事もなかった。だから学校へは、村会議員ぐらいが立寄った程度だった。

教科書

勝野　当時、先生のひいきがあった。私より習字が下手でも村会議員の子どもであったため、上へあげてもらっていた。

司会　休けい時間を少しとります。（休けい）

司会　このあと自由に思い出を話し合うことにします

山田(勇)　運動会は昔からあった。私（六十九才）は、おじいさんに手を引かれて見に来たことを覚えている。

山田(武)　昔からあったが、種目は走りかい、綱引きぐらいだった。

司会　今とあまり変わりないですね。

山田(勇)　賞与があった。これも成績によってあったもので、一等賞だと読本（国語）。二等賞は修身の本。三等賞は習字の手本をもらっていた。

大竹　私たちの頃は、一等賞は全科目に対するもので、皆勤などもあった。私も三等賞をもらったことがあるがジャバラの木のすずり箱だったが、今でも大切に持っている。その他に進歩賞もあった。

大栗　行ないが、おおちゃくかったので二等賞ばかりでいかなんだ。やはり学業、業務、操行、の三つともよくなければ一等にはなれなかった。が、高等科ではじめてやる気を出してやったので一等賞をもらった。

山田(武)　そうだ、おおちゃくい者は成績がいくらよくても一等にはなれなかった。話は変わるが、高等科の授業料が大正六年頃で、年間二十五銭だった。

司会　二十五銭と聞いても、ぴんとこないが現在の金では、どのくらいですか。

山田(勇)　雑記帳でも一銭だった。三銭の雑記帳だと、分厚くて、使っていてもあきてしまうぐらいのものだった。ふつうは一銭のものばかりだった。

大竹　私たちの頃では、一銭に飴が十三個ぐらい買えよった。

司会　その他学校の行事などで、楽しかった思い出などありましたらお聞かせください。

山田(武)　三大節（天長節、紀元節、明治節）は厳粛だった。

坂井　もらったものというと、紅白のまんじゅう、せんべいなどで、式はきびしかった。また、はかまをはいて式に出ていた。

山田(勇)　当時にも校医さんが来て診察していた。トラホームの子は、赤い印をつけ、登校の列の中にも入れてもらえないし、教室の中でも机を横の方におき、遊んでもくれないといった別扱いだったので、子どもでもいやなものだった。

司会　当時の校医さんが診られたのは、どの程度でしたか。みんな目だけだったか。

大竹　私たちの時代には、目と歯を診るようになった。

山田(武)　目は沢田先生だった。この当時は長い間この先生だったようだ。

司会　最後に、一言づつ学校の行事や思い出、その他、今の学校についてでもよいが感じて、おられることを話してください。

山田(武)　私の尋常六年は、大正二年頃でその頃の指導方法などは、今の学校と比較して大きく変わっている。昔のよい点を取り入れていきたい。昔の子どもが学校へ来る考え方と、今の子が学校へ来る考え方とは、根本から違う。学校の在り方も、もう少し昔のものを取り入れたらどうか。

渡辺　昔は子どもを無視していた。先生が生徒を理解していなかった。例として、尋常小学校五年の時、土屋という羽場の先生がいて、掃除をしていてよい子は良、よくない子は不良を、つけてもらっていたことがあったぐらい、掃除に熱心な先生だった。ちょうど大掃除になっている日に部落の山すぐりを手伝うため、全部が迎えに行くのだが、先生に話しても認めてくれなかったので、みんなは、おくれてしまうといって逃げ出してしまった。あとでしかられたが、この時先生が少し考えてくれたらと思った。

広江　学校のことで感じていることは、きつい先生ほど親しみがあり、また、記憶にも残っているもので、今の子に対しても、もっときびしく躾けてもらうことが望ましい。

坂井　学校へ行くじぶんには、習字の紙は新聞紙を使

い真黒になるまで手習いして書いたものだが、当時新聞をとっている人も少なく、私は大安寺や郵便局でわけてもらったものを、切って綴って持っていった。

もっと物を大切にする指導を望みます。

勝野　先生のむちは、竹の根っこでした。もっときびしさがほしいね。

土屋　昔は一番こわいのが親で、次が先生で、その次が警察だったと思う。そこで、先生と生徒の間には、隔たりがあったものだが、先生と生徒とは、現在同一的であるようで、友だちのような結びつきに見られる。こんな教育で果してよいかと疑問を持つことがある。昔の教育の中のよさを取り入れて、親子のつながりの面も教えてもらうとよい。

武内　先生と子どもの感じでは、先生とのへだたりをつけた方がよいのではないか。また、先生のことばも強くして、しかってもらった方がよい。

大栗　進学のための教育であるのが、現代の教育のように感ずる。義務教育である小学校では、人づくりをやってほしいと思う。我々の時代は英雄とか、成功した人の話を例に出してよく聞かせてくださったものだった。「あの人に習え」と言われる人になるよう、導いてくださったが、今の子たちにも人づくりを第一に、勉強を第二にして高校でうんとやるようにしたい。

横山　私も同感です。現代っ子は、利己主義的な傾向が強いのではないか。他人のことも考えられる人づくりをしてほしいです。

大竹　小学生らしくない小学生であるように見うけられる。先生方へのお願いとしては、子どもに先輩、後輩の考え、気持ちを教えておいてほしい。

大栗　日本が戦後、こんなに復活したのは、教育勅語があったからだと、西ドイツでは見ているそうだ。

山田(武)　小学校の先生ほどむずかしい職はない。正直な教育を教えているが、大人になったら、すぐ要領よくなければならないので、さっと切り替えられる弾力性のある子を育てる必要がある。

山田(勇)　塾の場合を見て思うことだが、学習の最中でもばたばたやったりしているが、でも、きちんと覚えるところは覚えているようだから、しかるばかりでは、いけないと思える。

大栗　戦後マッカーサーが、日本人のきんを抜いてしまったのを、入れなければならないので、先生はえらいだろうと思う。

山田(武)　真面目ばかりでも、世へ出て大成しないし、成績のよい者でも、駄目なこともあるので、成績ばかりを重視しない教育になってもよい。

広江　私たちの年頃では、学校でよかった者は、現在あまりよくないようだ。

武内　そうとも言える。中間の者が、一番よいようだ。

学校長　"骨のある人間を作る。"ことに努めたい。

山田(武)　母校の昔の話や、今後の学校の歩む道について話し合ってもらったことは、意義のあることだ。

司会　では、今日の座談会をこの辺で終わります。貴重な体験談やご意見、ほんとうにありがとうございました。

明治32年卒業生

努力

広江美之助

一、感化を受けた時代

大正十五年に鵜沼尋常小学校を野村義一先生・昭和二年に鵜沼高等小学校を栗木謙二先生の担任で卒業した。

両先生は、私にとっては、今ではペスタロッチにも匹敵するほど熱心な教育者であった。幼年期の心の芽生え時に、この両先生に担任されたことが、私に必ず教育者になろうという決心を起こさせたのである。

そして、私の生涯は、この両先生の良い面を真似して、それを鑑として生きている。私はここに両先生に対し、心から感謝の意を表する。

二、発奮時代

野村・栗木両先生の御教訓、特に栗木先生の受験指導のお蔭で、愛知県第一師範学校本科第一部に入学することができた。入学してみると総てが軍隊式教育で、心身共に鍛練された。その鍛練が、何くそという男の意地と発奮に発展した。そして、勉学と運動部（角力）とに死にものぐるいで精励した。

まず、角力では師範学校四年生の春に、全国中等学校角力大会で優勝した。この時、角力精神で勉強すれば、いつか目的を達することができる。という自信を得た。この優勝を機会に土俵を去り、かねてからの宿望の植物学の勉強に入った。幸いに恩師、田中和三郎先生が懇切に導いて下さった。そして師範学校卒業式に、皆勤賞と植物学科優秀賞の恩賜記念賞の銀メダルを授与され、自分の健康に自信を持ち、今後、角力精神で植物学を征服するという理想に燃えた。そのために引き続いて愛知一師専攻科を受験し、入学した。専攻科では佐藤和韓鵠先生について植物学を学び、文部省中等教員検定試験を目標とし、かたわら大学受験を夢みて、英語とドイツ語を勉強した。

この間、私の志を理解し、私を推し、私に経済的援助をして下さった養母、広江はつ女史には、毎月の命日に仏前で感謝の念を捧げている。

三、苦学時代

昭和十年三月二十日付、愛知一師専攻科卒業。昭和十年三月三十一日付、名古屋市高蔵小学校訓導。昭和十六年七月十日付、名古屋市立第二高等女学校教諭。昭和十七年九月一日付、京都帝国大学入学。以上七ヶ年は、私の苦学時代で、勤務先と名古屋市立図書館（夜間）との往復が日課であった。書斎には何時も「死」の一字だけが筆太に輝やいていた。この一字は、現在もなお書斎に掛けているが、その意味は「これが最後という死」と、「人生如何にして、何をして死すべきかの死」との、私の哲学観である。

昭和十六年に名古屋市中区南大津町通の東文堂書店から「尾張定光寺山の植物」の著書を出版した。

四、学生時代

京都帝国大学理学部植物学教室所属として、入学した私は、年来の宿望が爆発して、ただ一筋に学問の道に精進した。名古屋に残した妻、甲子とその実母（森本かい女史）が、献身的に私に協力し、援助してくれたお蔭で無事に大東亜戦の終結と時を前後して、京都帝国大学卒業式に列席した。

五、学位論文時代

昭和二十年九月三十日付、「京都帝国大学助手、理学部

勤務を命ず」の辞令を授与された。

これでいよいよ学究の一人となり、卒業論文に引きつづいて、「せり科植物の分類地理学的研究」を行なった。私は、せり科植物の分類に細胞学の遺伝質である染色体の数と型を、従来の外部形態による分類学に織り込む方法を考案（世界で最初）し、その結果を小論文で幾つか発表した。この仕事が、カリフォルニヤ大学コンスタンス教授に認められ、招聘を受けて、昭和三十年九月から一ヶ年間、カリフォルニヤ大学共同研究員として留学した。そして、昭和三十三年に「日本産せり科植物の分類学的研究」の論文（一四四頁）を、カリフォルニヤ大学紀要に発表し、同年日本文部省出版助成金を受けて、「アジヤ産せり科植物の分類地理学的研究」の二百十九頁の論文を発表した。この二論文が主体となって、昭和三十七年三月二十七日付、理学博士の学位が授与された。私は学位証を受け取って、神仏の御加護と自分の努力とによったものであることを再確認した。

そして、世に対する報恩精神と、角力精神の血を流した苦闘の結晶が、この学位証であることを偲び、授与式場で湧き出る涙をしばし止めかねた。

六、号後の修業時代

博士号を受けた私に対し、私の帰依している京都、鞍馬寺の天台宗は、なお手厳しく、「号後の修業が生命なり。」の天台宗秘語を、釘付けた。これは博士号（天台宗では雲水を終って、僧侶の号）を受けてから、再度、修業にはいり、それから死ぬまでの業蹟が、その人のほんとうの業蹟であり、それがその人の生命であるというのである。私はこの「天台宗秘語」を実行し、再度研究一筋の道に入った。その結果、世界で五人目（ザックス氏）（エングラー氏）（ウェットスタイン氏）（ハッチンソン氏）の学説として、種子植物の進化系統樹の広江説を立て、その一端を「洋蘭」京都書院（昭和四十六年）から発行、世に公表した。

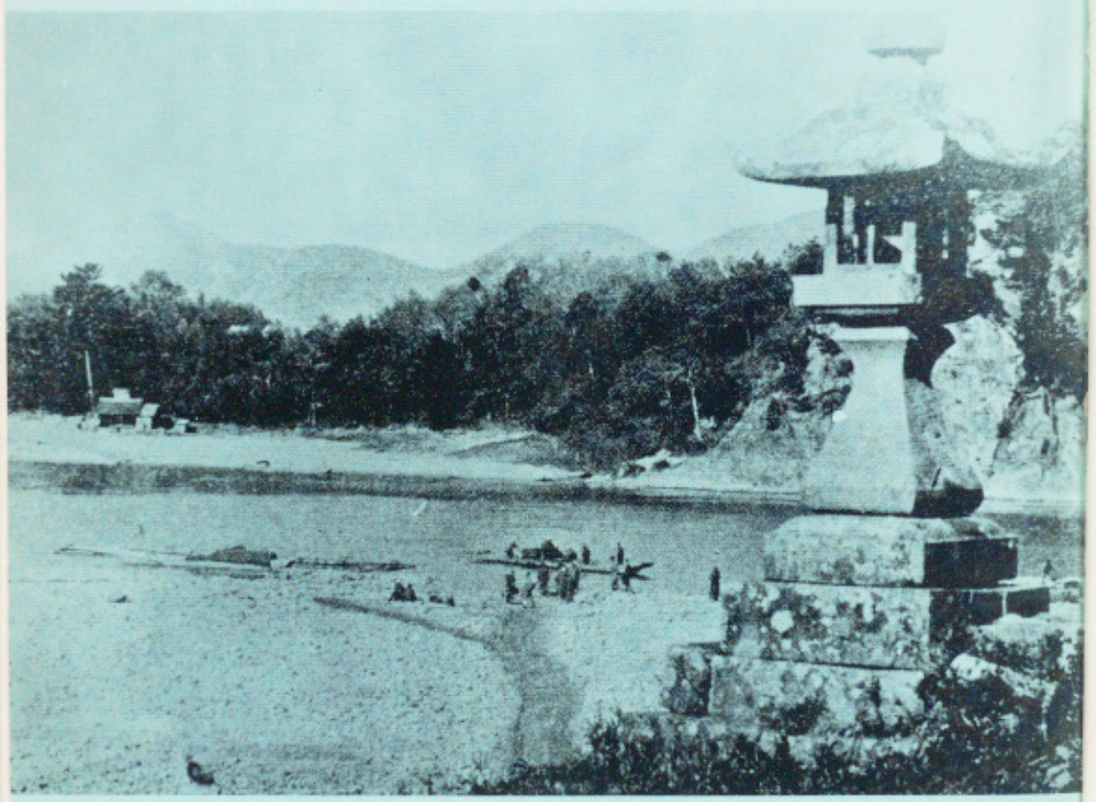
七、人生仕上げ時代

今年五十八才。私は人生の仕上げに入った。古典植物全集二十四巻執筆中、すでに「源氏物語の植物」と「芭蕉七部集」の植物刊行、目下、「奥の細道の植物」と「蕉村俳文学の植物」及び「井原西鶴集の植物」を印刷中である（有明書房）。今尾景年写生帳解説（京都書院）刊行。鞍馬山の植物（くらま叢書）刊行。

桜を世界中に植樹、昭和四十六年には、両陛下御訪欧に花添えて、欧州六首都（パリ市、ロンドン市、ジュネーブ市、ボン市、ゴルッセル市、およびローマ市）の各市に、各々三百本づつの桜を植樹してきた。昭和四十七年十月四日、東京羽田空港発で、オーストラリヤに、日本の桜の使節の副団長兼植樹顧問として渡航する。

炎天の老松、巌をつかみたる
訪豪や期せずいづこも八重桜

大正時代



往時の渡船場

訪豪の旅は赤道を通過し、十月二十日、羽田空港着、帰国手続を終えて完了した。オーストラリヤ、ニュージーランド両国共、八重桜（普賢象）大島桜、染井吉野の満開時で、しかも公害におかされていない見事な花、その花色、花の大きさなど品種改良されていた。今や日本へ逆輸入の桜時代となっている。

今回の旅で、私は写真に示すように、ニュージーランド国、マロニエの花香る、クライスト、チャーチ市で、名誉市民権の証書を受けた。これは、昨年ローマ法王と握手したことと同じく、私、生涯の光栄である。

マロニエや異国の名誉市民権

洋蘭友の会会長、上田秋成研究会会長、京都史蹟名勝を調査の観照会会長、および京都の無縁墓供養会顧問を初め、廃寺院一乗寺跡、修学院跡、外七十三石碑を建立しつづけている。私は、科学で不明の生命と、哲学の霊魂とを同一物と信じ、その存在を信じている。又大切に保持している。

我今尊き使命を荷う　誓って成果を
我今喜び苦難に向う　誓って不屈に生きん

最後に鵜沼第一小学校創立百周年の記念に当り、卒業生御一同の御尽力を謝し、兼ねて御健勝をお祈りします。

☆☆☆☆●☆☆☆☆

South Island Publicity Association
Incorporated

Visitor's Naturalisation
CERTIFICATE

Whereas Dr. M. Hirve

having been born, in all innocence and without deliberate intent, — or being distantly domiciled — beyond these southern shores — AND THEREFORE being geographically underprivileged. AND NOW — having duly taken passage to these SOUTH ISLANDS of NEW ZEALAND is nevertheless granted FULL STATUS of an HONORARY SOUTH ISLANDER with full title & privilege due to this Happy Status. WITH THIS TITLE shall be allowed the Freedom and Right to relax, without let or hindrance in these South Islands in and about whatsoever Bounteous Resort he or she may choose.

GIVEN under the claw of the GREAT MOA. This day of in the year At By the authority of

名誉市民権の証書

大正時代の学校長

第20代　秋山勘次郎校長

第21代　棚橋重五郎校長

第22代　宮脇五蔵校長

大正の歩み

石田幸彦

大正の十五年間、即ち一九一二年から一九二六年は、日本の近代社会の上昇期であり、また、資本主義的繁栄期である。だが、新しい日本の夜明けとも言われる明治、そして華々しい昭和の展開の蔭にあり、存在の薄い時代とも言われている。しかも、この十五年間を歴史的な時期としてみる場合、第一次大戦の勃発によって、日本の国際的地位は最高潮に達し、国内では、大正デモクラシー運動、政党内閣の出現、米騒動の勃発、戦後の反動恐慌、労働運動の誘発、それに加えて、関東大震災による世相の一変など波乱に富んだ時代でもあったと言える。

一方、教育の面では新教育思潮として、自由教育説、人格教育学説、勤労作業主義教育説、公民教育説、芸術教育説、教育生活論、その他、独創的新教育学説などが誕生し、世人の注目を惹いた時代でもあった。

本校の沿革誌を繙いてみると

大正四・一〇・二七　大正天皇陛下御聖影ヲ奉戴ス。

大正五・四・二七　附設鵜沼裁縫専修学校を廃止シテ附設鵜沼農業補習学校ニ女子部ヲ設ク。

大正九・三・三〇　岐阜県知事ヨリ附設鵜沼農業裁縫補習学校施設並成績良好ナルニヨリ金四拾円ヲ交附表彰サル。

大正一〇・一〇・二四　附設鵜沼農業裁縫補習学校ヲ鵜沼農業補習学校ト改称ス。

大正一二・一一　平家建四教室増築起工。

大正一三・六・五　増築校舎落成式挙行。

大正一三・一　三ツ池分教場平家建三教室増築起工。

大正一四・六　増築校舎落成式挙行。

大正一四・七・八　三ツ池分教場ニ移転シ各務原分校ト改称シ三ツ池、大伊木、各務原区尋四以下ヲ収容シ四学級編成認可。

大正一五・七・一　附設鵜沼農業補習学校ヲ鵜沼村青年訓練所ニ充当セラル。

大正一五・一一　第一期工事起工。昭和二十五年五月竣工ス。

校舎二階建六教室　東運動場拡張

第二工事起工

校舎平家建六教室

第三期工事

校舎二階建移転改築（湯沸所）

宿直室、小使室新築

校舎平家建三教室移転（東舎）

校舎平家建二教室移転改築（職員室）

とあり、なお、次のようなことが年度別に付記されている。

大正四年度

○十一月十日　今上天皇陛下御即位ノ大典ヲ紫宸殿ニ行ハセ給フ。本校デハ午後三時三十分学校生徒、在郷軍人、青年会、村会議員、区長、一同、北運動場ニ集合シ、村長、校長、在郷軍人分会長ノ、掛声ニテ万才ヲ三唱セリ。

大正五年度

○十月二十七日皇后陛下ノ御影奉戴ス。

○十一月三日　皇太子殿下ノ立体子礼祝日ナルヲ以テ、祝賀式ヲ行ヒ、職員、児童、在郷軍人、青年会員、村会議員、区長、一同、北運動場ニ整列シ万才ヲ三唱セリ。

大正九年度

経費総額　金六千六百七十三円

臨時費　金四千八百四十二円（雑給）

経済会ハ昨年度来欧州ノ動乱ノ影響ニ依リ、一大変調ヲ来シ諸物価暴騰シ為ニ在来ノ給料ヲ以テ到底生活シ難キニ至リ、八月遂ニ俸給令改正サレ茲ニ前記ノ臨時費ヲ要セシナリ。

大正十一年度

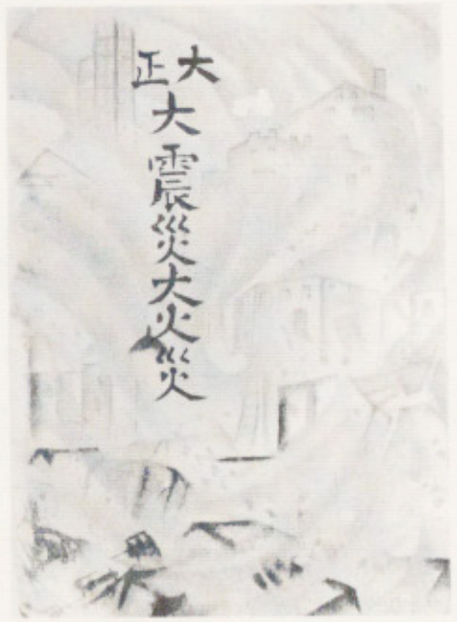
○十月三十日　学制領布五十年記念式ヲ挙行ス。

○十月　農業補習学校ヲ、本校二学級ト、三ツ池分教場一学級トシテ、教員五人デ教授スルコトトナル。

大正十二年度

○九月一日　東京地方ニ大震大火災起リ我国全財産ノ八分ノ一ヲ失ヘリ。

○九月五日　罹災民ノ急ヲ救ハンガ為、日用品、食料品ヲ入レタル、慰問袋ヲ児童ヨリ集メル。七日荷作シ、八日鵜沼駅ヨリ、東京田端駅ヘ向ケ発送セリ。



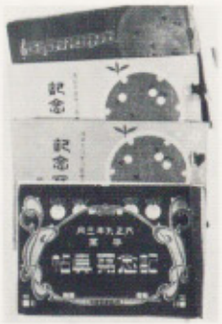
関東大震災

大正時代卒業生座談会

出席者

土屋勝美　狐塚明喜
浅野　保　浅野恵美子
横山釈一　坂井よね
林　元一　勝野すま子
大栗　実　横山みよ子
三輪栄男　大竹助義
伊藤ちと子

司会　石田幸彦
記録　石田洋吉



記念写真帖

司会　大正時代を中心として明治・昭和を通して、この鵜沼第一小学校に在学されました思い出話を聞かせてください。

明治の終わり頃から大正にかけて、本校に在学されました狐塚さんから口火をお願いいたします。

狐塚明喜

狐塚　思い出と言いますと、先生にしかられた事ばかりで本当に、おおちゃく坊主で勉強の方は全くきらいであって、校長先生に全校生徒の前で、その板で両方のほっぺたをたたかれたことを覚えております。六年生の時に廊下の板を全部めくってしまって、

司会　同じように明治時代にお生まれになって、大正時代に在学されて何か思い出とか、記憶に残っていることをどうぞ。

坂井　今の学校と比べると当時の学校は廊下でも寒い風が吹き込みつらかったものですが、それを思うと今の子たちは、窓がちゃんとありよいと思います。

司会　その当時、どんな形で校舎が並んでいましたか。

坂井　上の運動場に"コ"の字型に並んでおりました。

司会　当時、けやきの木がありましたか。

全員　ありました。

林　その木の下でじんとりをやっていたので、直径は……。

大竹　今、坂井さんがコの字型と言われましたが、私は今でいうローマ字のEというわけですが、カタカナでいえばヨの字で、シンボルのけやきは真中の校舎の東側の南北の通路の西側にありました。校舎の並びは、いま

の型そのものと変っていないようです。

司会　当時学校へ来られた時の服装はどんなでしたか。

大竹助義

林　洋服はあまりなかったので、大体かすりの着物で学校へ来たものです。だから、校庭で着物を着て走ったりするのに具合が悪く、服を着て来る子も少しはおりました。それは、一年生の頃のことで、二年・三年……と高学年になると服でみんなが来るようになりました。

司会　ご婦人の方々の運動会の時の服装はどうでしたか。

横山(女)　三年生まで着物を着て赤いハカマをはいていて、走り会の時などたもとの中へ、おかあさんからもらったミカンなどを入れて走り、時々落とす子もおりました。

司会　履物など当時どんなでしたか。

横山(女)　下駄をはいたり、わらのぞうりでした。お盆なんかでないと麻裏ぞうりがはけませんでした。

司会　昔、三大節とか四大節といいまして、式が盛大に行なわれましたが、ふだんの時の服装と式の時の服装とでは、どのように違っておりましたか。

大竹　式の時には、先ほど林さんが言われたが、私たちの小学校の時には、かすりといいまして、小さいときにはかすりがあらく高学年になるほどかすりが細かくなってきていました。このように、かすり一色であったと思っています。

式の時には、持っているかすりのうちで一番いい服装でした。

司会　話題を少し変え、みなさんの子供時分の遊びについて大体年代順にお話してください。

狐塚　男の遊びというと、竹の棒で今でいうベースボールをやって遊んでいました。

横山(女)　女の私たちでは、お手玉・おはじき・縄とびなどして遊びました。

司会　その他の年代の若いところでは、どうでしょうか。

三輪栄男

三輪　私たちの年代は、先生にしかられるので、かくれてパンコをやっていました。

横山　私たちの入学した時は、宝積寺でしたので遊びというと、じんとり・馬とびをやって落し合いなどしたものでした。

司会　学校の行き帰りなどのいたずらについて、少しお話しください。

大栗　勉強はそっちのけで、おおちゃくが主力であった。今は小さいうちから、つめ込み教育をやるが、当時はほんの一部の人がつめ込み教育をやるだけで、あとの者は何でもいいから、先生にしかられないよう学校へ行

けばよいというぐらいでした。

小伊木だったので川での魚とりをやり毎日どろまみれで、暗くなるまでやっていたが、冬は魚がとれないので、その川の氷の上に乗っておち、じょばぬれになったりしたものでした。

土屋勝美

浅野　わんぱく小僧で、ちょうど大安寺川の橋の上から川を見ますと、非常にたくさんのフナ・シロハエなど、泳いでいるのが見えました。朝学校の始まる時間も忘れて、魚とりをやっていたりしましたが、先生に廊下でバケツを持ち、立されたのが印象に残っています。

林　私たちは、家に帰ると何かと言いつけられるので、ご神明様で、かくれんをぼしたり、じんとりをしたりして遊んだものでした。

司会　当時の遠足や修学旅行の思い出などをお話しください。

土屋　昭和の初めに小学校に入学しまして、五年生頃までは、近くの桃太郎とかおがせ池とかへ行きましたが六年生になりまして、お伊勢様へ参拝しました。高等科になって京都、奈良の方へ旅行しました。

司会　遠足なんかで印象に残っていることを、お話しください。

浅野(女)　高等二年の時、戦争が始まりましたので修学旅行もありませんでした。本当に残念でした。

伊藤ちと子

伊藤　私は大伊木ですが四年生まで分校の方へ通っていて、五年生から、本校であるこの学校へ来ましたが、遠足といっても家の方にある前渡方面へ毎年のように行ったものです。

司会　今、分校の話が出ましたが、その当時の児童数とか、先生の数とか、学校の規模について話して下さい。

坂井　私たちのクラスが一番少なかって、四十八人でした。分校の方からは十人ぐらい来られたように記憶しております。

司会　全校で何人ぐらいでしたか。

大竹　およそ六百人ぐらいではなかったかと思います。

司会　それは何年頃のことですか。

大竹　大正八年～十年で、今のように同じ年で何学級もなく、一学級でした。私の高等一年の時に男女別れていたが、女子が六年でやめる子がおったので、男子から女子の方へ行って二組とも大体同じ人数にしておりました。

大栗　実

大栗　大竹さんより三年おそいのですが、私たちは一年生から六年生まで、男だけで七十三名いて、それが一学級いました。高等科になって六十三名になりましたが

進学といってもほんのわずかでした。

林　元一

司会　その当時六年生から昔の中学へ行く人、高等科へ行かないでやめた人などの割合はどうだったでしょうか。

浅野　大正七年生まれで少ない学童でしたので、男子四十八名、女子五十名ぐらいの構成でしたが、五年生になって始めて男女組ができ、三部になりました。高等科へ入った頃には、二割ぐらいが六年生でやめ、八割が高等科へ進学し、その一％が中学へ進学しました。

林　私は実際に明治に生まれて大正元年八月一日から大正の年号に改められた境の年ですので、大正元年生まれで、大正八年に小学校へ上がり、大正十五年に卒業しましたが、その時男子一クラス、女子一クラスでしたが、高等科になって女子でやめる子が多く、男女合わせて五十名ぐらいでした。

横山釵一

大竹　高等科一年では、その通りであるが、高等科二年に至ると非常に少なくなって、奉安殿のご真影の前に並ぶと四列のうち三列が男子で一列が女子といった割合でした。

司会　当時の勉強の科目で先生が特に力を入れられたものは何ですか。

狐塚　修身が第一時間目にあって、精神教育が主体でした。当時の生徒は今と違って清潔さがなくて、紙のない時代も加わって鼻たれ小僧が多く。いつも両腕がびかびか光っていたものでした。

司会　ご婦人の方など裁縫など、どうでしたか。

横山　三年生の時に堀部先生に非常に熱心に教えられました。特に精神教育に力を入れられました。五・六年になって野村先生に受け持ってもらいましたが、ものすごくきびしく、本当に骨を抜かれたような形で熱心に教えてもらったと記憶しています。

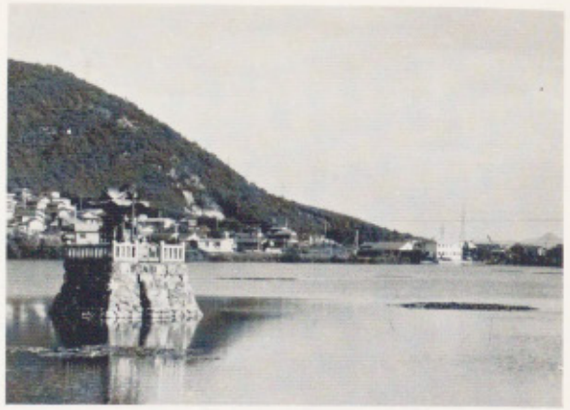
司会　その他に学校時代の勉強についての思い出がありますか。

浅野　私も野村先生に教えてもらいましたが、当時は五ツ玉のソロバンでしたが四ツ玉のソロバンを教えてもらい、ありがたいと思っている。

浅野　保

林　同じく私も野村先生に高等二年に教えてもらいましたが、読み方のかなづけ、漢字、算術のソロバンなど、朝礼前にやりましたが、なかなか一生懸命やらなければならなかった。

土屋　私も高等一・二年野村先生の担任でしたが、珠算に相当力を入れられていて、三十分ぐらいは毎日のようにやりました。そして、先生が何級……とつけ順番に合格して級を上げてもらいましたが、大変苦労したことを覚えています。


おがせの池

司会　他にどなたかどうぞ。

横山(女)　年一回ソロバン大会があり、式場に集まって学年毎に先生の読み上げられるソロバンをやって、間違えた子から外へ出て行き最後に残った者から何級がもらえたわけです。

林　私共は、五ツ玉で教えてもらいました。書き方では新聞紙に練習をし、最後に清書紙に書いて出したりしました。また、講評の甲乙丙とか書いてはり出されていましたが、なんとか丙はとりたくないと思って、一生懸命やったものです。

司会　勉強の内容から先生の方へ進みましたが、これから先生にまつわる思い出とか、先生にしかられたとか、先生がこわかったとかを話してください。

大栗　五年の時、那加の大野先生は歴史が非常に好きで、本などそっちのけで、机の上にまたがり、机の上をたたきながら、講談のような話をよくしてもらったことが一番楽しみでした。

大竹　一年生の先生が広江先生でしたが教えてもらう途中、病気で亡くなられましたが、蘇原の親せきへ行く途中、「これが広江先生の石碑だぞ」と親から教わったので、それ以来先生の前を通る時には頭を下げて通ることにしています。

二・三年生の頃ですが、高山線ができ機関車が煙を出して引っぱっていくのがふしぎでめずらしかったです。

四年生の時は奥田先生で勉強の虫のような先生でした。

高等科一年に栗木先生が担任されましたが、私たち八年間のうち一番、愛と熱を持って教えてくださったと思っています。

狐塚　広江先生の話が出ましたが、私には母親がいなかったので、よくめんどうをみてくださいました。また、ひげの秋山校長先生が一年の我々がこわがるといけないといってそのひげを全部そって迎えてくださいました。

司会　他に先生の話でありましたらどうぞ。

横山　高等科が済んで、青年学校に入った頃、宝積寺は非常に遠いため、野村校長先生が自ら金武先生と共に宝積寺の公民館まで教えに出むかれたことが一番印象に残っている次第です。

勝野すま子

司会　先生方の思い出について他にあ